

葺ニシテ其上ニ小石ヲ載セタルモノ少ナカラズ瓦葺ナル
 モノハ極メテ稀ナリ村落ニ至リテハ笹或ハ茅ヲ以テ葺ク
 モノアリ
 寒地ノ常トシテ衣服ヲ重襲スルハ論ナシ其服裝ハ内地ト
 同ク只獸皮ヲ以テ製シタル胴着ヲ着クルモノ少ナカラ
 ザルハ稍異ナル所ナリ夏日ノ暑熱ハ殆ド内地ニ譲ラザル
 ガ故ニ單衣及衫衣ヲ用ユ冬期ニ至リテハ綿衣ヲ重襲シザ
 ぼん足袋ヲ穿ツモ尙寒氣ヲ覺ユ外出スル時ハ必ズ外套ヲ
 纏ヒ長靴ヲ用ユ
 飲食ハ内地ニ比シテ頗ル美ナリ漁業盛ナルヲ以テ人々魚
 肉ニ飽キ蔬菜ノ類價却テ貴シ只道路不便ノ地ニアリテ專
 ラ農業ヲ事トスル所ニアリテ然ラザルノミ本道産スル所

ノ米穀尙尠少ニシテ殆ド皆之ヲ内地ニ仰グト雖モ細民ニ
 至ルマテ殆ド皆米飯ヲ常食トシ内地ノ農民ノ如ク麥飯ヲ
 常食トシ甘藷稗粟ヲ交ヘテ之ヲ食フガ如キモノ甚ダ少ナ
 シ是レ本道ノ人民ハ收益多ク隨テ生計ノ度ヲ高メタルニ
 ヨルモノナルベシト雖モ農村ノ人民其農作物ヲ廉賣シ高
 價ナル輸入品ヲ求メテ之ヲ消費スルガ故ニ貧困ノ域ニ沈
 淪スルモノ多シト云フ本道ニ於テ消費スル酒類ノ量甚ダ
 大ナリ我が國ニ於テ人口一ニ付酒類釀造高一斗有餘ニ過
 ギズト雖モ獨リ本道ハ輸入釀造ノ二者ヲ併セ一人ニ付殆
 ド二斗ニ當レリ蓋シ寒氣ヲ名トシテ之ヲ濫飲スルノ風ア
 ルニヨルナラン
 本道ニ行ハル、所ノ宗教ハ内地ニ異ナラズシテ佛教神道

及基督教ノ三者ナリ神道ノ教會ハ各地ニ設立セラレ基督
 教亦所々ニ會堂ヲ設テ方ヲ布教ニ盡スト雖モ其勢力盛ナ
 ラズ佛教ハ我が國古來ノ宗教ニシテ移住民ハ各自因襲ノ
 信仰心ヲ懷キテ渡道スルガ故ニ内地ニ於クルガ如ク盛ナ
 リ然レドモ福山江差等一二地方ヲ除クノ外ハ各郡區各市
 邑皆維新以後全國ノ各地ヨリ來住シタル人民ノ新團體ナ
 ルヲ以テ地方ニヨリテ某ノ宗教宗派ヲ偏信スルガ如キコ
 トナシ且起業營利ニ急ニシテ心意自ラ冒險活潑ナルガ爲
 ニ宗教心ハ内地人民ニ比スレバ著シク冷淡ナリ
 本道人民ガ歸依スル佛教ノ宗派ハ天台、真言、淨土、臨濟、曹洞、
 黃檗、真宗、及日蓮ノ諸宗ニシテ就中真宗、曹洞、淨土ノ三宗最
 盛ナリ殊ニ真宗ハ函館及札幌ニ本願寺別院ヲ設ク全道各

市區到ル處其出張所ヲ置キ最モ力ヲ布教ニ致セリ全道ノ
 寺院ハ概テ明治年代ノ建立ニ係ルト期モ獨リ渡島國ニハ
 幕府以來ノ古刹多シ方今全道ノ寺院凡ソ一百九十餘アリ

教育

維新以前本道絶テ學校ノ設ナシ開拓使設置ノ初ヨリ連リニ子弟ノ教育ヲ督勵シ爾來學校林立シ山林僻邑ニ至ルマテ附晤ノ聲ヲ聞カサルハナク文教郁々殆ト故國内地ニ讓ラスあいなぬ人ノ如キモ業大ニ進ミ登リテ官途ニ就クモノアルニ至レリ今本道ノ普通教育ハ如何ナル程度ニ普及セシヤヲ知ラント欲セバ先ツ之ヲ内地ト比較スルニ如クハナシ則チ全國ト本道ノ學齡兒女百人中ニ於テ修學不修學ノ比例ハ左ノ如シ

全 國	男子	六五、一四	不修學	三四、八六
	女子	三一、一三		六八、八七

北海道 男子 五七、三七 女子 二七、三八 四二、六三 七二、六二

是故ニ本道ノ修學兒女ノ數ハ全國ノ平均數ニ劣ルコト一步ニ過キス况ヤ内地諸縣ニシテ本道ニ劣ルモノアルオヤ蓋シ長足ノ進歩ヲナセリト謂フヘシ

修學	男子	二五、四七六	不修學	男子	一四、〇二五
	女子	一〇、七〇九		女子	二二、五五三

明治二十四年ニ於ケル學齡兒女ノ總數ハ男女合セテ七萬二千七百五十人ニシテ修學不修學ノ數次ノ如シ

舊土人ノ教育ハ固ヨリ邦人ノ子弟ト同日ニ語ルヘカラスト雖ヒ亦年ヲ逐ヒテ修學人員ヲ増シ全年ニ於ケル學齡兒童三千三百九十九人中修學スルモノ四百四十七人アリ

小學校ノ數ハ簡易科二百九十四、尋常科六十七、高等科三十五併セテ三百九十六校トス。就中公立ニ屬スルモノ三百二十校ニシテ、私立七十四校ナリ。其ノ生徒ハ二萬九千六百九十九人ニシテ、男子二萬千九百人、女子八千六百〇九人ナリトス。

高等ノ教育ヲ施ス學校ハ札幌ニ札幌農學校及北海道尋常師範學校アリ、函館ニ函館商業學校アリ。

札幌農學校ハ東京以北唯一ノ高等學校ニシテ、農科大學ト其ノ科程ヲ同クセリ。同校ハ舊ト開拓使廳ノ設立スル所ニシテ、明治五年假校ヲ東京芝ニ開キ、全八年札幌ニ移ス。農學科、工學科、兵學別課、豫科、農藝傳習科ヲ併セテ、生徒ノ數二百九十六人ナリ。師範學校ハ本道ノ小學校教員ヲ養成スル所

ニシテ、生徒五十人アリ。商業學校ハ主トシテ商業ニ必要ナル學課ヲ授ク。生徒百十五人アリ。私立學校ニシテ、稍高等ノ教育ヲ施スモノ少カラスト。雖モ學クルニ足ルモノナシ。獨リ札幌ノ北鳴學校ハ尋常中學ノ組織ニシテ、生徒百餘人稍盛ナル如シ。

施政

施政ノ法土地ニヨリテ各其ノ宜シキヲ異ニス况ンヤ本道ハ事々物々姿勢ヲ内地ニ同シクセサルヲ以テ行政上府縣ト區別スルモノ少カラス以下畧ボ其ノ形狀ヲ陳述セン

全道ヲ分テ十一國トナシ更ニ之レヲ二區八十八郡ニ分割シ北海道廳之レヲ統管ス北海道廳ハ府縣廳ト同シク一個ノ地方政廳ニシテ其ノ地位ハ府縣ノ上ニアリ共ニ内務大臣監督ノ下ニ立テリ其ノ最上官ヲ長官ト稱シ其ノ下ニ書記官及ヒ參事官アリ應務ヲ分掌セシムルタメニ内務部警察部財務部及ヒ監獄署ノ三部一署ヲ置キ内務部長警察部長財務部長監獄署長ヲシテ各所部ノ事務ヲ掌理セシム更ニ之レヲ各課ニ分チ課長ヲ置キテ專任ノ事務ヲ掌ラシム

又全道二個ノ區役所十五個ノ郡役所アリ區ニハ區長ヲ置キ郡ニハ郡長ヲ置キ郡區ノ下四百九十四町五百七十五村アリ一百〇七個ノ戶長役場アリテ之レヲ分管ス其ノ行政區劃ハ左ノ如シ

郡區役所

管轄區域

戶長役場ノ數

町數

村數

札幌區

札幌區

二七二

函館區

函館區

四四

龜田外三郡

龜田、上磯、茅部、山越

二〇

五八

松前郡

松前

五

三四

一七

檜山外五郡

檜山、爾志、久遠、奥尻、太櫓、瀬棚

一〇

二六

四九

(178)

壽都外三郡

壽都、島牧、
磯谷、歌棄

六

七

二一

岩内外一郡

岩内、古宇、

三

七

一六

小樽外六郡

小樽、高島、忍路、
余市、古平、美國、
積丹、

七

四八

三六

總

札幌外九郡

札幌、石狩、厚田、
濱益、千歲、空知、
夕張、樺戶、雨龍、
上川、

一六

一〇

六〇

論

增毛外五郡

增毛、留萌、苫前、
天鹽、中川、上川、

四

九

二〇

宗谷外三郡

宗谷、幸枝、
利尻、禮文、

四

一

三六

網走外三郡

網走、斜里、
常呂、紋別、

四

七

三五

施

室蘭外五郡

室蘭、幌別、有珠、
此田、勇拂、白老、

五

七

七九

政

浦河外六郡

浦河、沙流、新冠、
靜内、三石、襟似、
幌泉、

一〇

一〇

八六

(179)

釧路外十二郡

釧路、廣尾、當縁、
十勝、中川、河西、
河東、上川、白糠、

一〇

一〇

八六

總

論

足寄、阿寒、川上、
厚岸、

根室外九郡

根室、花咲、野付、
標津、目梨、國後、
色丹、得撫、新知、
占守、

五 一九 三二

紗那外三郡

紗那、振別、擇捉、
藥取、

二 一〇

全管

(區役所) 二(區) 二
(郡役所) 十五(郡) 八十八

一〇七 四九四 五七五

本道未ダ市町村制等ノ自治制度ヲ布カス隨テ人民ノ投票
ヲ以テ議員ヲ撰擧シ以テ政務ヲ議セシムルノ機關ナシ郡

施

政

區町村各總代人會ナルモノアリ總代人ハ人民ノ中ヨリ撰
擧スルモノナレトモ其ノ權限極メテ薄弱ニシテ其管内ノ
事項ニ就テ諮詢ヲ受クルニ過キス本道ハ沖繩縣ト共ニ未
タ議院法ヲ施行セサルヲ以テ代議士ヲ帝國議會ニ選出ス
ルコトナシ而シテ本道ノ政費ハ中央政府ノ歲計豫算中ニ
編入シテ帝國議會ノ議定ヲ經ルコトナリ
函館、福山、江差ノ三地ヲ除クノ外未ダ徵兵令ヲ施行セス故
ニ三地以外ノ人民ハ兵役ノ義務ヲ負フコトナシ又本邦ノ
地租ハ地價百分ノ二分五厘ヲ以テ定率トナセトモ本道ニ
於テハ百分ノ一ナリ殊ニ明治二年以後有租地トナリタル
田畑宅地ハ明治三十年ニ至ルマテ地租及ヒ地方稅ヲ課セ
ス酒造稅モ亦一般稅率ノ半減ニシテ二割稅ナリ菓子稅醬

油税ハ全ク之ヲ課セス所得税ハ官吏ヲ除クノ外之レヲ免除セラル

本道ヨリ徴收スル所ノ諸税ハ以テ其ノ政費ヲ償フニ足ラ
ス故ニ本道經費ノ大部分ハ之レヲ國庫ヨリ支辨セリ經費
ノ總額ハ毎年凡二百萬圓ニシテ開拓使設置ヨリ今日ニ至
ルマテ費ス所總計六千餘萬圓ニ及ヒ二十四年度經費決算
額ハ百七十一萬二千圓ナリ

本道ニ於テ徴收シタル國税及ヒ租税外ノ收入次ノ如シ
決算年度

國 税 三十八萬五千〇九十二圓

租税外收入 二十九萬九千七百九十八圓

國税ノ内譯ハ左ノ如シ

地 租 二七、八三九^円 所 得 税 二、八七〇^円

國 立 銀 行 税 一、一二〇 北 海 道 水 産 税 二、一九、五三一

酒 造 税 一〇一、三三三 釐 麴 營 業 税 四 八

烟 草 税 八、一〇八 證 券 印 税 一、六、六二〇

手 形 用 紙 税 四 九 三 船 税 三、九三三

車 税 一、三五三 銃 獵 免 許 税 三、二二四

牛 馬 賣 買 免 許 税 三 七 〇 賣 藥 税 一、一二一

度 量 衡 税 二 二

又 同 年 度 ニ 於 ケ ル 區 町 村 費 ノ 收 入 豫 算 ハ 十 九 萬 二 千 五 百

二 十 一 圓 ニ シ テ 其 内 譯 次 ノ 如 シ

地 價 反 別 割 二、五九二^円 營 業 割 一、五〇一^円

戶 數 割 八二、四六三 其 他 雜 割 二、五六三

雜 收 入 八〇、七八四_円 繰 越 高 九、〇九九_円
 本道徴兵令施行地ニ於テ徴收シタル兵員ハ第二師團(仙臺)
 ニ屬シ本道ニハ屯田兵ヲ設ク屯田兵ハ兵農相兼ナルノ組
 織ニシテ平日ハ練兵ノ外專ラ開拓殖産ノ業ヲ營ミ一朝事
 アルニ臨ミテハ起テ敵ニ當ルノ任務ヲ負フモノナリ
 屯田兵ノ起原ハ遠ク寛政ノ頃ニアリテ當時南部津輕兩藩
 ノ蝦夷警衛ノ任ニアルヤ各兵五百ヲ出シテ國後擇捉及ヒ
 砂原ヲ守リ兵農相兼ヲシメタリ其頃又八王子千人頭原某
 歩卒百人ヲ率イテ夷地ヲ開墾シ以テ非常ニ備ヘンコトヲ
 請ヒ白糠及ヒ勇拂ニ至リ兵ヲ分テ屯田シ戰守ノ備ヲナセ
 シコトアリ然レトモ其組織固ヨリ今日ノ如ク整頓セルモ
 ノニアラス且警備ノ事止ムト共ニ國ニ歸リ其土ハ再ヒ荒

蕪ニ歸シ今僅ニ其遺跡ヲ存スルニ過キス下リテ明治八年
 札幌郡琴似村ノ地ヲ相シテ兵屋二百餘戸ヲ建テ入隊志願
 者ヲ移住セシメ爾後年々各府縣ヨリ召募シテ移住セシメ
 今日ノ如ク完整ノ緒ニ就クニ至レリ
 屯田兵ハ本道ノ人口繁殖シテ徴兵令ヲ施行シ得ラル、ニ
 至ルマテ備フルモノニシテ華族又ハ士族ノ十七年以上三
 十年以下ノモノヨリ撰抜シ其家族ト共ニ本道ニ移住セシ
 ムルモノトス該兵ノ撰マレテ移リ來ルヤ本人ハ言ヲ待ス
 家族ニ至ルマテ充分ノ旅資ヲ給與シ家屋家具農具等一ニ
 皆官給ニシテ殊ニ移住後三少年間ハ扶助米及ヒ菜料ヲ給
 スルノ制ナリ
 現時屯田兵村ハ札幌郡ニ於テ琴似村、發寒村、山鼻村、新琴似

村、篠路村、江別村、對雁村、アリ空知郡ニハ瀧川村、沼具村アリ
 上川郡ニ永山村アリ石狩郡ニ篠津村アリ室蘭郡ニ輪西村
 アリ幌別郡ニ鷺別村アリ根室郡ニ和田村アリ厚岸郡ニ大
 田村アリ其戸數總計三千四百〇五ニシテ家族一萬八千九
 百〇八人其兵員ハ三千百五十八人ナリ空知郡沼貝村ナル
 騎兵砲兵工兵ノ三隊ヲ除クノ外皆歩兵隊ナリ二十四年未

沿革

北海道ハ昔時蝦夷ト稱シあいのぬ人ノ棲息スル所タリ其地
 僻遠ニシテ永ク草蒙ニ委セシト雖トモ王政ノ及ブコト甚
 ダ尙シ景行天皇二十五年武内宿禰ヲ遣シ東方ノ國土風俗
 ヲ巡察セシム武内歸リ奏シテ曰ク東夷ニ日高見ノ國アリ
 土地沃壤ニシテ曠シ是ヲ蝦夷ト云フ擊テ取ルベシト蝦夷
 ノ史籍ニ見ハル、之ヲ始トナス齊明天皇四年阿倍比羅夫
 テシテ舟師ヲ率イテ蝦夷ヲ討タシム蝦夷惶懼降ヲ請フ比
 羅夫兵ヲ海浦ニ勒ス夷人おんか誠心天朝ニ奉事スルヲ誓
 フ因テおんかニ小乙上ヲ授ク淳代津輕ノ郡領ヲ定メ渡島
 蝦夷ヲ有間ノ濱ニ聚メ酒食ヲ賜ヒ撫諭シテ歸ル翌年比羅
 夫復タ蝦夷ヲ征シ進ミテ肉人籠ニ入り蝦夷ノ言ヲ聞キ後

方羊蹄ヲ以テ政所トナシ郡領ヲ置キテ歸ル蓋シ今ヲ距ル
 コト凡ソ一千二百餘年當時人烟ノ此地ニ蕃盛ナル推シテ
 知ルベシ王政中ロ衰ヘ復タ之ヲ制馭スルモノナク其ノ詳
 ナルコト得テ知ルヘカラス坂上田村麻呂藤原保則等前後
 蝦夷ヲ征討セシモ皆奥羽地方ニ止マリテ今ノ所謂本道ニ
 及ハス
 一條天皇ノ時蝦夷亂ヲ作ス陸奥ノ人安倍國東兵ヲ率ヒ海
 ヲ渡リ伐テ之ヲ平ク後鳥羽天皇ノ時藤原泰衡源賴朝ト戰
 テ大敗スルヤ其將士往々夷地ニ逃ル、モノアリ其海ヲ渡
 リ島中ニ入ルヲ以テ後人之ヲ渡黨ト云フ内地人ノ蝦夷地
 ニ移住スル此ニ始マル此時ニ當リ安藤季信賴朝ニ屬シテ
 功アリ以テ津輕ノ守護トナシ尋テ蝦夷ヲ管領セシム季信

ハ國東ノ裔安倍貞任五世ノ孫ナリ四條天皇ノ時鎌倉凶徒
 ヲ捕ヘテ蝦夷ニ流ス其子孫多ク蠱ヲ築キテ之ニ據ル後世
 謂フ所ノ諸館主是ナリ此間下野ノ小山隆政會津ノ輩名盛
 久等鎌倉ニ抗シテ戰敗レ相續テ來ルト云フ然ルニ當時華
 夷雜居シテ統紀アルナシ鎌倉之ヲ憂ヒ津輕ノ守護安藤太
 テ以テ蝦夷管領トナス
 南北朝ノ初安藤ノ族安東貞季代テ津輕ヲ領シ藤崎前今ノ北ニ
 居ル其孫教季南部守行ノ逐フ所トナリ嘉吉三年松前ニ到
 リ島民ヲ綏撫ス之ヲ下國民トス
 享德三年若狹ノ人武田信廣其臣佐々木繁綱工藤祐長ヲ率
 ヒ商船ニ乗シテ松前ニ到ル一説ニ先ツ與尻島ニ來長祿元年蝦
 夷亂ヲ作シ志苔箱館松前ノ諸館ヲ陷ル時ニ茂別家政下國

館ニアリ、彌崎季繁上國館ニアリ、蝦夷ト戦テ勝敗未ダ決セ
 ス、信廣募ニ應シ、軍ニ赴キ奮戦シテ大ニ之ヲ敗リ、夷酋胡奢
 魔允父子ヲ斬ル、彌崎茂別兩氏共ニ寶刀ヲ授ケ之ヲ賞ス、季
 繁男子ナシ、信廣ヲ以テ女壻トナシ、家ヲ嗣カシム、信廣乃チ
 彌崎氏ヲ冒シ、墨ヲ上ノ國、天河ニ築キテ此ニ居ル、勝山ト名
 ヅク、民夷雜居ノ地、東西凡六十里、所々ニ莊司アリ、皆皆ヲ擁
 シ、信廣ニ服從ス、明應三年、信廣卒シテ子光廣嗣シ、
 此時ニ當リ、下國恒季暴戾ニシテ無辜ヲ殺戮シ、國政大ニ亂
 ル、明應五年、光廣、恒季ノ家臣ト謀リ之ヲ殺ス、是ニ於テ恒季
 ノ遺臣相原季胤村上政義、松前ヲ守リ、河野季通、小林貞定、同
 季景、宇須岸節今ノ地志苔、與倉前ノ三館ヲ守ル、永正十年、恒季ノ
 遺臣等、光廣ト松前ニ戦ヒ、相原季胤村上政義陣沒シ、安東ノ

黨盡ク死シ、下國氏亡ブ、光廣乃チ天河ヨリ舟百八十艘ヲ率
 テ松前ニ來リ、大館ノ墨ニ入り、改メテ徳山ト名ケ、子高廣ヲ
 シテ勝山ヲ守ラシム、始テ諸國商船ノ稅ヲ收メ之ヲ役取ト
 謂フ、
 十二年、東部ノ酋長鹿野留イ崎イ叛ク、光廣誘ヒテ館ニ入レ、飲マ
 シムルニ酒ヲ以テシ、其懈ルヲ伺ヒテ之ヲ斬殺ス、光廣卒シ
 テ子義廣嗣キ、孫季廣ニ傳フ、季廣波志シ多尹シヲ西蝦夷ノ長ト
 ナシ、知古コ茂モ多尹シヲ東蝦夷ノ長トナシ、市易ノ制ヲ定メ、諸國
 ノ商船ヲシテ二夷ニ俸米ヲ給セシム、之ヲ夷役ト云フ、季廣
 卒シテ子慶廣嗣ク、
 天正十八年、豐臣氏東征ノ後、慶廣款ヲ納レテ内附ス、秀吉命
 シテ蝦夷及ヒ松前ヲ統轄セシム、慶長元年、慶廣徳川家康ニ

見ユ九年夷地ヲ治ムル條令書ヲ賜フ是ヨリ先キ徳山館ヲ
 重修シ十一年ニ至テ落成ス名ケテ福山ト號シ氏ヲ松前ト
 改ム
 寛文八年志毘茶里ノ酋長沙具奢允亂ヲ作ス松前兵ヲ遣テ
 之ヲ平ク沙具奢允強猛多力勢甚々強大ニシテ素ヨリ叛心
 アリ墨ヲ築キテ之ニ據ル遠近之ヲ畏レ皆其下ニ出ツ此地
 金山アリテ鑛夫ノ聚ルモノ多シ坑首莊大夫ナルモノハ出
 羽ノ人ニシテ才畧アリ沙具奢允ノ女婿トナリ名ヲ龍頭允
 ト更ム松前ヲ滅シテ夷地ノ利ヲ擅ニセント謀リ沙具奢允
 ヲ勸メテ叛セシム黨與少キヲ以テ久シク發セス是時ニ方
 リ波羅ノ酋長鬼菱ヲ誘フ鬼菱肯セス沙具奢允深ク之ヲ憚
 リ其不意ヲ襲ヒテ之ヲ殺ス此歲八月松前ノ家臣商賈凡四

百人船六十艘ヲ裝シ志毘茶里ニ至リ貿易ス半至ル時賊詐
 テ好意ヲ通シ貨物ヲ奪ヒ夜ニ乘シテ掩擊シ二百七十餘人
 ヲ殺ス脱レ歸ルモノ僅ニ四五人ノミ將ニ勝ニ乘シテ松前
 ヲ攻メントシ兇徒二千ヲ發シ志智利茶魔圓ヲ以テ將トナ
 シくんぬいニ至ル翌年四月報松前ニ達ス時ニ大守矩廣尙
 幼ナリ伯父泰廣政ヲ輔ク即チ兵千三百ヲ率井テ賊トくん
 ぬいニ戰フ志智利茶魔大敗シ山中ニ逃ル松前ノ兵長驅シ
 テ北グルヲ逐フ降ルモノ相踵ク部將佐藤權左衛門謀畧ア
 リ長萬部ニ至リ順逆ヲ諭シテ出降ラシメ遂ニ沙具奢允ヲ
 誘殺シ餘黨悉ク降ル初メ松前兵ヲ發スル時津輕藩兵ヲ出
 シテ松前ニ至リ以テ後援ヲナサシメ近隣諸國皆戒嚴ス然
 ルニ數月ヲ出スシテ事平キ松前ノ兵一人ヲ損セス凡ソ蝦

夷ノ叛亂前後幾回ナルヲ知ラス而シテ其ノ最モ猖獗ナリ
 シハ沙具奢允ノ亂ナリ
 明和二年露西亞人千島ノ羅處初石沒石利二島ニ來リ翌年
 擇捉島ニ來リ又得撫島ニ退キ留ルコト三年頗ル土民ヲ虐
 ス是ヨリ先延享寬延ノ頃露人羅處和以北ノ諸島ヲ蠶食シ
 改テ名ヲ命シ此ニ至リテ又其川南ヲ奪テ名ヲ改ム四年幕
 府吏ヲ遣リ蝦夷ヲ巡視セシム安永七年露人霧多布ニ至リ
 上疏シテ通信交易ヲ請フ松前藩吏諭シテ之ヲ還ス
 寬政元年國後厚岸等ノ蝦夷亂ヲ起シ稅舖ヲ襲ヒ七十餘人
 ヲ殺ス松前兵ヲ遣シテ之ヲ討タシム國後ノ酋長月彥ナル
 モノアリ其子及ヒ親族多ク叛徒ニ黨ス時ニ月彥漁シテ家
 ニ在ラス歸リテ之ヲ知リ義ヲ以テ其子ヲ殺シ歸順ス且叛

徒ヲ誘降スル尤モカム松前藩大ニ之ヲ賞シ命シテ國後ノ
 總酋長トナス
 二年松前吏ヲ唐太ニ遣ハシ商館ヲ建ルノ地ヲ相セシム西
 ハ孤潭突トク稱トクノニ至リ東ハ志禮シ呼トニ至テ還ル四年幕府最
 上常矩ヲ造リ唐太ニ至ラシメ西ハ峴シ内シニ至リ東ハ騰ト物
 ニ至リテ還ル八年外舶一隻虬田ニ至ル幕府露西亞ノ蝦夷
 諸島ヲ蠶食シ松前藩小ニシテ兵寡キヲ以テ力制スルコト
 能ハサルヲ聞キ謂ラク因循シテ悛メサレハ恐クハ後來ノ
 大害ヲ生セント措置ノ方法ヲ議ス十年目付渡邊胤使番大
 河内政壽勘定吟味役三橋成方等ヲ遣リ蝦夷ヲ巡視セシム
 近藤守重最上常矩政壽ニ隨行ス政壽歸ルニ及ヒ二人ヲ擇
 捉島ニ遣リ其ノ事情ヲ探ラシム此歲守重工事ヲ董シ様似

新道ヲ開ク
 十一年松前章廣ニ命シテ東蝦夷地浦河ヨリ知床ニ至ルマ
 テヲ上ラシメ七年ヲ限リ幕府假ニ之ヲ措置ス是ニ於テ邊
 防警備土人綏撫ノ方畧ヲ審議シ一歳ノ經費五萬兩ヲ以テ
 額トナシ全島經濟ノ大本ヲ立ツ十二年伊能忠敬命ヲ受ク
 テ蝦夷ニ至リ陸地ヲ測量シ圖ヲ作リテ之ヲ進ム是歲近藤
 守重等高田屋嘉兵衛ヲ率ヒテ擇捉ニ航ス是ヨリ先嘉兵衛
 既ニ探檢スル所アリ新ニ漁場ヲ開クモノ十七所物ヲ與ヘ
 テ土人ヲ贍ハシ大ニ德化ヲ布ク又露人建ル所ノ十字架ヲ
 倒シ本標ヲ建テ題シテ曰ク「從是大日本」ト
 享和元年松平忠明羽太正養石川忠房蝦夷巡視ノ命ヲ受テ
 程ニ上ル忠明西部ヲ巡リ忠房東部ヲ行キ正養ハ海ヲ諭テ

國後ニ至ル正義屬僚ヲ得撫島ニ遣リ露人ノ狀況ヲ探ラシ
 ム屬僚島中ノ事情ヲ詳悉シ標柱ヲ建テ「天長地久大日本屬
 島」ト書ス二年政廳ヲ箱館ニ移メ戸川安論羽太正養ヲ以テ
 奏行トナシ遂ニ東蝦夷地ヲ收メテ幕府ニ直隸セシム此歲
 命シテ等澗院ヲ樣似ニ國泰寺ヲ厚岸ニ建テ有珠ノ善光寺
 ト共ニ官吏戍卒ノ喪ヲ治メ且ツ外教ヲ檢査スルノ事ヲ掌
 ラシム
 文化四年松前章廣ヲ陸奥ノ梁川ニ移シ其西蝦夷地ヲ收ム
 是ニ於テ全蝦夷幕府ノ直隸トナル乃チ政廳ヲ松前ニ移シ
 松前奉行ヲ置キ全島ヲ總管シ兼テ北蝦夷ヲ檢査セシム北
 蝦夷ハ則唐太ナリ章廣ノ父道廣ハ蝦夷ヲ治メテ擧ラズ且
 致仕ノ後言行慎マサルヲ以テ譴ヲ蒙リ囚居ヲ命セラル是

歲露人擇捉ニ寇ス八年露人ごろういん等國後ニ來ル幕吏捕ヘテ箱館ニ送ル翌年露人來リテ俘囚ヲ請フ明年復來リテ前請ヲ陳ス之ヲ許ス

文政四年幕府嘗テ收ムル所ノ東西蝦夷地ヲ松前章廣ニ付ス命ヲ傳テ曰ク曩ニ封ヲ收メテ以來官自ラ諸島ヲ綏撫シ今ヤ復北顧ノ憂ナキヲ得タリ惟爾夷地ヲ草創セル舊族ナルヲ以テノ故ニ重テ之ヲ爾ニ賜フ凡ソ幕府勦ムル所ノ法制遵守シテ失フコトナク切ニ邊防兵備ヲ以テ務トナセト

嘉永六年露西亞使ヲ遣ハシ北蝦夷ノ境界ヲ定メ交易ヲ通セシムトテ乞フ幕府乃チ筒井政憲川路聖謨ニ命シ長崎ニ赴キ應接セシム安政元年幕府北米合衆國ト假條約ヲ結ビ

下田箱館二港ニ泊シ物ヲ求ムルヲ許ス乃チ竹内保徳堀利熙ヲ以テ箱館奉行トナシ松前崇廣ニ命シ箱館地方六七里ヲ上ラシム後六年箱館港ヲ開キテ互布ヲ許セリ二年復々東西蝦夷地ヲ收メテ箱館奉行ニ隸シ崇廣ニ與羽ノ地三萬石ヲ給シテ食邑トナシ別ニ一萬三百五十石ノ地ヲ加給シ又年々一萬八千兩ヲ給シ以テ東西蝦夷地ノ歲入ニ換フ而シテ其福山ニ居ラシムルコト故ノ如シ松前氏ノ政法古來專ラ商稅ニ資リ農耕ヲ喜ハズ斜里宗谷北蝦夷之ヲ三場所ト稱シ藩主自ラ之ヲ治メ其他ノ漁場ハ分テ藩士ノ采邑タリ内外ノ商賈其門ニ詣リ甘言重幣以テ各處分地ヲ請ヒ君臣價ノ最モ貴キモノヲ擇ヒテ之ヲ附ス凡ソ漁場稅每歲六萬餘兩ニ至ル其ノ夷人ヲ待ツ最モ異例ニシテ五穀ノ種ヲ

與へ文字ヲ教ユ内地ノ言語ヲ習ヒ簞笠ヲ被リ草鞋ヲ著ク
 ル等凡ソ内地ノ教化ニ浸染スルヲ禁ス之ヲ犯スモノハ刑
 アリ蓋シ之ヲ愚ニシテ治メ易カラシメント欲スルナリ此
 ニ至テ舊弊ヲ改ムル者甚多シ
 六年九月白老、十勝、厚岸、根室、國後ヲ仙臺藩ニ、禮文、華、室蘭、幌
 別ヲ南部藩ニ、標津、舍利、紋別ヲ會津藩ニ、江刺、宗谷、利尻、禮文、
 増毛ヲ秋田藩ニ、天鹽、苫前、留萌、濱益ヲ庄内藩ニ、壽都、島小牧
 ヲ津輕藩ニ賜ヒ兼テ其警衛ヲ命ス
 明治元年四月箱館裁判所ヲ置キ侍從清水谷公考ヲ總督ニ
 任シ土井利恒ハ副總督ニ任ス尋テ裁判所ヲ改メテ箱館府
 トナシ公考ヲ府知事トシ數名ノ正權判事ヲ置ク八月松前
 德廣厚澤部ノ館ニ新城ヲ築カンヲ請ヒ十月移テ之ニ居

リ館藩ト稱ス
 是歲十月德川氏脱走ノ徒榎本釜次郎等軍艦ニ乘シ茅部郡
 鷲木村ニ來ル箱館戒嚴ス時ニ公考五稜廓ニアリ各藩ノ兵
 皆五稜郭ヲ以テ根據トナシ賊兵ト戦ヒ利アラズ公考兵ヲ
 率テ青森ニ退キ賊兵五稜郭ヲ取リ箱館ニ入ル十一月榎本
 釜次郎松平太郎等海陸並ヒ進テ福山ニ向テ松前ノ兵防キ
 テ利アラズ城陷ル
 二年二月朝廷令ヲ下シテ賊ヲ討セシム三月官軍海陸齊ク
 進ム兵凡ソ七千餘人四月乙部ニ上陸シ直ニ江差ヲ取リ尋
 テ福山城ヲ復ス五月箱館ヲ回復シ賊兵五稜郭ニ屯集ス釜
 次郎以下罪ヲ謝シ軍門ニ降り事平ク
 六月松前修廣ヲ館藩知事トナシ議定鍋島直正ヲ以テ蝦夷

開拓總督ニ任ス七月箱館府ヲ廢シテ縣ヲ置キ尋テ縣ヲ改メテ開拓使トナシ直正ヲ長官ニ任ス八月蝦夷ヲ改メテ北海道ト稱シ十一國八十六郡トナス但シ樺太ノ稱ハ舊ニヨル是月東久世通禧代ヲ開拓長官ニ任ス
 三年二月開拓使ヲ分テ別ニ樺太開拓使ヲ置ク五月黒田清隆開拓次官ニ任ス四年六月札幌開拓使應ヲ開キ函館根室ヲ以テ出張開拓使應トナシ各郡ニ出張所ヲ設ク七月館藩ヲ廢シテ館縣トナシ其所轄福島津輕檜山爾志四郡ヲ青森縣ニ屬ス八月樺太開拓使ヲ本使ニ併ス十月長官東久世通禧侍從長ニ遷ル
 五年九月全道ヲ六部ニ分チ札幌使應ヲ本應ト稱シ函館根室宗谷浦河樺太ノ五支應ヲ設ケ嚮ニ青森縣ニ屬スル四郡

ヲ開拓使ニ併セ全道總テ本使ノ管轄ニ歸ス七年八月黒田清隆開拓長官ニ進ム八年五年露國特命全權公使榎本武揚露國大臣歴山兀兒茶古布ト樺太久里留交換ノ約成ル
 略ニ曰ク大日本皇帝ハ樺太一部ヲ領スルノ權ヲ露國皇帝ニ譲リ羅邊留字須峽ヲ以テ界トシ露國皇帝ハ換フルニ久里留十八島ヲ領スル權ヲ大日本皇帝ニ譲リ占守ノ峽ヲ以テ界トナシ永世子孫共ニ失墜スル所ナケン土地產物ハ結約ノ日直ニ新領主ニ屬スト雖トモ各地交盤ハ兩國委員ヲ派シ會同シテ之ヲ行ハン其地ニ屬スル公共ノ物件ヲ領スルノ權ヲ兼存シ且現ニ各政府ニ屬スル物件ハ其直ヲ算シ新領主之ヲ償ハン其住民ハ共ニ其ノ本國ノ籍ニ貫スルヲ得ヘク又歸ラント欲スルモノハ其意ニ任セ留ラント欲スルモノハ生理ヲ營ミ物件ヲ有シ隨意宗教ヲ信スル等凡テ新主ノ民ト別異アルコトナシト雖トモ其政府ノ令ニ從フベシ露帝ハ樺太ノ利ニ酬ユルニ日本船ノ哥爾薩港ニ入ルモノ港稅海關稅ヲ免スルコト十年及ヒ官吏駐劄スルコトヲ許シ且日本船通商ノタメ哥爾薩科海及ヒ東察加海ノ諸港ニ來ルモノ又漁業スルモノ特典ヲ以テ之ヲ許ス露國懇親ノ國民ニ異ナル

コトナシ此條約ハ兩皇帝相批准シテ六月間ニ於テ之ヲ東京ニ行ハント全權各名ヲ記シ印ヲ鈐ス

樺太境界ノ事嘉永六年ニ起ル其年八月露使布恬廷長崎ニ來リ境界ヲ定メ交易ヲ通セシメテ請フ幕府筒井政憲川路聖謨ヲ遣リテ議セシメ北緯五十度ノ地ヲ以テ分界トナサントス議協ハス安政元年布恬廷又下田ニ來リ約ス今ヨリ後兩國ノ界ハ擇捉得撫二島ノ間ヲ以テシ樺太ハ舊ニ依テ界ヲ分タスト同六年露國使ヲ江戸ニ來ラシメ參政ト樺太ノ境界ヲ論シ限ルニ宗谷海峽ヲ以テセントス我聽カス文久二年幕府竹内保徳松平康直等ヲ露國ニ遣リテ議セシム辨論反覆決セス遂ニ彼我吏ヲ其地ニ派シ以テ之ヲ定ムルヲ約シテ還ル事アリテ果サス慶應二年幕府又小出秀實ヲ露京ニ遣リ議セシム復協ハス時ニ彼レ得撫諸島ヲ以テ交

換スルノ便ヲ謂フ我聽カス遂ニ雜居ノ約ヲ定ム明治四年參議副島種臣ニ全權ヲ命シ往テ其事ヲ決セシメントス果サス此ニ至リテ榎本武揚ニ全權ヲ委シ交換ノ約成ル

是歲八月久里留樺太交換理事官トシテ長谷部辰連ヲ樺太ニ遣リ時任爲基ヲ久里留ニ遣ル久里留諸島ノ露民ニ告グルニ漁獵其他ノ生理ハ舊ニ仍ルヘク去就ヲ決スルハ三年ノ間ニ於テシ各其宗教ヲ奉スルモ妨ナキヲ以テス十二月樺太土人本道ニ移ルモノ八百餘人九年一月久里留諸島ヲ千島國ニ屬シ得撫、新知、占守三郡ヲ置ク七月天皇東巡シ青森ヨリ海ヲ踰ヘ函館ニ幸シ蹕ヲ駐ル一日海路東京ニ還幸ス九月全道ヲ分チテ三十大區百六十小區トナス後十二年七月大小區劃ヲ廢シ更ニ郡區ヲ置ク

十四年八月天皇北海道ニ幸シ三十日龍艦後志國手宮ニ著
 ス汽車ニ御シテ直ニ札幌行在所ニ至リ蹕ヲ駐ル三日九月
 二日車駕札幌ヲ發シ千歳、白老、室蘭ヲ經テ六日函館ニ幸ス
 十五年一月開拓長官黒田清隆職ヲ辭シ參議西郷從道ヲ開
 拓長官ニ兼任セシム二月開拓使ヲ廢シテ札幌、函館、根室、
 三縣ヲ置キ時任爲基函館縣令ニ調所廣丈札幌縣令ニ湯地
 定基根室縣令ニ任ス
 十九年一月札幌、函館、根室三縣ヲ廢シ更ニ北海道廳ヲ札幌
 ニ置キ全道ノ施政并ニ集治監屯田兵開墾授産ノ事務ヲ總
 理ス司法大輔岩村通俊長官ニ任セラル二十一年六月通俊
 元老院議官ニ轉シ屯田兵本部長陸軍少將永山武四郎長官
 ニ兼任ス二十四年六月武四郎兼官ヲ免シ滋賀縣知事渡邊

千秋長官ニ任ス二十五年七月千秋内務次官ニ轉シ内務次
 官北垣國道長官ニ任セラル

土人

蝦夷地上古ヨリ土人ノ棲息スルアリ之ヲあいにぬト呼ヒ日本入ト種族ヲ異ニシ蒙昧魯鈍ノ野民ナリ男子ハ髮ヲ被リ鬚髯蓬生シ遍身毛ヲ生ス由テ又毛人ノ稱アリ然レトモ歐羅巴北部ノ一國民又ハ亞細亞ノさかせあん人若クハ露國ノ某民族ヨリ毛深キモノニアラス此人種ハ他ノ東洋人ト同ク蒙古人種ニ屬スルヤト謂フニ全ク然ラサルモノ、如ク露西亞人ハ西北利亞人種ト同一ナリト云ヘリ其管骨扁平ニシテ額骨高ク險著シク異様ナルヲ見レハ之ヲ一種ノ人種ナリト稱スヘキカ嘗テ七十餘人ノあいにぬノ体格ヲ檢シタルニ其中無名指ノ中指ヨリ長キモノ三人アリタリト云フ遠ク上古ニ溯リテ之ヲ案スルニあいにぬ人ハ特リ本道ニ蕃息セシノミナラス廣ク日本全國ニ傳播セシヤ明々白々ノ

事實ニシテ毫モ疑ヲ容レヌ彼ノ高峯富士山ノ名ハ頗ル美名ニシテ特ニ邦人ノ撰ミタルモノ、如シト雖モ其實あいにぬ語ノふし即チ「破裂スル所」ト云ヘル語ヨリ起レリ又能登國ノのどナル語ハあいにぬ語ニシテ岬ノ義ナリ其他此例甚々多シ蓋シ日本人カ未タ此土ニ渡ラサル以前あいにぬ人ハ自己ノ住居セル所ニ自己ノ言語ヲ以テ名クシナリ昔時日本武尊ヲ初トシテ田道、阿部比羅夫、坂上田村麻呂等カ征討セシ所口ノ蝦夷ハ則チ今ノあいにぬ人ニシテ當時ハ奥羽北越ハ言ヲ待タス遍ク東山東海諸道ニ瀾蔓セシナリ然ルニ日本人種ノ勢威旭日ノ如ク文化年ト共ニ東漸スルニ隨ヒ優勝劣敗ノ極次第ニソノ境域ヲ蹙メ遂ニ退キテ本道ニ止マリシナリ而シテ全クソノ跡ヲ本土ニ絶チシハ果

シテ何レノ時ナルヤ固ヨリ徴スヘキモノナシト雖モ想フニ源平時代ヨリ以前ニアリシナラシカ英人シヨンバチユラクニ生タリト云ヘリト然ルニ永田方正氏曰ク伊勢ノカ其國ニ住居セル親ノ人ナリ同氏又陸奥ノ街道及海岸ノ見取圖及内ニ今ノ北郡宇織村ノ名間(洋紀千六百五十五六年)比マテハ古ヨリ住居スル所ニシテ明暦七年(猶生ニ據ルバ古三幼年ノ時マテハ生セシ者ノ如シ而ルニ「ザラ」氏ハ足信ヲスル

現今あいのぬノ戸口總計三千九百八十戸、一萬七千二百人ニ過キス中男子八千五百〇二人ニシテ女子八千六百九十八人アリ女子ノ數遙ニ男子ニ起エタリ其居住地ハ日高國最モ多ク凡ソ六千人アリ同國沙流ハ古昔ヨリあいのぬ人ノ稱シテ都トナス所ニシテ夷人ノ種族正シク勇敢ナルコト亦

此地ニ勝ルモノナシト云ヘリ日高ニ亞クハ膽振、十勝、釧路ニシテ渡島ハ最モ少ナク茅部ノ一郡ニ二百餘人アルノミ次ニ國別人口表ヲ掲ク

渡島	二百二十人	後志	六百九十一人
石狩	九百三十八人	天鹽	二百八十四人
北見	七百六十人	膽振	三千七百八十七人
日高	五千九百四十三人	十勝	千五百八十六人
釧路	千六百十五人	根室	四百三十五人
千島	五百〇六人		

あいのぬ人ハ比較上日本人ノ居住セサル地ニ多ク且日本人ト雜居スルヲ厭ヒ自ラ其地ヲ退クノ傾向アリ其人口近年著シキ増減ナキカ如シト雖モ之ヲ昔時ニ比較スルニ明治

年代ニ入りテ大ニ減少セリ前チ舊紀ノ録スル所ニ隨ヘハ
 徳川時代ニ於テ二三萬人以上アリシヤ復疑ナキカ如シ而
 シテ今却テ二萬人ニ滿タス
 蓋シ劣等人種ノ優等人種ニ壓倒サルハ自然ノ天則ニシ
 テ哀ムベキあいぬ人種ハ今ヤ此不幸ナル地位ニ立タルモ
 ノナリ若自然ニ放任シテ之ニ保護ヲ加フルコトナクシバ
 此人種ノ絶滅ニ歸スル遠キニアラサルベシ
 あいぬ人ノ祖先ニ關シテハ種々ノ説アレトモ皆荒誕不稽
 ニシテ信スヘカラス或ル土人ハ信スラク上古おきくるみ
 沙流部びらどり近傍ノ山中ニ天降りどれしまじヲ妻リ其
 間ニ生レタル子女ハ則あいぬノ祖先ナリ或ハ曰ク大古女
 神此地ニ天降り此女神ヨリ生レタル子孫則あいぬナリト

此説ハ全道畧一致スルカ如シ但女神ノ數及ヒ初テ降りタ
 ル地ニ就テハ一定ノ説ナシ然ルニ或者ハ此女神ト犬ト接
 ハリテ生レタルモノ則あいぬナリト唱フ此説ハ極メテ荒
 誕ナレトモ本邦人ノ無智ナルモノ皆之ヲ信スルカ如シ
 あいぬ人カ棲息セシ以前他ノ異人種ノ此地ニ棲息スルモ
 ノアリシヤ否ヤ亦考フヘカラス唯土人ノ傳説ニ依レハこ
 ろばつくぐるナル種族アリテ土地ヲ支配セシモあいぬノ
 勢力強大ナルニ及ヒ彼等ハ北遷シテ遂ニ東察加地方ニ去
 リタリ現今本道ノ各地ニ散在セル楯穴ハ彼等カ住ヒシ遺
 跡ニシテあいぬ婦人カ口邊ニ跡スルハ此種族ヨリ傳ハリ
 シ遺俗ナラント云ヘリ
 近時文明ノ餘澤ニヨリテあいぬ人モ亦大ニ舊態ヲ改メ文

字ヲ學ヒ耕作ノ道ヲ知リ舊來ノ陋習惡俗ヲ改メタルモノ多シト雖モ因襲ノ久キ一朝ニシテ之ヲ更革スル能ハス依然トシテ舊時ノ夷人ナルモノ亦少シトセス今衣食住ヨリ風俗慣習ニ至ルマテ畧其狀態ヲ陳述スル所アラソ
 衣服 土人ノ被服ハ概テあつしヲ以テ之ヲ製スあつしハ^{オヒヤ}楡ノ軟皮ヲ紡績シタル者ナリ其長サ厩ニ至リ單衣ニシテ窄袖ナリ草花様ノ形ヲ刺繡シテ裝飾トナス之ヲ製スルハ婦人ノ業トス又十徳ト稱シ蟒緞ヲ以テ製シ或ハ滿洲古衣ヲ用フル者アリ所謂蝦夷錦是ナリしやらんベハ内地婦人ノ衣ヲ刺繡シタル者ニシテちみつふハ内地木綿衣ナリ此三種ハ其地ニ産セサルヲ以テ最モ之ヲ重シ大禮及ヒ祭祀ノ時之ヲ服用ス足ニハほしトテ本邦ノ脚帛ニ類スルモノ

ヲ着ク亦あつしヲ以テ之ヲ作レリ冬ニ至レハ男女共ニ鹿熊等ノ生皮ヲ以テ衣服トナシけリヲ穿ツ然レトモ平日ハ徒跣シテ屨ヲ着クス雨天ニモ笠ヲ用フルコトナシ女子ハ酋長富者ノ妻ト雖モ刺繡蟒緞ヲ服スルコトヲ得ス太刀ヲ懸刀ト云ヒ冠ヲしやはうヘト云フ木ヲ削テ組織シタルモノナリ大禮ノ時之ヲ着クしどきハ婦人ノ胸間ニ懸クルモノニシテ狀銀鏡ノ如ク圓徑數寸左右耳アリ之ニ絲ヲ繫ク貫クニ彩玉銀銅錢等ヲ以テス婦人禮ヲ正シ身ヲ護スル所以ナリにむがねハ銀環ナリ以テ耳ヲ貫ク其粗製ノモノヲやがねト云ヒ鉛錫ヲ用フ
 飲食 魚介鳥獸ノ肉ヲ以テ常食トナシ或ハ之ヲ生食シ或ハ煮テ之ヲ食ス自ラ耕作セサルカ故ニ穀菜ノ類ナシト雖

此自然生ノ草根木實ヲ食ヒ又稀ニハ本邦人ヨリ米穀ノ類
 ヲ求メテ食トナセリ近年農耕ヲ獎勵シ自ラ農作物ヲ收穫
 スルモノ少ナカラザレバ穀菜ヲ用フルモノ年ヲ逐ヒテ多
 シ然レトモ魚獸ノ肉ヲ珍重スルハ依然タリ食時ハ大抵一
 日兩回ニテ朝起キ出ルヤ男女共ニ業ヲナシ夫レヨリ食事
 ナナスヲ例トス然レトモ亦必シモ時ヲ定メサルモノアリ
 飽ク時ハ終日食ハス飢ユレハ深夜ト雖モ亦食ス其ノ久シ
 ク飢ニ堪ユルコト遠ク邦人ノ及ハサル所ナリ酒ハ最モ其
 嗜ム所ニシテ長幼共ニ之レヲ飲用セリ多クハ邦人ヨリ之
 レヲ求ムレトモ亦自ラ製シタル薄酒ヲ用フ偶米ヲ得ルコ
 トアレハ之ヲ飯ニ炊クコトヲナサス直ニ釀シテ酒トナセ
 リ其ノ嗜好極メテ甚シク祭祀、婚姻、家屋新築等ノ時ニハ殊

ニ之ヲ亂飲シ飽醉連日ニ至ルコトアリ昔時本邦ノ奸商等
 其嗜慾ニ投シ少量ノ酒ヲ與ヘテ高價ノ獸皮ト交換シ不正
 ノ利ヲ漁セシモノ少ナカラズ之ヲ聞ク大熊皮巾一丈ニ及
 フモノヲ以テ僅ニ一二升ノ酒ト交換シタリトゾ土人カ酒
 ヲ酌ム禮アリ杯上箸ヲ架シテ勸メ受クルモノ箸ヲ以テ酒
 ヲ神ニ祭り然ル後髭ヲ上ケ左手ニ杯ヲ持チテ飲ミ半バニ
 シテ次者ニ勸ム次者辭スレハ則チ酌シテ更ニ酌ミ以テ勸
 ム烟草モ亦最好ム所ニシテ皆邦人ト貿易シテ得ル所ナリ
 貯フルモノ盡クレバ烟膏ヲ取リテ草葉ニ塗り曝乾シテ之
 ヲ喫スルトゾ
 家屋 丸木ヲ以テ之ヲ構ヘ柱ニ基礎ナク地ヲ穿チ又木ヲ
 植テ、柱トナス材ヲ構フルニ釘ヲ用ヒス繩ヲ以テ之ヲ結

テ其大小一ナラス大ナルモノニ至テハ長サ五六間巾二三
 間ノモノアリ之ヲ築造スルニ先ツ屋根ヲ造リ多衆人相集
 リテ之ヲ擡ケ植テタル柱ノ上ニ載スルニアリ之ヲ葺クニ
 ハ茅、蘆、樹皮等種々アリ四壁ハ草ヲ編ミテ壁ニ代フ構造此
 ノ如ク粗畧ナレハ一家屋ノ中ニ數室ヲ設クルコトヲ得ス
 故ニ家族多キモノハ概テ數棟ヲ有セサルナシ殊ニ富メル
 モノハ別ニ家ヲ構ヘ以テ賓客ヲ接待スル爲ニ備フ家屋ハ
 總テ東ニ面シ西ニ背ク室内障屏ナク中央ニ大ナル爐アリ
 其一方ヲ來客ノ坐ト定メ主人ト雖モ狽ニ之ヲ侵スコトナ
 シ經營既ニ畢レバ神ヲ祭リ幣ヲ屋上ニ建テ然ル後徙リ住
 ス其ノ家ヲ築クニ地ヲ擇フコト甚タ嚴ナリ是レ水草、漁獵
 等ノタメニアラスシテ曾テ凶穢、妖祥等ノ事ナキ清淨ノ地

ヲ擇フニアリ
 器用 土人ノ用フル器具ハ其數甚々多カラス日用ノ什器
 ハ盃、箸、唐櫃、箱、桶、鍋、碗、茶碗、柄杓、等ニシテ多クハ内地人ト交
 易シテ得ル所ナリ酒器ハ多ク髹漆、金紋ノモノヲ用ヒ最モ
 巴文ヲ尙フ喫烟ニハ石烟管又ハ木管アリシカ近時ハ金屬
 ノ烟管ヲ用フ男女共ニ小刀ヲ携フ之ヲまきリト云フ以テ
 竹木ヲ切リ以テ彫刻ヲ施スニ甚タ精巧ナリ其ノ鳥獸ノ肉
 ヲ割ク亦此刀ヲ用フ坐席ハ茅ヲ以テ筵トナシ水草ヲき名草ヲ
 織リテ席トナシ其ノ上ニ箕坐ス寢床ニハ獸皮ヲ敷キ周圍
 ニき名草ヲナヲ掛ク外ヨリ見ルヘカラサシム弓ハ棋楠樹ヲ用
 ヒテ之ヲ造リ長サ三尺七寸許、弦ハ藤蔓ヲ絲ニ紡キ鯨油ヲ
 塗リテ之ヲ乾カス矢ノ長ク一尺二寸、絳松枝ヲ以テ造リ雙

羽ヲ挿ミ竹或ハ鹿骨ヲ鏃トナスぶしト名ツクル毒草ヲ滓
 リテ之ヲ發ツ中ルモノ必ズ斃ル
 言語 あいぬ語ハ全ク日本語ト異ナリテ語原モ亦同シカ
 ラサルカ如シ其ノ國語ニ類似セルモノアルハ思フニ古昔
 相傳ヘタルモノナラシ唯體言ヲ先ニシ用言ヲ後ニスルコ
 トハ國語ノ語法ニ同シ自ラ呼ヒテあいぬト云フ其ノ由テ
 來ル所ヲ知ラス本邦人ヲ指シテしやもト云フ所以モ亦明
 ナラス或ハ曰フ韃靼ノ君長ヲしやむト云フ蝦夷地滿洲ニ
 近キヲ以テ韃言ヲ傳ヘ本邦人ノ猛勇ナルヲ以テ斯ク呼フ
 ニ至リタルナラシト其言語ハ本道並ニ樺太ノ土人ヲ通シ
 テ一様ナレトモ所ニヨリテ大同小異アリ語音ハ子音多クシ
 テ母音少ク其ノ發音日本人ノ爲シ難キモノアリ次ノ一節

ハあいぬ語ト國語ノ對譯ナリ 對譯ニ係ル一字ヲ増損セズノ
 寄贈ニ係ル一字ヲ増損セズノ

チ ヲ プ、 オ ル ス、 グ ル、 オ ル ス、 ベ、

オ ヲ デ エ タ、 ア ナ ク チ、 オ ナ、 イ ク ク、 ウ ヌ、 イ タ ク、 シ ヨ、 ヲ、 ス、 ア、 ヲ ヲ カ、 タ、 レ、 ヤ
 ツ カ、 コ、 バ、 シ、 ア、 イ、 チ、 カ、 ム、 イ、 イ、 ル、 ス、 カ、 グ、 ス、 チ、 ヲ、 プ、 カ、 ム、 イ、 サ、 マ、 タ、 ア、 ア、 ン、 デ、
 モ、 シ、 リ、 エ、 ビ、 ヲ、 ヲ、 タ、 ア、 ウ、 バ、 カ、 シ、 ヌ、 グ、 ス、 ア、 ン、 グ、 ン、 チ、 ヲ、 プ、 オ、 ル、 ス、 グ、 ン、 チ、 タ、
 シ、 ヌ、 グ、 ス、 シ、 ン、 リ、 ト、 イ、 タ、 ク、 ウ、 エ、 ン、 ヤ、 ヲ、 カ、 ビ、 リ、 カ、 ヤ、 ヲ、 カ、 ア、 ヌ、 プ、 チ、 ナ、 タ、 ン
 ヌ、 チ、 ヤ、 ヲ、 カ、 ウ、 タ、 ラ、 オ、 ビ、 ヲ、 ヲ、 タ、 ヌ、 ヤ、 ン、

譯

月ニ居ル人ノ物話

往昔兩親ノ教訓ヲ聽カス水ヲモ汲ムコトヲ好マヌ小兒アリキ而シテ神ハ
 怒リテ其小兒ヲ月ニ匿キ以テ萬民ヲ訓誡シ給フナリ是レ即チ月ニ居ル
 人ナリ此故ニ祖先ノ訓誡ハ善キモ惡シキモ聞ク可キモノナリ萬民日此
 レヲ注意ス可シ

イ タ ク、 ビ ヲ、 カ ド

ワツカ、アタレ、グス、アエ、ヤツカ、エトラン子、オロワ、イヌンベ、ノダグツプ、
 アリ、タタ、オロワ、ソイ子、コ、アバ、サマケタ、オカイ、イクスベ、子イ、アンベ、
 子ヤツカ、タウギ、タウギ、ワ、アイヌ、バタ、イクスベ、子、グス、シヨモ、ワツカ、
 タ、ルウエ、オカイ、オロワ、ビシヤコ、ニヨドス、アニ、ワ、ベト、ホツタ、サン、ベト、
 ホツタ、サン、イタ、ス、ワ、ブン、チエツボ、ヘメス、メカラ、アヲ、ホツタ、エ子、イタキ、
 アイヌ、バタ、ス、ユ、ブン、子、グス、トイ、ホ子、ホブ、シヨモ、ワツカ、タ、ルウエ、オカイ、
 オロワ、スイ、イチヤニウ、チエブ、メカラ、トイ、ミミ、ベ子、ウエン、ミミ、ベ子、
 アイヌ、バタ、シヨモ、ワツカ、タ、ルウエ、オカイ、オロワ、イマカケタ、サン、コ、
 カムイ、チエブ、メカラ、アヲ、カムイ、チエブ、カムイ、イヤンガラフテ、
 イヤンガラフテ、オロワ、ナニ、チエブ、カムイ、オロワ、アウケ、ルウエ子、チエブ、
 カムイ、オロワ、アウケ、ワ、ナニ、チエブ、ホツタ、ア、アンテ、ルウエ子、タ子、ワツカ、
 タ、エトラン子、ガル、カムイ、イルスカ、コ、アナク子、エ子、アカリ、タパン、ナ

解明

其小兒水ヲ汲ムタメニ命セラレタレドモ包丁ヲ以テ坐シテ爐竈ヲ打チ
 切りタリ而シテ彼レ外ニ行キナカラ戸柱ヲ切りテ曰ク悲カナ汝ハ戸柱

許リデアルカラ水ヲ汲セザルモノナリ又然ル後チ桶杓ト桶ヲ取リテ川
 ニ下リタリ而シテ川邊ニ至レハ川ニ登リシ少サキ^{ウヰイ}蟻ヲ見テ曰ク悲ヒカ
 ナ汝ハ汝チ骨ダラケナモノヨ汝ハ魚ナルカ故誰レモ汝ニ水ヲ汲セザル
 モノナシ又蟻ヲ見テ曰ク悲カナ柔カナル肥満セルモノヨ汝ハ水ヲ汲
 マセラレザルモノナリ而シテ其處ヨリ下リテ又鮭魚ヲ見テ曰ク鮭日今
 日ハ今日ハト云へ而シテ直ニ其鮭ニ捕ハレテ萬民ヲ誦ムル爲ニ月ニ囚
 カレタリ怒リ給フ神達ハ總テ水ヲ汲ムトチ好マヌ人ニ斯ノ如キトナナ
 スモノナリ

あいにぬ人カ地名ヲ付スルハ其地ノ産物特狀若クハ事變等
 ヲ取リテ之ヲ命セリ故ニ其名ヲ聞クハ坐カラ其地ノ状態
 ヲ知り得ルノ便アリ本道ノ地名ハ皆あいにぬ人ノ唱呼ニ隨
 テ之ヲ定メタリト雖モ強テ漢字ヲ當テ拊メタルト原語ヲ
 知ラサルカ爲メ連ニ轉訛シタルトニヨリテ大ニ原音ヲ失
 ヒタルモノ極メテ多シ然レトモ原語ニ溯リテ其意味ヲ求

ムレハ皆其地ノ特狀ヲ知り得サルモノナシ例ヘハ石狩ハ
 いしからべつニシテ回流川ノ意ナリ石狩川ノ下流屈曲回
 流スルヲ以テ名ク札幌ハさつぼろニシテさつハ乾燥ぼろ
 ハ廣大ノ意ナリ河海ノ跡乾燥シテ廣大ノ陸地トナリタル
 チ云フ小樽ハをたないニシテ沙川ノ義ナリ此ノ如クナル
 カ故ニ其名ヲ聞クバ甚タ佳ナルモ原義ヲ尋ヌレハ無味ナ
 ルモノアリ豊平川ト云ヒ豊平橋豊平館ト云フ特ニ佳名ヲ
 選ミタルカ如シ然ルニ原語ハどえびらニシテ崖ノ潰裂ス
 ル意ナリ最モ甚シキハ北見ニ斜内ト云フ地アリ其原語ハ
 しおないばニシテ實ニ糞ノ小川ト云フ意ナリ
 書契 あいぬニ文字ナシ昔日ノ事唯口碑ニヨリテ傳フル
 ノミ己ノ生年ヲ知ラス父母ノ死日ヲ知ラス其ノ記スル所

ハ年紀ニヨリテ年數ニヨラス例ヘハ此翁ノ幼時某ノ事變
 アリ某ハ某ノ山焼クル年生レ某ハ某ノ浦鯨ヲ捕ヘシ年死
 セリト云フノミ初メ開拓使カあいぬノ戸籍ヲ作りシ時已
 ムヲ得ス容貌ニヨリテ概畧ノ年齢ヲ定メタリ人ト貸借ス
 ルハ唯簡記スルニ止マル其久キニ亘ルモノハ繩ヲ結ヒ木
 ニ契ムコトアリ記性甚タ強ク一村ノ者ハ足跡ヲ認テ其ノ
 誰タルヲ知リ一人ヲ誤ラス算數ハ少ヲ先ニシ多ヲ次ニス
 例ヘバ三十五ハ
 五 其 上 十 引 四十ヨリ
 アシクテ イカシマ ロン エド ホツチ
 ニシテ頗ル迂遠ナル算法ナリ期ヲ約スルニ月日ヲ以テス
 ヘカラス其遠キハ鯨漁ノ時鮭網ノ候等ト云ヒ其ノ近キハ
 月ノ鈎弦圓等ヲ以テシ或ハ殘月ノ頃晦月ノ日ト稱ス晴雨

ヲ候スルユト甚巧ナリ是レ漁獵ヲ以テ生業トナスニ由ル
 あいぬニ十二月ノ名アリ則チ次ノ如シ處ニヨリテ大同小異ノ
 本文ハ十勝あいぬノ
 正月 ト イ タン子 長日ノ義
 二月 ハッラフ チュブ 鳥出テ啼ク月
 三月 モ キウタ チュブ 始テ草根ヲ堀ル
 四月 シ キウタ チュブ 多ク草根ヲ堀ル
 五月 モ マウタ チョブ 始テ玫瑰ヲ取ル
 六月 シ マウ タ チュブ 多ク玫瑰ヲ取ル
 七月 モ ニヨラフ チュブ 木落始テ落ツ
 八月 シ ニヨラフ チュブ 木葉凋落
 九月 ウンボ。チュブ 蹴始テ冷

十月 シュナン チュブ 草火ニテ雌ヲ取ル
 十一月 ク エ カイ 弓折ル
 十二月 チウ ルブ チュブ 甚寒
 性質 あいぬ人ハ性質純良ニシテカノ未開人種ノ往々暴
 悪奸黠ナルニ似ス最モ正直ニシテ欺カス其尊敬スル所ハ
 富ニアラスシテ品行ニアリ隨テ孝子仁人ヲ出スコト少シ
 トセス内地人ニ對スル從順ヲ旨トシ只管其ノ懽心ヲ求メ
 テ生活ヲ全フセントスルモノ、如ク彼ノ亞米利加開拓ノ
 際印度人種カ白哲人種ニ暴狀ヲ逞フセシカ如キハ絶テ見
 サル所ナリ然ルニ昔時ニ溯リテ之ヲ案スレハこしまいん、
 かのいち、しぐしやいん等ノ叛亂アリ更ニ上世ニ於テハ奥
 羽關東ノ間ニ陸梁跋扈シ屢王師ヲ惱マセシコトアリ是ニ

由テ之ヲ觀レハ今ノ柔順ナルモノハ固有ノ元氣既ニ消耗
 シ自ラ其力ヲ計リテ遠ク相及バザルヲ知ルガ故ナラソカ
 然レトモ其朴直順良ナルコト天性ニ出ツルハ亦疑ナキカ
 如シ其無智無能ナルハ天性ノ才能缺乏セルニハアラス全
 ク教育ナキニヨルナリ現ニ土人ノ子弟カ小學校ノ教育ヲ
 受クル者ヲ見ルニ能ク發達進歩セリ唯未開人ノ常トシテ
 幼時小學校ノ下級ニアル時ハ其進歩極メテ迅速ナレトモ
 兩三年ヲ經ルノ後ハ此ニ其ノ歩ヲ止ム是レ自ラ智識ニ限
 アルカ故ナラソ然レトモ中ニハ益進歩シテ既ニ師範學校
 ヲ卒業シ現ニ教育ノ任ニアルモノアリ是ヲ以テ見レハ教
 育ノ法宜キヲ得レハ數代ノ後ハ日本人ト比肩シテ文明世
 界ノ競争場裡ニ顔顔スルニ足ルヤ必セリ

婚姻 おいぬニハ内地人ノ如ク許嫁ノ事アリ父母預メ幼
 稚ノ時ニ約シ女ノ家ニ遣ルニ刀ヲ以テス年頃ニ至レハ男
 子婦ノ家ニ往テ婚シ姑ク留リ遂ニ別居シテ生ヲ爲ス是ハ
 瓜葛ノ親アルモノヲ娶ルトキノコトニシテ他族ヲ娶ルモ
 ノハ稍之ニ異ナリ媒人夜半ニ婦ヲ伴ヒテ夫ノ家ニ到レハ
 其家人ハ故ラニ知ラサル爲シ燈ヲ暗クシ爐火ヲ滅シ媒人
 閑話畢リ婦ヲ婿ノ傍ニ遣リテ歸ル婦起テ燈ヲ挑ケ家人始
 テ相見ル其婿ヲ迎フルモ亦然リ夫婦ノ情甚々厚ク妻貞淑
 ニシテ善ク夫ニ事フ樵蘇漁獵百般ノ事皆其勤ニ服シ夫ヲ
 養フテ以テ婦人ノ譽レトスおいぬハ元ト一夫一婦ナレト
 モ亦妾ヲ蓄フルヲ以テ通例ノ事トシ多キハ數人ニ至ルモ
 ノアリ昔時國後ノ酋長ツきのゑハ妻妾十八人ヲ蓄ヘタリ

ト云フ妻妾相互ノ間極メテ親密ニシテ曾テ嫉妬ノ念アル
 コトナシ正妻ヲおんねまつト云ヒ夫ノ家ニ居リ妾ヲばん
 まつト云ヒ別居シテ各生計ヲ爲ス夫家事アレハ衆妾相和
 シテ事ヲ執リ之ニ途ニ遇ヘハ手ヲ握リ肩ヲ撫シ相親ムコ
 ト骨肉ニ異ナラス婦女嫁スルノ後ハ口邊ニ黥シ手甲ニ刺
 シ縱横文ヲ爲ス此習慣ノ起原詳ナラザレトモ之ヲナス所
 以ハ矢テ他ナキヲ表スルカ如シ
 葬式 あいぬ死スルトキハ一族屍ノ傍ニ集リ慟哭スルコ
 ト數日然ル後稍高潔ノ地ニ埋ム平生嗜好セルモノアレハ
 共ニ之ヲ埋メ其上ニハ石ヲ置クモノアリ木ヲ立ツルモノ
 アリ其葬ル時牖ヨリ出ス蓋シ之ヲ神ニスルナリ戸ハ己ノ
 出入スル所ナレハ神ヲ褻スヲ恐レテナリ喪ニ居ルモノト

語ルトキハ愛ヲ忘レシムルヲ主トシ語モシ死者生前ノ事
 ニ涉レハ則怒ル是レ其ノ追懷シテ哀ヲ催サシムルカ爲ナ
 リ家ニ横死ノモノアレハ知友來リ吊ヒ刀ヲ拔テ主人ノ額
 ヲ斫ル苦痛ヲ以テ悲哀ヲ忘レシムルナリ或ハ曰ク厄ニ遭
 フモノ再厄ヲ恐レ禳除ノ意ニテ斯クスルナリト老婆死ス
 ルトキハ其家ヲ燒キ拂ヒテ他ニ移ルヲ常トス是レ老婆ノ
 魂魄再ヒ歸リ來リ災厄ヲ家人ニ與フルヲ恐レテナリ世人
 ガ家長死スル時家ヲ燒クト謂フハ誤ナリ
 宗教 あいぬハ多神教ノ信者ニシテ日、月、高山、大川、火、海等
 皆神トシ祀レリ動物中熊、雉等モ神トス加之自ラ造リタル
 什器ヲモ神トス則チ大刀、鞆等ヲとみかむい木幣ヲあへか
 むいト呼フカ如シ然レトモ其ノ最モ尊信スル所ハこたん

からかむい則チ土地ヲ造リタル神ナリ實ニ其宗教ハ頗ル
 單純ニシテコたんからかむいヲ主神トシ其他ハ皆之カ下
 ニ隸屬スルモノトナセリ
 熊祭 十月ヲ以テ令節トナシ神ヲ祭ルノ大禮アリ熊ヲ以
 テ犠牲トナス此祭典ヲ行フニハ豫メ子熊ヲ捕ヘ來リ乳姆
 ヲ付シテ之ヲ養育シ凡ソ二年ニシテ舉行ス期ニ及ヘハ親
 族邑人ヲ招請シ祭壇ヲ設ケ幣ヲ植テ刀槍寶器ヲ具ヘテ神
 坐ヲ粧飾シ酒再ヒ行クル時熊ヲ棒抗ニ縛リ主人弓矢ヲ執
 リテ天地四方ヲ射次テ客立テ熊ヲ射ル遂ニ壓シテ之ヲ殺
 シ酒食ニ供シテ祭リ禮畢リテ熊ヲ割キ肉ヲ煮テ客ヲ饗シ
 宴飲日夜休マス酒盡ルヲ以テ期トス昔時ハ此ノ如クスル
 コト七八日ニ涉リ主客飽醉シ主人タルモノ之カ爲ニ産ヲ

破ルニ至ル然レトモ之ヲ以テ無上ノ榮譽トシ自ラモ誇リ
 他人モ亦之ヲ欽羨セリト云フ
 ゆうばり ゆうばりハあいぬ人ノ謠曲ニシテ拍子ヲトリ
 音曲ヲ催ス其謠フ所ハ皆事實ヲ記シ曾テ架空ノ戯作ナシ
 其文章形容ノ妙古詩ノ風致アリ又しやころべト云フモノ
 ハ婦女子ノ弄フ所ニシテ多クハ男女ノ痴情ヲ演ヘゆうば
 リノ變躰ナリ次ニゆうばりノ一節ヲ抄録ス
 今は昔沙流の部落に一人の女子ありけるが天性あまり愚にもあらざれば
 兩親の愛撫しむ甲斐ありて芳紀正に二九の頃は恰ら一人前の物知りとな
 り刺へ開け行く有りがたき文讀む道にも疎からざれば遠近の甲乙は早く
 も嫁に増にさ言ひよるもなみの女にあらざれば少し思ふ由ありさて皆斷
 りて自分は唯毎日部落の男兒女子に物の數をなしたりけるかゝる賢き女
 子なれども流石は黒白の二道をふみ迷ひては今更に胸のほむらムラ／＼
 と群りかゝる意馬心猿擦ぎ止んによすがなく幸ひ某のアイヌが近隣に小

屋を結ぶぞ屈強なる日毎に入り込み我が計略を計らんと思案を極めては中々に女の一念岩石もたからず謀計は首尾よく行はれ五六名の女子は端なくも住みなれし沙流の部落を背にして槍山の麓に詣住ひ憐れ果敢なき様を見て微笑しつゝ大願は成就せり此より日頃の望み通り味方を集めて一戦なし沙流の部落は瞬く中我が掌に握るは必定なり奇妙頂禮島守神さ幾度もなく伏し拜み踊りつ舞ひつするほどに彼方にて大音聲ヤア不屈者ホツチャリ女子汝一寸も其所動くな汝は信心堅固さみせかけて誠さ其の實探つて見れば某のアイヌ其外某のアイヌなんど……マツタ己が身方を呼集め此部落を掌握せんなどチロコオ千萬イテ此上は是非に及ばず酋長へ率きて黑白を分たんキリく歩めコ、コ此期に至りて何をか懸する卑怯であるぞ未練であるぞ罵りく顯れたる五六名のアイヌは手にくぶし矢熊刺鎗流石奸智の女子でも悚き恐れて金切聲キヤツト叫ひし一聲に南柯の夢の敢なくも覺て跡なく逃げす如く唯消しがたきは噫なり折柄蓋の軒の端に風の颯ぎつゝ所さびしき秋の空樹々の梢の楓葉は月の光に蝦夷錦織るか如くに見 あり

酋長 あいぬニハ君臣上下ノ別ナキッ如キモ其實然ラス

毎部必酋長アリテ其民ヲ支配セリ其大ナルヲはしわト曰ヒ小ナルヲあてなト曰フ昔時沙流ニ第一ノ酋長アリ重大ノ事件ハ皆其指揮ヲ受ケシトモ云フ酋長ハ世襲ニシテ長男之ヲ襲クヲ例トス尤モ門閥ヲ重シ集會必ス貴賤ヲ別チ序次ヲ紊ルコトナシ酋長タルモノハ終身一次松前ニ來リ水土ノ物ヲ貢スルノ例タリ其謁見ノ時恐悚謹愼色ニ形ル其未タ謁セサルヤ敢テ他出セス通商セス酒ヲ飲マス謁見スレハ米酒ヲ賜フ乃チ傳舎ニ歸リテ祝宴ヲ開ク其ノ禮下賜ノ酒ヲ中央ニ奠キ衆夷繞リ坐シ婦ハ夫ノ後ニ坐ス相對シテ手ヲ摩リ禮甚タ恭シ酒酣ニシテ歌呼踏舞シ酒盡キテ罷ム

今ヤあいぬ人種モ亦均シク帝國ノ臣民ニシテ公法上私法

上共ニ本邦人ト權限ヲ異ニスル所ナシ然ルニ舊時松前藩ノあいぬヲ遇スル甚タ不仁ナルモノアリ之ヲ本邦人ト同視セサルハ措テ論セズ國語文字ヲ教フルコトスラ嚴禁セリ天明ノ頃最上常矩ナルモノ蝦夷地ヲ巡遊シ其從僕あいぬニ假名字ヲ授ケシニ彼レ能ク之ヲ記シテ言ハント欲スル所自在ニ書スルニ至リシヲ松前藩聞テ深ク常矩ヲ惡ムニ至レリト云フ斯ノ如クナレハ何人モ之ニ教ヘントスルモノナク固ヨリ蒙昧ノ民ナレハ自ラ進ミテ學バントスルコトナク百世ヲ隔テ、依然タル愚民タリ開拓使ノ初ヨリ令シテ諸々ノ陋習惡俗ヲ改メシメ又種々ノ保護ヲ與ヘシカ方今ハ全ク保護スル所ナク法律上全然本邦人ト取扱テ同クシ彼等モ亦文明ノ風化ヲ味ヒ令セスシテ自ラ更メ禁

セスシテ自ラ止ムニ至レリ然レトモ固ト之レ未開人種ニ屬スレハ開明ナル日本人ニ對シ生存競争ニ敗テ取ルハ言テ待タス其人口ノ寧ロ減スルモ増加スルコトナキヲ見テモ之ヲ證スベシ英領加奈太ニ於テハ其印度人ノ爲ニ特別ノ法ヲ設ケテ之ヲ保護セリあいぬ人種ヲ自由競争ニ放任シ之ヲシテ竟ニ絶滅ニ歸セシムルハ日本人ノ德義ニアラサルヘシ

北海道地誌後篇

佐藤昌介 閱
加藤房藏 編

各國誌
渡島國

(239)

各國誌

渡島ハ本道ノ西南端ニアル半島國ニシテ東ハ太平洋ニ瀕
シ内浦ヲ隔テ、膽振國ト相望ミ南ハ津輕海峡ヲ挾ミテ本
土陸奥國ト相對シ西ハ日本海ニ面シ正北ノ一方僅ニ後志、
膽振ノ二國ニ接ス沿海ノ地九十八里餘面積二百八十三方
里分テ函館區及龜田、上磯、松前、檜山、茅部、爾志ノ六郡トナス
人口十六萬九千九百九十五人アリ

地形北方ニ盛マリテ南方ニ開ケ略、人字形ヲナセリ國中
 岳縱横ニ連亘シテ平野少ナク諸川皆短小ニシテ水流概急
 激ナリ
 渡島山脈ハ惠山岬ニ起リ蜿蜒起伏シテ北方後志國太櫓郡
 ニ連リ其地質ハ概テ火山岩ヨリ成レリ千軒山脈ハ白神岬
 ヨリ起リ國ノ中央ニ於テ渡島山脈ニ會ス遊樂部岳百九十二
 尺ハ渡島、後志、膽振ノ三國ニ跨リ國中第一ノ高峯ナリ駒ケ
 岳二千九百八茅部郡ニアリ内浦ニ臨メル火山ニシテ圓錐
 形ヲナシ中央ニ一ノ大噴出口アリ昔時ヨリ屢々破裂シテ
 人畜ヲ害セシヨト少ナカラズ其北壁ヲナセル高所ヲ砂原
 岳ト云フ惠山十四千九百モ亦噴火山ニシテ惠山岬頭ニ峙チ
 山上常ニ硫流ヲ噴出セリ大千軒岳三千七百八松前檜山兩

郡ノ間ニ聳ヘ千軒山脈中ノ最高峯ナリ其他渡島山脈中ニ
 横津嶽百三十八袴腰山五千五百豹神山四千三百等アリ千軒
 山脈中ニ千軒嶽百三十六七ツ岳十三千八百八等アリ
 諸川源ヲ兩山脈ニ發シ三方ノ海ニ灌注ス有川九町十八龜
 田上磯兩郡ノ界ニ發シ南流シテ渡島灣ニ入ル木古内川六
 半ハ上磯郡木古内山ニ發シ木古内村ニ至リテ海ニ入ル天
 ノ川ハ稻穂嶺ニ發シ上ノ國ニ至リ西海ニ注ク知内川九ハ
 千軒岳ニ發シ東ニ流レテ海ニ注ク厚澤部川三十三町ハ檜山
 郡ニアリテ西海ニ注キ國中ノ最長流ナリ落部川八ハ茅部
 郡ニアリテ内浦ニ入ル其他折戸里八沙留里七野田追茂邊地
 石崎中七里ノ諸川アリ皆水淺クシテ舟ヲ容ル、ニ足ラズ
 大沼ハ龜田郡峠下村ノ東北ニアリ周回八里二十町其地駒

ク岳ノ南麓ニ當リ狹長ナル湖水ナリ其生成ノ原因ハ火山噴出物ノ爲メ河流ヲ遮ラレテ生ヅタルモノナリ葦菜沼里一町一馬場沼町十六モ亦大沼ト同一ノ原因ニ依リテ生ズ葦菜沼ハ函館本道ニ沿ヒ風色極メテ佳ナリ蒲元沼里一ハ上磯郡ニアル小湖ナリ

函館ハ我邦五港ノ一ニシテ渡島灣ノ中心ニアリ本道第一ノ良港ニシテ又最繁盛ナル都會ナリ戸數一萬二千七百餘人口五萬七千九百餘アリ此地元トウしよろけし内ノ淺ト稱セシガ寶徳中館ヲ此地ニ築キ其形箱ノ如キヲ以テ箱館ト名クト云フ明治二年改メテ函館トナス市街ハ海中ニ突出セル小半島ニアリ後ニ函館山ヲ負ヒ前ニ七重濱ヲ望ミ海水灣入シテ巴形ヲナス以テ八方ノ風波ヲ避クルニ足

ル灣中水深ク大船巨舶岸ニ迫リテ碇泊スベク大小ノ船舶輻輳シテ帆檣常ニ林立セリ市街函館山ノ半腹ヨリ布キテ海岸ニ至リ眺望最モ佳ナリ船塲町東濱町仲濱町等ハ海岸船舶ノ碇泊スル所ニシテ旅館豪商多ク末廣町ハ最モ繁昌ヲ極メ富商大賈軒ヲ聯テ鱗次シ銀行會社亦少ナカラズ函館控訴院、區役所、商業學校、英清兩國領事館等ハ皆山腹ニアリテ頗ル美觀ヲ添ヘ税關及造船所ハ海岸ニアリ

函館山ハ高サ一千百二十二尺遠ク之ヲ望メバ宛モ牡牛ノ横臥スルガ如シ由テ又臥牛山ト稱ス山ニ添ヒテ公園地アリ蒼林其後ヲ繞リ市街其左右ニ連リ碧海其前ニ當ル一水ヲ隔テ、汐首岬及陸奥ノ大洞岬ニ相對シ呼ベバ將ニ應ヘントス山光水色眞ニ天下ノ絶景ナリ公園ノ東南ヲ谷地頭

ト稱ス幽邃ノ地ニシテ別荘旅館等アリ鑛泉アリ谷地頭ノ
 湯ト稱ス冷泉ニシテ温度ヲ加ヘ沐浴ニ供ス
 八幡神社ハ谷地頭町ニアリ國幣小社タリ招魂社ハ汐見町
 ニアリ明治二年勤王戦死者ノ靈ヲ祀ル區内寺院甚多シト
 雖ニ著名ナルハ本願寺別院高龍寺等ナリ
 此地素ト用水ニ缺乏シ衛生並ニ防火ニ不便ヲ感ズルモノ
 尙シ明治二十一年龜田郡赤川ヨリ分水ノ工ヲ起シ翌年ニ
 至リ水道全ク成ル費ス所二十餘萬圓
 區内ニ於ケル會社ノ重ナルモノハ日本昆布會社百資本圓金帝
 國水産株式會社七圓十五北海道セメント會社四圓八日本油臘
 會社四圓五函館漁船會社四圓十萬等ニシテ銀行ニハ第一百十三國
 立銀行第三及第二十國立銀行支店三井銀行支店等アリ

此地内地ヨリ本道ニ入ルノ關門タルノミナラズ日本海ヨ
 リ大平洋ニ出ヅルノ要衝ニシテ地理上至緊至要ノ位置ヲ
 占メタリ今ヤ世界ノ氣運漸ク北方ニ向ヒ西北利亞地方年
 ヲ逐ヒテ榮ヘ隨テ内外船舶ノ津輕峽ヲ通過スルモノ多キ
 ヲ加ヘントス加之本道拓殖ノ業着々歩ヲ進メ本道ト内地
 ノ交通益頻繁ナルニ至ラバ函館港ノ繁盛實ニ計ルベカラ
 ザルモノアラソ
 福山ハ松前郡ニアル一都會ニシテ松前氏累世ノ居城地タ
 リ往時市街ヲ總テ松前ト稱シタリシガ慶長年間松前氏新
 館ヲ築キテ福山ト號ス松前原名ヲまどまいト云フまどま
 まいヨリ出ヅ婦人居ル所ノ義ナリ今ノ大松前町是ナリ大
 松前町ノ橋西ニ小松前町アリ原名ばんまどまいト云フ妾

居ル處ノ義ナリ此等ノ名ハ必シモ妻妾ノ居リシニハアラ
 ズ唯澤ノ大小ニヨリテ名々タルナリ市街ハ白神岬ノ西ニ
 アリ及部川其東ヲ流レ辨天島其西ニ當ル後ハ七面山地藏
 岳等ヲ背ヒ前ハ陸奥ノ岩城山ヲ望ミ風景頗佳ナリ港内風
 浪高クシテ碇泊ニ便ナラズト雖ヒ商船漁船常ニ出入シ西
 南ノ要港ナリ現今戸數二千三百人口一萬一千三百餘アリ
 廢藩以後恭靡振ハズト雖ヒ本道第一ノ舊城市ニシテ松前
 氏以來ノ豪商大賈少ナカラズ今ニ至ルマデ本道各地ニ漁
 場ヲ擁スルモノ多シ郡役所ハ川原町ニアリテ松前全郡ヲ
 管轄セリ
 福山城ハ松前慶廣ノ城ク所ニシテ松前氏世々ノ居城タリ
 シガ廢藩ノ後毀チテ民居トナス今ノ松城町是ナリ福山ノ

東北ニ當リテ古城址アリ大館ト云フ一ニ徳山ト稱ス松前
 二世光廣上ノ國ヨリ移リテ此ニ居リ五世慶廣ニ至リテ福
 山ニ移ル小館モ亦其近傍ニアル舊城址ナリ其東谷ニ蝦夷
 塚アリ永正年間松前光廣親ヲ夷酋カのいし兄弟ヲ斬リ骸
 ヲ埋ムル所ナリ
 江差ハ檜山郡ニアリ人口一萬四千六百八十人此國西海岸
 ノ要港ニシテ檜山外五郡役所ノ所在地ナリ鷗島其前ニ横
 ハリ船舶之ニ傍ヒテ碇泊スベシ西風烈シキ時ハ船覆没ノ
 虞アリト雖ヒ敦賀、長崎、大坂等ニ通ズルノ便ナルコト仙臺、
 南部、津輕等ノ及ブ所ニアラズ姥神町ニ姥神大神宮アリ傳
 ヘ言フ上世海濱ニ老夫婦歸化ス食ナシ夢ニ神、楫ヲ授ケ告
 テ曰ク之ヲ以テ海ヲ探ラバ食ヲ得ント覺テ其言ノ如クシ

鍊ヲ得タリ取テ之ヲ食ヒ子孫生育シテ今ニ至リ幾世ヲ知
 ラズ其化生ノ地ハ則江差ニシテ姥神ハ老婦ヲ祀ルモノナ
 リト言固ヨリ荒唐ニ屬スト雖モ亦以テ本道鯨漁ノ由來ヲ
 推知スベシ
 龜田村ハ函館ニ接シタル小邑ニシテ人家四百餘戸アリ湯
 ノ川ハ函館區ノ東北二里ノ處ニアリテ著名ナル温泉場ナ
 リ元湯以下數泉アリ温度最モ高キハ百餘度ニ至ル北ハ丘
 陵ヲ負ヒ南ハ海ヲ望ミ溪水其前ヲ流ル坦道直ニ函館ニ達
 シ車馬ヲ通ズベシ近時宏壯ナル客舍ヲ築キ宛然本道ノ一
 大浴場トナレリ
 上磯ハ函館灣ニ枕メル驛次ニシテ戸數殆ド六百アリ茂邊^{マエノヘ}
 地ハ昔時下國民ノ居城地タリ木古内村ハ上磯郡ニアリ三

百二十餘戸中野館アリシ所ナリ福島ハ松前郡ニ屬シ民家
 凡四百五十戸アリ上ノ國ハ天ノ河ノ口ニアリ松前氏ノ古
 城址アリ人家三百七十餘戸乙部ハ江差ノ北凡ソ六里ニシ
 テ三百四十餘戸アリ熊石ハ國中最北ノ名邑ニシテ六百八
 十餘戸アリ松前氏ノ時華夷ヲ分チタル境界ニシテ番所ヲ
 此地ニ設ク二月ヨリ八月ニ至ルノ間戍卒ヲ置キ蝦夷地ニ
 入ルヲ禁ヲタリ茅部郡小安ハ東海岸ニ於ケル華夷ノ分界
 ニシテ番所ヲ置クコト熊石ニ同シカリキ
 七飯ハ龜田郡ニアリ民戸三百ニ滿タザル小邑ナレモ龜田
 外三郡役所及七重種番場ノアル所ナルヲ以テ知ラル森モ
 亦一小村ニ過キザレモ室蘭ニ航スルノ渡航場ナルヲ以テ
 名アリ

此國ハ昔時所謂渡黨ノ割居スル所ニシテ諸館ノ遺跡少ナ
 カラズ龜田郡ニ志苔館、與倉前館アリ上磯郡ニ中野館、下國
 館アリ下國館ハ則茂邊地ノ地ニシテ昔時下國氏ノ居ル所
 タリ松前郡ニ脇本館、穩内館、禰保田館等アリ檜山郡ニ花澤
 館、洲崎館、此石館、和喜城等アリ花澤館ハ上ノ國勝山ノ地ニ
 シテ彌崎氏ノ居城タリ洲崎館ハ天ノ河ニアリ松前信廣ノ
 城ク所ナリ
 五稜郭ハ龜田郡ニアリ函館ヲ距ルコト一里餘安政年間函
 館奉行ノ築ク所ナリ土壘五箇ノ菱形ヲナスヨリテ五稜郭
 ト名ク周圍約百九十丈繞ラスニ濠ヲ以テシ龜田川ヲ引テ
 之ニ注ク明治元年徳川氏脱走ノ徒奪テ之ニ據ル明年事平
 グノ後之ヲ開拓使ニ管シ毀テテ獨リ空郭ヲ存シ後陸軍省

ノ所轄ニ歸ス辨天崎砲臺ハ函館港頭ニアリ松前氏ノ時之
 ヲ築ク今陸軍省ノ所管タリ
 此國ノ海産物ハ鯨ヲ主トス茅部郡ニ於テハ落部ヨリ尾白
 内ニ至ル間ヲ好漁場トス函館灣モ亦昔時好漁場タリシガ
 輓近魚群ノ來集漸ク減シ傍近ノ地山脊泊、有川、矢不來等ニ
 小漁場アルノミ西海岸ニハ好漁場多ク洲根子岬ヨリ爾志
 郡全部ニ亘リ殊ニ上ノ國、江差、乙部、熊石等ヲ冠トス松前郡
 ハ昔時好漁場タリシガ近年著シク減ゼリト云フ鰯ハ内浦
 及函館灣ヲ始メトシ福島、椴法華、砂原等ニ産ス鰻ハ茅部郡
 及函館近海ニ産シ鮪ハ内浦及龜田、上磯、松前各郡ノ一部ニ
 産ス烏賊ハ専ラ此國ニ産シ茅部郡ノ小部分ヲ除クノ外全
 海岸之ヲ産セザルナク殊ニ盛ナルハ汐首、矢越兩岬ノ間ニ

アリ漁期ニ至レバ夜間幾千艘ノ漁船舷燈ヲ照シ海上數里ニ連リ壯觀言フベカラズ昆布ハ沙原ヨリ根法華ニ至ル間ニ於テ元昆布ヲ産シ尾札部最名アリ龜田郡小安ヨリ大森濱ニ至ルノ間ニ志苔昆布ヲ産シ志苔、石崎地方最名アリ又松前郡ニ於テ細布昆布ヲ産ス此等ハ首要ナル海産物ニシテ此他章魚、鮑、海鼠、海藻等アリ鮭及鱒モ産スレモ極メテ僅少ナリ

鑛産物ハ硫黃ヲ最トス其產地ハ惠山及古武井ナリ赤井川及濁川亦之ヲ産スレモ甚少量ニシテ採取ノ望ナシ沙金ハ知内川筋ニアリ木古内、江差等モ亦痕跡ヲ存ス沙鐵ハ内浦ノ西岸古武井ノ海岸等ニアリ共ニ探掘スルニ足ル石灰石ハ上磯郡がろのさわ及龜田郡石崎地方ニテ探掘スレモ皆

石灰ヲ得ルノ目的ニ出テ未ダ裝飾材トシテ之ヲ切出ス所ナシ

小島ハ國ノ西南隅ノ海上ニアル一小島ニシテ福山ヲ距ルコト六里周回一里二十一町最高點凡一千尺ニシテ薪材ニ乏シカラズ溪流飲用ニ適シ沿海魚介ニ富ミ殊ニ大ナル鮑ヲ産ス然レモ常住ノ居民ナク只出稼ノ漁家數戸アルノミ

大島ハ小島ノ西北ニアリ松前郡江良町ヲ距ルコト十二里餘周回凡三里半アリ島中川流ナク且薪材ニ乏シクシテ移住ニ適セズ二島共ニ火山島ニシテ何レモ松前郡ニ屬ス

後 志 國

南ハ僅ニ渡島ニ接シ東ハ石狩ニ連リ東南ハ膽振ト相腹背
 シ西北ハ日本海ニ瀕ス西南ヨリ東北ニ延長セル國ニシテ
 海岸線ノ延長一百一里面積二百九十方里人口十一萬三
 千二百三十六人アリ分テ十七郡トナス久遠、奥尻、太櫓、瀬棚、
 島牧、壽都、歌棄、磯谷、岩内、古宇、積丹、美國、古平、余市、忍路、高島、小
 樽是ナリ
 國中山岳起伏シテ平地少ナク南方久遠太櫓二郡ハ渡島山
 脈ノ餘脉連亘シ東南ハ後志山塊ヲ擁シテ山脈縱横ニ連リ
 延テ積丹半島ヲ成セリ故ニ原野ノ廣大ナルモノナシト雖
 此平原沃野各地ニアリ開墾ニ屬スルモノ少ナカラズ殊ニ
 沿海ノ地ハ漁村櫛比シテ復餘地ナキガ如シ唯としべつ及

めくくないノ二原野ハ未墾ニシテ國中ニ於ケル廣原ナリ
 としべつ平原ハ瀬棚郡ニアリ利別川ニ沿ヒテ上中下ノ三
 ニ分ル地味膏腴ニシテ草木繁茂シ山ハ礫物ニ富ミ川ニ魚
 族多ク殊ニ氣候平順ニシテ穀菜稔熟セザルナシ其耕牧ニ
 適スル地千六百餘萬坪ニ下ラズめくくない原野ハ磯谷郡
 ニアリ後志川ニ沿ヒタル地ニシテ河口ヨリ七八里ノ上流
 ニアリ凡四百萬坪川ノ下流ハ開墾ニ屬スルモノ多シ此地
 後志川舟楫ノ利アルヲ以テ殊ニ便ナリ
 沿海ノ地屈曲極メテ多ク北部ニ於テハ神威、積丹兩岬海中
 ニ突出シテ積丹半島ノ盡頭ヲナシ高島岬斗出シテ小樽灣
 ヲナシ中部ニ於テハ岩内灣アリ壽都灣アリ岩内灣ノ西ニ
 雷電岬アリ壽都灣ノ西ニ辨慶岬アリ南部ニ於テハ茂津多

小樽ハ小樽灣ニ臨メル一市街ニシテ人口二萬六千五百九十七人函館ニ次キテ本道第二ノ要港ナリ其地札幌ノ西北九里ニアリ一條ノ鐵道此間ニ通シ形勢宛モ横濱ノ東京ニ於ケルガ如シ高島岬其左ニ突出シ港内水深ク大艦巨舶數百艘ヲ容ル、ニ足ル

市街ハ山ヲ負ヒ丘陵ニ據リ海岸ニ沿ヒテ并列シ小樽、高島兩郡ニ跨リおこばち川ノ小流ヲ以テ郡界トス其最繁華ナルハ手宮町、色内町、境町、港町等ナリ手宮ハ定期船ノ碇泊スル所ニシテ鐵道モ亦此處ヲ起點トシ住吉ヲ經テ東札幌ニ通ズ住吉山ハ市街ノ東南ニアリ一望港内ヲ瞰下シ遙ニ増毛ノ諸山ヲ望ミ風景最佳ナリ高島岬ノ岬端日和山ニ燈臺ヲ設ク其光達距離十五海里ナリ小樽ハ舊ト後志十七場所

ノ一タリ其原名ハおたないニシテ石狩小樽兩郡ノ境ナルおたない川ニ基ヅク蓋シ松前藩ノ時此地ノおたない川今ノ小樽港入船町ノ地ニ移シ小樽場所ヲ置クヲ初トス傍近ノ地漁利殊ニ大ナルヲ以テ夙ニ名アリ今ニ至ルマデ漁業ニヨリテ豪富ヲナセルモノ甚多シ明治初年ニ至ルマデハ戶數僅ニ數百ニ過ギザル村落タリシガ地位宜キヲ得ルト漁利ノ大ナルトニヨリ戶口頓ニ繁殖シテ現今ノ狀ニ至レリ

小樽ノ港タル本道西部ノ要衝ニ方リ百般ノ貨物先ヅ函館ニ聚マリ次ニ之ヲ此港ニ輸シ然ル後内部札幌以下各地ニ供給ス是故ニ内部拓殖ノ業益進ムニ隨ヒ愈々其繁昌ヲ加フルハ言ヲ待タズ殊ニ浦潮港ト相距ルコト最近ク航程僅ニ一日半ニ過ギズ日露貿易年ヲ逐フテ盛ナルト共ニ此港ノ

益昌盛ナランコト期シテ待ツベキナリ
 港西手宮ニ石文アリ字形奇異ニシテ考フベカラス其圖ヲ
 摸寫シテ伊國地學協會ニ送り其說ヲ求メシニ或ハ古代ノ
 文字ナリト云ヒ或ハ上世事ヲ記スルノ記章ナリト云ヒ或
 ハ古代豪族ノ徽章ナリト云ヒ諸說紛々決スベカラズ其傍
 近ノ地ニ於テハ石鎗、石劔、雷斧等ヲ掘出スコト多シ
 朝里及錢函ハ小樽ヨリ札幌ニ通ズル驛次ニシテ共ニ停車
 場アリ朝里村ニ神居古潭アリカセガコ所カセガコノカセガコ懸崖ニシテ本道此地名甚
 以多シカセガコ神カセガコトカセガコセカセガコいカセガコ所カセガコナカセガコリカセガコ巉岩突兀トシテ懸崖千尺頗峻險ナリ
 壽都ハ壽都灣ニ臨メル名邑ニシテ戸數凡千三百人口七千
 五百アリ港口北ニ向ヒ風浪稍高シト雖モ亦西部ノ要港ナ
 リ壽都外三郡役所ノ所在地ナリ辨慶岬ハ港ノ西ニ突出セ

ル岬角ニシテ燈臺ヲ設ク傳ヘ言フ昔源判官此地ヨリ異邦
 ニ渡レリト又岩内郡ノ雷電岬ハ辨慶ガ蝦夷人ニ來年歸ル
 ヲ約セシ地ナリト傳フ皆荒唐信ズベカラズ
 岩内港ハ岩内郡ニアリ岩内外一郡役所ノアル所ナリ人口
 凡六千六百人壽都ト共ニ國ノ名邑タリ余市港ハ余市川ニ
 沿ヒテ余市灣ニ臨ミ尻場岬其西ニ突出ス人口四千アリ古
 平港ハ古平灣ニ臨ミ人口四千三百五十人其西ニアルテ丸
 山岬トス其他久遠、太櫓、瀬棚、永豊、島古丹等ノ諸村稍名アリ
 何レモ沿海ノ地ニシテ漁業頗盛ナリ
 神威岬ハ最著名ノ岬角ニシテ積丹郡ニアリ一等燈臺ヲ設
 ク光達距離十八海里回轉白色ニシテ四十秒毎ニ一閃光ヲ
 發ス岬端ヲ距ル數百間ノ處ニあかもい岩及めのこと岩アリ

益昌盛ナラゾト期シテ待ツベキナリ
 港西手宮ニ石文アリ字形奇異ニシテ考フベカラス其圖ヲ
 摸寫シテ伊國地學協會ニ送り其說ヲ求メシニ或ハ古代ノ
 文字ナリト云ヒ或ハ上世事ヲ記スルノ記章ナリト云ヒ或
 ハ古代豪族ノ徽章ナリト云ヒ諸說紛々決スベカラス其傍
 近ノ地ニ於テハ石鎗、石劍、雷斧等ヲ掘出スコト多シ
 朝里及錢函ハ小樽ヨリ札幌ニ通ズル驛次ニシテ共ニ停車
 場アリ朝里村ニ神居古潭アリカモイコイ所ノハ神道此地名甚
 以テ神トセシカモイコイ所ナリカモイコイ懸崖千尺頗峻嶮ナリ
 壽都ハ壽都灣ニ臨メル名邑ニシテ戸數凡千三百人口七千
 五百アリ港口北ニ向ヒ風浪稍高シト雖モ亦西部ノ要港ナ
 リ壽都外三郡役所ノ所在地ナリ辨慶岬ハ港ノ西ニ突出セ

ル岬角ニシテ燈臺ヲ設ク傳ヘ言フ昔源判官此地ヨリ異邦
 ニ渡レリト又岩内郡ノ雷電岬ハ辨慶ガ蝦夷人ニ來年歸ル
 ヲ約セシ地ナリト傳フ皆荒唐信ズベカラズ
 岩内港ハ岩内郡ニアリ岩内外一郡役所ノアル所ナリ人口
 凡六千六百人壽都ト共ニ國ノ名邑タリ余市港ハ余市川ニ
 沿ヒテ余市灣ニ臨ミ尻場岬其西ニ突出ス人口四千アリ古
 平港ハ古平灣ニ臨ミ人口四千三百五十人其西ニアルヲ九
 山岬トス其他久遠、太櫓、瀬棚、永豊、島古丹等ノ諸村稍名アリ
 何レモ沿海ノ地ニシテ漁業頗盛ナリ
 神威岬ハ最著名ノ岬角ニシテ積丹郡ニアリ一等燈臺ヲ設
 ク光達距離十八海里回轉白色ニシテ四十秒毎ニ一閃光ヲ
 發ス岬端ヲ距ル數百間ノ處ニおかもい岩及めのこと岩アリ

土人以テ神トナシ舟此處ヲ過クルトキハ帆ヲ下シ禮拜シ
 テ行ク昔時此岬ヨリ以北ハ婦人ノ入ルコトヲ禁ズ忍路高
 島ノ但歌因テ起ル所以ナリ但歌分曰ク忍路高島及
アト婦人其夫トハ征行ヒモ寄ラザレ島神メテ岬以北ニアリ邊マ
タマシテ俱ニ意ナリシ
 奥尻島ハ久遠郡ノ西六里ノ海上ニアリ周圍十五里三十二
 町面積九方里二百六十五戸一千百四十六人アリ居民擧テ
 漁業ヲ事トシ絶テ農事ヲ專業トスルモノナシ住民ハ皆東
 北海岸ニ住シ西海岸ハ僅ニ二三ノ漁戸アルノミ北端ノ岬
 ヲ稻穂ト云ヒ南端ヲ青苗岬ト云フ稻穂岬ニハ三等燈臺ヲ
 設ク其光達距離十八海里ナリ青苗川ハ島中ノ最長流ニシ
 テ其長サ三里餘又島ノ最高點ハ神威山ニシテ高サ千二百

尺ノミ西海岸ニばろないノ温泉アリちやしニ城址アリ傳
 ヘ云フ享徳三年武田信廣其臣僚ヲ率ヒ奥州ヨリ此ニ來リ
 後遂ニ渡島ノ上ノ國ニ移ルト水道俗汁三杯汁ナルモフノ倍
廣ノ奥尻ニ上陸ヨシテ此名アリトソナ
 全道漁業ノ盛ナル此國ヲ最トス其産額凡全道ノ三分一ヲ
 下ラズ松前氏ノ時十七場所ヲ定メ分チテ之ヲ家臣ノ采邑
 トス十七場所ハ則久遠、太櫓、瀬棚、島小牧、壽都、歌乘、磯谷、後別、
 岩内、古宇、積丹、美國、古平、余市、忍路、高島、小樽内是ナリ今ノ郡
 名ハ蓋シ此ニ起レリ
 沿海ノ地皆鯨ノ好漁場ニシテ本道ニ於クル鯨大群ノ中心
 ハ實ニ此國ノ洋中茂津多岬ト神威岬ノ間ニアルナラント
 云フ久遠ヨリ神威岬ニ至ルマデハ古來近場所ト稱ス沿岸

岬角極テ多ク岬邊ノ地峻岩絶壁ニシテ漁船ノ出入漁舍ノ設置ニ便ナラサルモノアリト雖モ尙屈指ノ漁場タリ神威岬ヨリ錢函ニ至ルマデ沿岸線凡三十里之ニ石狩國ノ二郡ヲ加ヘテ古來中場所ト稱セリ此間沿岸ノ地丘陵ニシテ峻ナル所少ナク岬角ノ出入無數ナルモ斷崖ノ爲ニ舟ヲ寄スルコト能ハサルモノ甚稀ナリ實ニ沿岸ノ地勢海底ノ形狀共ニ無比ノ鯨漁場ト稱スベシ此國ノ諸川鮭ノ湖上スルモノニ乏シカラズト雖モ魚群厚カラズ獨リ余市、堀株、利別ノ三川ハ鮭漁場ト稱スルノ價値アリ鮭ハ各郡ノ沿海殆ト皆之ヲ産シ又遠ク七八里ノ洋中ニ出漁ス全道第一ノ鱈漁場ナリ鮑及海鼠ハ沿海至ル所之ヲ産シ海扇ハ奥尻近海最名アリ其他章魚烏賊鱈鰺等多少産セザルナシ昆布ハ極メ

テ僅少ニシテ舉グルニ足ラズ
 鑛產地ノ著名ナルモノ少ナシ茅ノ洞炭山ハ岩内郡ニアリ
 テ探堀高凡一萬噸ニ過ギズ利別川ノ上流凡二十里ノ處ハ
 砂金ヲ産ス茂岩銅山ハ古宇郡與志内村ニアリ其鑛脈ハ茂
 岩川ヨリ甲岬ニ至ルノ間凡三十町ノ間ニアリ又余市郡山
 道村ニハ銀銅鉛鑛アリ古平郡濱町ヨリ銀ヲ産シ高島郡祝
 津村ハ銀鉛鑛アリ何レモ年々多少産出スル所アリ

石 狩 國

石狩ハ西部ノ大國ニシテ面積八百四十九方里廣袤三十六
 七里アリ海岸線極テ短クシテ僅ニ二十五里ニ過ヤズ北ハ
 天鹽ニ接シ東ハ北見十勝ニ隣リ南ハ日高膽振ニ境シ西ハ
 後志ニ連リ日本海ニ瀕ス全道ノ中心ニ當リ四通八達ノ要
 地ヲ占メ山ハ鑛物ニ富ミ水ハ魚族ニ豊ニ一望涯ナキノ原
 野皆土壤肥沃ニシテ農耕牧畜ニ適セザルモノナシ眞ニ北
 海天府ノ地ト謂フベシ分テ札幌區、札幌、上川、樺戸、雨龍、空知、
 夕張、石狩、厚田、濱益ノ一區九郡トナス人口八萬三千九百人
 アリ

地勢東方ハ千島帶山脈連綿トシテ十勝ノ境ヲ割リ秀デ、
 本道ノ最高點トナリ夕張岳六千五百尺ハ東南ニ聳エテ日高

山脈ニ連リ其諸峯皆峻峭ニシテ地理ニ通シタル土人ニア
 ラザレハ登ルコト能ハズト云フ札幌岳四千三百尺ハ西南ニ峙
 チテ後志山塊ニ屬ス西北天鹽ノ境ニ増毛山塊アリ濱益厚
 田諸郡ノ間ニ起伏セリ其他ハ概シテ廣原平野ニシテ石狩
 驛ヨリ遠ク南方膽振ニ達スル中央凸地帶ノ大平原アリ石
 狩川ニ沿ヒ深ク上川ニ至ル所ノ石狩原野アリ
 をふたてしけ山塊ハ千島帶ニ屬シ其最高キ所ハ凡六千五
 百餘尺ニシテ平均ノ高サ六千尺ナリ頂上ヨリ下千餘尺ノ
 處ニ硫黃ノ堆積スルアリ又火坑アリテ硫烟ヲ噴出セリ此
 山塊ノ南側ハ傾斜緩ニシテ雜草灌木繁茂シ西側ニハ空知
 川ノ支流ふらぬい川ノ水源アリ
 石狩岳ハ國ノ東極ニ峙チ石狩川ノ水源ヲナス高サ六千二

百二十二尺ぬたふかうしべ岳ハ石狩川上流ノ大枝あんだらま川ノ水源ニ屹立シ直立七千五百尺本道第一ノ高山ナリにせいかうしべ岳ハ北見ノ國境ニアル高山ニシテ石狩本流ヲ隔テ、ぬたふかうしべ岳ト相對峙セリむいぬ岳千六百尺ハ札幌郡ト膽振國虻田郡ノ境ニ立チ漁岳百四尺千五百ハ札幌千歳兩郡ノ間ニ聳ユラふゆぬふり七千九百六尺くんべつぬふり十五千八百八尺暑寒別岳五千八百尺ハ皆増毛郡界ニ聳ユ増毛山地ノ最高點ヲナセリ上川郡ニ於ケル高山ニハべつ山しるどるしゆべ山ばんしゆまぬふり、るべしゆべ山等アリ何レモ五千尺以上ニ達セリ

石狩川ハ本邦第一ノ大河ニシテ源ヲ石狩岳ニ發シ石狩原野ヲ回流シ石狩驛ニ至リテ日本海ニ注グ全長一百一十一里

十三町河口ニ至レバ河流北方ニ屈曲ス其幅三百餘間アリ水源ハ山側ノ傾斜急ナラズ河流甚緩ナリしゆをふねにせい東上川原野ノ所ニ至テハ河流狭ク其兩側高サ二百尺ノ大絶壁宛モ屏風ヲ立ツルガ如シ又此所ニハ細キ高瀑アリ上川原野ノ下端神居古潭ニハ水中大岩塊アリテ急流之ニ激シ土人ノ舟ヲ操ルニ巧ナルモノモ屢舟ヲ覆スト云フ此ヨリ下流ハ諸川之ニ會合シ益々大河トナリ小瀛船ヲ泛ベテ遠ク五十餘里ノ上流ニ至ルベシ

支流ノ大ナルモノハ雨龍川、空知川、江別川及豊平川トス雨龍川ハ雨龍郡ノ山中ニ發シ雨龍太ニ至リ本流ニ合ス河口ニ雨龍農場アリ空知川ハ十勝ノ國境ヨリ發シ空知太ニ至リテ本流ニ會ス其長サ四十五里上流ニふらぬい原野アリ

夕張川ハ夕張岳ニ發シ膽振ヨリ來ル所ノ千歲川ト合シテ江別川トナリ江別ニ於テ本川ニ合ス豊平川ハ膽振ノ境ヨリ發シ札幌ノ東ヲ過キ對雁ニ至リ本流ニ合ス此等ノ諸川皆舟楫ヲ通ズベシ

全國ノ水悉ク石狩川ニ會流シ此他復々擧グベキモノナシ僅ニ厚田川、濱益川、しらうどかり川ノ諸川アレモ其流レ數里ニ過キズ石狩川本支流ニ沿ヒテ湖沼甚ダ多シ然レモ何レモ皆河岸ノ凹地ニ水ヲ湛ヘタルニ過キズシテ一々記スルニ足ラズ

此國ノ平原ハ最廣大ニシテ十勝釧路根室ノ三國ニ跨レル高原ニ亞グリ西南海濱ヨリ起リテ遠ク上川郡あゝべつ地方ニ至リ石狩川ノ本支流ニ沿ヒ長サ三十七里幅五里餘其

殖民撰定地五億七千八百餘萬坪アリ就中三億二千萬坪ハ耕耘ニ適シ二億二千餘萬坪ノ泥炭地ハ大ニ改良ヲ加フルヲ要ス其他ハ以テ牧場トナスベク又多少ノ改良ヲ加ヘテ農業地トナスベシ要スルニ土壤肥沃運輸至便ナルコト全道三十億萬坪ノ殖民地ニ冠絶セリ其人烟稠密物産興起シ殷富貿易ノ地トナラシメト想フニ十餘年ヲ出デザルベシ

此原野ハ上川、雨龍、空知、夕張、樺戸、札幌、石狩ノ七郡ニ亘リ地勢神居古淵ニヨリテ上下二原野ニ分ル概シテ下流ノ地ハ土壤深ク地味膏腴往々卑濕ニ過グルモノアリ上流ノ地ハ地層淺ク間々砂礫露出シ乾燥ニ失スル所少ナカラズ其地層古沖積新沖積ノ二大別ニ過キズ古沖積層ハ高臺ノ地ヲ占メ平原ヲ抜クコト六尺乃至八十尺ニ至ル新沖積層ハ河

畔ノ平地ニ位シ農業上最良地ニシテ土色ハ褐色ヲ呈シ地層ハ河口ニ厚ク上流ニ向ヒテ漸ク薄シ植物ノ區域ハ地勢土質ニヨリテ同シカラズ上流ノ地ハ山野共ニ森林鬱鬱トシテ未ダ曾テ斧鉞ノ入ラザル良材多ク河流沿岸ノ新沖積層ニハ大樹林ニ乏シク曠原ノ地積ニ對シテハ著シク林積ノ稀少ナルヲ感ズ上川平原ハ草野多ク雜木乏キニアラザレモ常綠樹甚少シ空知原野ニハ木質善良ナル樹木鬱生シ頗ル建築用材ニ富メリ石狩平原ハ楡、櫟、桑樹等多ク殊ニ空知太ヨリ樺戸間ニハ桑樹極メテ多ク恰モ人造ノ桑園ヲ見ルガ如シ

札幌ハ國ノ西南ニアル一都會ニシテ明治初年ノ頃ヨリ開拓使本廳ヲ此地ニ置キ今北海遺應ノ所在地ナリ此地海岸

ヲ距ルコト三里豐平川其東南ヲ流レいんがるしべ山圓山等ノ諸山其西南ニ連リ人口二萬五千六百餘人アリ市街札幌平原ニ布キ街衢端正ニシテ矢ノ如ク道路平坦ニシテ砥ノ如シ大通ノ大街東西ニ貫キ以テ市街ヲ南北ニ分チ創成川南北ニ流レ以テ市街ヲ東西ニ分ツ大通ヨリ數ヘテ南北ニ至リ南一條北一條ト稱シ各七八條ニ至ル創成川ヨリ東西ニ算シテ東一丁目西一丁目等ト唱フ川ヨリ以東ハ市街少ナク以西ハ多シ大通ヨリ南ハ商業地ニシテ大通ヨリ北ハ諸官衙學校會社多シ最繁盛ナルハ南一條通ニシテ豪商大買多クハ此ニ集レリ

北海道廳ハ區ノ北部ニアリ五層ノ高樓ニシテ煉瓦ヲ以テ之ヲ築キ結構壯大輪奐ノ美ヲ極メ實ニ全道第一ノ建物ナ

リ 札幌農學校、御料局支廳、札幌病院、北海道炭鐵鐵道會社、製
 麻會社、製糖會社等亦皆北部ニアリ、豐平館ハ創成川ニ沿ヒ
 貴賓ヲ接待スル爲ニ築キタル旅館ニシテ亦區内ノ一觀ナ
 リ
 屯田兵招魂碑ハ北六條ニアリ、西南ノ役ニ於ケル屯田兵死
 者ノ靈ヲ祀ル中島遊園地ハ區ノ南方豐平河畔ニアリ、河水
 ヲ引テ池トナシ、地域稍廣ク、競馬場アリ、圓山ハ區ノ西方ニ
 アリ、亦景勝ノ地ニシテ春夏ノ候杖ヲ曳クモノ少ナカラズ
 札幌神社ハ其麓ニアリテ官幣小社ナリ
 此地前ニ石狩ノ大平原ヲ控ヘ、本道内部樞要ノ地ヲ占ム、鐵
 道ハ西小樽港ヨリ起リテ區ノ北六條ヲ過キ直ニ諸炭山及
 ヒ室蘭港ニ達ス、更ニ石狩驛上川郡室蘭港小樽港等ニ通ス

ル道路アリテ運輸交通ノ便毫モ缺クル所ナシ、開拓使設置
 ノ時ハ人家僅ニ數百戸ニ過キズ、寂々寥々タル小邑ナリシ
 ガ、戸口年ヲ逐ヒテ蕃殖シ、宛然一都會トナレリ、市街ノ區劃
 ハ全ク人爲ヲ以テ之ヲ定メ、將來人口幾十萬ノ大都トナル
 モ、今ノ形ヲ變ズルヲ要セザラシム
 札幌ヨリ豐平川ニ沿ヒテ上ルコト七里餘、幽邃ノ地アリ、定
 山溪ト稱ス、温泉アリ、其質ハ鹽泉ニシテ攝氏八九十度ノ熱
 度ナリ、一條ノ坦道車馬ヲ通ズベシ、開拓使建置ノ初メ、行脚
 僧常山ナルモノ此温泉ヲ開キテ衆民ノ痛苦ヲ濟ハント乞
 フ、官其志ヲ嘉シ、道ヲ通シ、橋ヲ架シ、浴室ヲ設ク、常山ヲシテ
 之ヲ管セシムヨリ、テ常山溪ノ名アリ、此地ハ札幌ヨリ此田
 郡ニ達スル通路ニシテ、將來交通頻繁ナルニ隨ヒテ浴場モ

亦大ニ賑フニ至ルベキナリ
 石狩驛ハ石狩河口ニアリ有名ナル鮭漁業地ナリ戸數六百
 戸ニ滿タズ江別村ハ江別川ノ石狩川ニ會スル所ニアリ運
 輸交通ノ便アルノミナラズ石狩原野ノ中央ニ位シ將來最
 發達スベキ市邑ノ一ナリ江別橋ハ長サ四十餘間ノ鐵橋ニ
 シテ費ス所五萬餘圓其構造全道第一ニ居ル
 岩見澤村ハ空知郡ニアリ人口凡四千札幌ヨリ幌内ニ達ス
 ル鐵道此所ヨリ分レテ一ハ南室蘭ニ向ヒ一ハ北空知太ニ
 至ル此地ハ鳥取山口以下十七縣ノ士族ノ移住地ニシテ明
 治十七年ヨリ十九年ニ至ルマテ三年間ニ移住シテ開墾ニ
 從ヒ一農村ヲ成ス鐵道本支線ノ要衝ニ當ルヲ以テ戸口年
 ニ蕃殖セリ

上川郡ハ國ノ東境ニ當リ四面山ヲ圍ラシ東ハ十勝ニ連リ
 北ハ天鹽北見ニ接ス全道ノ中央ニ位シ沃野十數里ニ亘リ
 石狩川ノ本支流其間ヲ流レ頗ル要害ノ地ナリ上川ノ清流
 ハ運輸ノ利アリテ夏ハ輕舟ヲ泛ブベク秋山ノ紅葉ハ殊ニ
 美觀ニシテ眼ヲ新ニスルニ足ル將來道路四方ニ通シ札幌
 網走間ノ鐵道成ルニ至ラバ四通八達ノ要衢トナル亦難カ
 ラズ永山村旭川村ニハ屯田兵ヲ配置シ人家併セテ五百戸
 アリ明治二十二年上川郡ノ中ニ於テ他日離宮ヲ設置スベ
 キコトヲ宣達セラル其豫定地ハちゆふべつ、びいゑ兩川ニ
 挾マレタル小丘ニシテ高サ十餘丈東北ハ絶壁ニシテちゆ
 ふべつ川其前ニ横ハリ水最清冽ナリ西南ハ傾斜緩慢ニシ
 テ眺望開濶東南ハ山岳漸ク高ク遂ニべべつ岳ニ達ス其廣

サ南北六里東西二里アリ
 此國西南ノ部分ハ稍開墾ニ屬シ殊ニ札幌郡ノ如キハ郷邑
 相望ミ殆ド餘地ヲ剩サ、ルガ如キモ東北方ニ至テハ曠漠
 無人ノ地少ナカラズ殊ニ雨龍郡ノ如キハ數戸ノ舊土人ヲ
 除クノ外殆ド移民ナシ然レモ豐富ナル炭山齋腴ナル原野
 アルヲ以テ内部ニ至ルマデ村里ヲナセルモノアルコト他
 ノ諸國ノ及ブ所ニアラズ
 此國ニ於ケル移住開墾ノ顯著ナルモノニハ常別白石、新十
 津川ノ諸村アリ
 常別村ハ石狩郡ニ屬シ石狩川ノ支流常別川ニ沿フ舊仙臺
 藩ノ老臣伊達邦直ノ移住スル所ナリ初メ明治二年邦直其
 舊臣百六十餘人ヲ率ヒテ厚田郡聚富ニ移リ開墾セシモ地

味不長ナルヲ以テ同五年遂ニ之ヲ棄テ、常別ニ移住シ前
 後移ス所三百四十餘人嗣後年ヲ逐ヒテ戸口段別増殖シ蔚
 然一大農村トナレリ十四年車駕本道ニ幸シ給フヤ開拓ノ
 功ヲ嘉シテ謁ヲ札幌ニ賜ヒ二十五年特ニ男爵ヲ授ケラル
 白石村ハ札幌郡ニ屬シ札幌區ノ東ニアリ舊仙臺藩ノ老臣
 片倉邦憲ノ移住開墾スル所ナリ明治四年邦憲官船ヲ借リ
 其舊臣男女六百餘人ヲ白石及ビ手稻ノ兩地ニ移シ竟ニ白
 石手稻ノ二村ヲ成セリ
 新十津川村ハ樺戸郡ニアリ大和國十津川郷民ノ移住開墾
 スル所ナリ初メ明治二十二年郷民洪水ノ災ニ罹リ田宅資
 産ヲ失ヒ慘狀言フヘカラス郷中ノ有志結合シテ本道移住
 ノ志ヲ決シ遂ニ政府ヨリ十七萬餘圓ノ移民費ヲ得、樺戸郡

とつくノ地ヲ撰定シテ移住スルモノ六百戸二千五百人其
 十津川郷民ナルヲ以テ新十津川ト稱ス
 北越殖民社ハ新潟縣人ノ設立スル所ニシテ地ヲ樺戸郡知
 來乙及ヒ札幌郡野津幌ニ撰ミ共ニ墾闢ニ從事シ前後移ス
 所二百餘戸ニ至ル
 雨龍農場ハ雨龍郡ニアリ明治二十二年侯爵菊亭修季等ノ
 請フテ貸下ヲ受ケタル所ニシテ地積一億五千萬坪專ラ泰
 西農牧ノ法ニ準依シ絶大ノ業ヲ將來ニ期セシニ中口頓挫
 シテ遂ニ小作農ヲ募ルニ至レリ
 此國ニ於ケル耕地ハ一萬四千餘町歩ニシテ一步ヲ渡島國
 餘耕地一萬七千ニ讓ルト雖モ農藝ノ術最モ開ケ農産物ノ具
 足セルコト全道中獨リ此國ヲ推ス則チ大麥小麥裸麥等ヲ

始トシ大小豆蔬菜類瓜類皆盛ニ栽培セザルハナク其産
 額何レモ全道ニ冠タリ特ニ札幌石狩ノ諸郡ハ亞麻及大麻
 ヲ耕作シテ製糖ノ原料ヲ給シ札幌空知石狩諸郡ニハ甜菜
 ヲ耕作シテ製糖ノ原料ヲ給ス唯水田ハ尙未ダ草創ニ屬シ
 僅ニ數百町歩ニ過キスト雖モ至ル所好結果アリ作付段別
 モ各年著シク増加セリ其ノ水田盛ニ開ケテ國內需要ノ米
 穀ヲ供給スルニ足ルノ時豈豫期スベカラズトセンヤ
 後志國境ヨリ厚田ニ至ルノ間ハ石狩長流泥沙ヲ流出スル
 ガ爲ニ海岸一帶沙濱ニシテ鯨ノ漁場殆ド絶無ナレモ厚田
 及濱益ノ海濱ハ最モ良好ナル鯨漁場タリ然ルニ濃盡岬、愛
 冠岬、雄冬岬邊ハ斷崖絶壁相連ナリ漁舍ヲ設クル餘地ナキ
 テ以テ好漁場タルニ拘ラス數里ノ間漁家ノ散點スルニ止

マリ專ラ近郡漁民ノ追鯨場タリ石狩川ハ鮭漁ニ於テ全道第一ノ稱アリ漁場遠ク河上五十數里ノ間ニ散在シ其數甚タ多シ其他鱒、鱈、海鼠等多少ノ漁獲アリ唯沿海線短小ナルヲ以テ漁業ノ利甚大ナラズ要スルニ石狩國ハ農業及鑛業ヲ主トシ漁業ヲ以テ立ツノ地ニアラザルナリ

天 鹽 國

東北ハ一帶北見ニ接シ南ハ石狩ニ隣リテ其雨龍郡ハ國ノ中央ニ突入シ西ハ日本海ニ瀕ス而積六百二十三方里人口一萬一千七百七十人分テ六郡トナス增毛、留萌、苫前、天鹽、中川、上川是ナリ沿海ノ地ハ漁利甚盛ニシテ昔時ヨリ人口蕃殖セル所アリ松前氏ノ時增毛、留萌、苫前、天鹽ノ數場所ヲ設ク分テ家臣ノ采邑ニ宛テタリ然ルニ天鹽川ニ沿ヒテ内部ニ入レバ寂トシテ人烟ナク僅ニ土人ノ所々ニ部落ヲナセルモノアルノミ殊ニ道路ノ便未ダ開クズ熊笹、雜草繁茂シテ土人ノ一村ヨリ他村ニ行ク必ズ舟ヲ用フト云フ國ノ東北ハ東北山脈蜿蜒トシテ北見ノ國境ヲ域リ南方石

狩ノ境界ハ山岳起伏シテ其西境ハ増毛山塊トナリ東境ハ
 秀テ、天鹽岳トナル増毛山中うふゆ岳くんべつ岳暑寒別
 岳等ハ増毛郡ノ南方ニ峙テテ石狩ノ國境ヲナセリ天鹽岳
 ハ國ノ東南端北見ノ境ニ聳ヘ天鹽川ノ水源ヲナス東北山
 脈ハ平均ノ高サ二千尺ニ滿タサル山脈ニシテ宗谷岳ほろ
 岳かもい岳等アレモ何レモ高峯ヲナスニ至ラズ
 天鹽川ハ源ヲ天鹽岳ニ發シ東北山脈ト並行シテ斜ニ西北
 ニ流レ天鹽村ニ至リテ海ニ注グ延長大約七十八里二十六
 町石狩川ニ亞キテ本道第二ノ大河ナリ水源甚高カラズ地
 形高低著シキ差ナキヲ以テ其流レ概シテ緩ナリ中流かも
 いこたんノ早瀬アリト雖モ之ヲ石狩川ノ神居古潭ニ比ス
 レバ同日ノ談ニアラズ又下流ノかむいるゑさん神路岬ハ

河谷狭ク絶壁アレモ決シテ急流ヲナサズ河口幅凡二百間
 アリ支流ノ大ナルモノヲけぬぶち、なよろ、あべしない等ト
 ス本流ハ屈曲極メテ多キヲ以テ直行スレバ近ク岸ヲ望ミ
 得ル所ナルモ流ニ湖ルトキハ數里ニ亘ル所アリ通常丸木
 舟ニ乗シ河口ヨリないぶつ上川郡ニ合スル所ナリ川ニ至
 ルニ一週日ヲ費スト云フ水流海岸ニ至リテ急ニ南ニ屈曲
 シ凡二里ニシテ始テ海ニ入ル
 天鹽川ノ外天鹽沿海ニ注ク所ノ川流數多アリ増毛山塊ヨ
 リ下ルモノハ激流ニシテ長流ナク其最モ長キモノヲ暑寒
 別川トシ増毛港ノ西ニ注ク長サ七里ニ過キス其他ノ諸川
 ハ互ニ相似タル性質ヲ顯シ河畔ニハ皆河成段階アリ其流
 多クハ海岸ニ至テ急ニ北曲スあびらしべつ川最大ニシテ

長サ二十二里半河口凡五十間アリ水流緩ニシテ數里ノ間
 舟楫ヲ通ズベシ留萌川ハ留萌灣ニ注キ長サ凡ソ十八里此
 二川ハ共ニ留萌郡ニアリウゑんべつ川ハ天鹽郡ニアリ長
 サ凡ソ七十里急流ナリはぼろべつ川ハ苫前郡ニアリ長サ
 十五里其他こたんべつ、ちくべつ等ノ諸川アリテ長サ十數
 里アリ何レモ雨龍郡ノ境ヨリ發シ西ニ走リテ海ニ注ク
 天鹽川沿岸ノ原野中地積廣大ナルモノ少ナカラズト雖モ
 概テ皆卑濕ニ過キ好地ニ乏シ唯將來量望ミアルモノハ上
 流ないぶつ地方ナリないぶつハ本流トなよろ川トノ間ニ
 シテ地形三角形ヲナシ東西ニ長ク南北ニ狹シ至ル所樹木
 繁生シ葱林鬱トシテ天ヲ蔽ヒ幹圍一丈乃至一丈七尺ニ及
 ビ實ニ本道第一ノ良材ナリ此原野ヲ開墾スルハ石狩國上

川郡ヨリ漸次之ニ及ボスタ順トス蓋シ兩國ノ境界ニハ唯
 一ノ山脈アルノミニテ甚ダ高峻ナラズ其山道ヲ開築スル
 ハ尤モ容易ナリト云フ是ヨリ上ルコト七里餘ニシテ支流
 けぬぶち川アリ其沿岸ニ一大平原アリ之ヲけぬぶち原野
 トス東西南ノ三方ハ山岳綿亘シテ平野ヲ圍ミ幅員數里ニ
 亘ル唯其地泥炭地ニシテ地形最低ク春季融雪ノ際ハ水充
 滿シテ大湖ノ如シト云フさるべつ原野ハ天鹽河口ヨリ上
 流凡三里ノ處ニアリ東北ハ北見ノ山脈ニ連リ南ハ天鹽川
 ヲ界シ東西二里南北七里餘地質概テ泥炭ニ屬スルヲ以テ
 耕作ノ適地極メテ少ナシ中央ニ二沼アリ一ヲペンけどう
 ト云ヒ一ヲばんけどうト云フ周回各二里餘以上諸原野ノ
 殖民撰定地凡二億一千七百餘萬坪ニシテ就中一億五千餘

萬坪ハ耕耘適當ノ地トス
 此國ハ全道中最材木ニ富メル地方ニシテ沿海ノ山脈ハ蝦夷松交生シ天鹽川ニ沿ヒテ起伏スル諸山及原野ニ繁茂スル樹木其幾許ナルヤ量リ難シ蝦夷松ハ漸ク入ルニ從テ漸ク多ク至ル所其巨幹老樹ヲ見ザルナシ殊ニ河口ヨリ上ルニト十九里ノ所ニ位スル山峯ハ土人之ヲくんねしりト呼ブ黒キ山ノ義ニシテ一望鬱葱トシテ青黒ナルヲ謂フナリ蓋シ天鹽産物中ノ主位ヲ占ムルモノハ其木材ナラント云フ然レモ石狩地方ニ比スレバ概シテ巨大ノ樹木ニ乏シク却テ密生ナリ原野ノ地味稍石狩平原ニ劣リ隨テ樹木ノ生長不長ニシテ種類モ亦多カラズ氣候ハ石狩平原ヨリ寒ク土人ノ語ル所ニヨレバ山胡桃、獼猴桃ノ類ハ兩年僅ニ一回

熱實スルニ過ギズト云フ
 沿海ノ地屈曲ニ乏シク港灣ノ擧グルニ足ルモノナク僅ニ増毛、留萌ノ二灣アルノミ鬼鹿、苦前等狹小ナル灣曲アレモ僅ニ少數ノ漁船ヲ入ル、ニ過ギズ増毛港ハ増毛郡ニアリ此國ニ於テ最重要ナル港ナリ戸數六百餘増毛外五郡役所アリ郵船會社ノ漁船毎月數回ノ航通ヲナスノミナラズ和洋船舶ノ出入繁クシテ商業稍盛ナリ港頭ニ燈臺ノ設アリ留萌港ハ留萌郡ニ在リ留萌川其口ニ注グ増毛ニ次キテ國中ノ要港ナリ
 此國鯨漁ノ盛ナルコト後志國ニ次ク而シテ増毛郡ヲ以テ最良ノ漁場トス蓋シ増毛郡ハ石狩國濱益、厚田二郡ト共ニ神威岬ヨリ分來スル鯨大群ノ衝ニ當リ建網一統ニ就テ獲

ル所ヲ比較スルニ實ニ全道第一ニ居ル但其地勢險阻ナル
 ニヨリ建網漁場ノ數多カラズ留萌苦前地方モ亦増毛方面
 ヨリ魚群ノ連續シ來ルモノ多ク實ニ本道好漁場ノ一タリ
 天鹽郡ハ天鹽川ノ注ク所ニシテ石狩河口ト共ニ鯨漁場絶
 無ノ地ナリ鮭及鱈ハ天鹽川ニ於テ盛ニ産出ス増毛ヨリ留
 萌ニ至ル間ノ諸川ハ鮭ノ溯上スルモノナキニ拘ラズ海
 河ハ多ク注ク鮭ノ溯上スル好漁場多シ鱈ハ増毛近海ニ産シ鮑
 ハ雄冬岬ヨリ別荘ニ至ル間最多ク留萌モ亦之ヲ産ス燒尻
 天賣ノ二島亦其好漁場ナリ海鼠ノ最好漁場ハ増毛苦前兩
 郡ニアリ昆布ハ増毛留萌苦前ノ沿岸皆之ヲ産ス此他海藻
 雜魚多少産出セザルナシ
 此國ニ於ケル鑛山ノ發見セラレタルモノ暑寒別鑛脈アリ

金ノ痕跡ト輝鉛、亞鉛、硫化銅、硫化鐵ノ少量ヲ含有ス試掘ノ
 望ナキニアラズ増毛郡いわをいニ硫黃アリ天鹽川筋處々
 ニ褐炭アリ石炭、石油、沙金等多少ノ痕跡ナキニアラザレモ
 殆ド探掘ノ望アルモノナシ
 燒尻、天賣ノ二島ハ共ニ苦前郡ニ屬シ相距ルコト一里苦前
 郡ノ海上六里ニアリ燒尻島ハ周回三里二十町人口凡ソ五
 百人全島高原性ヲ呈シ山ト稱スベキモノナク最高點四百
 二十尺ノミ河流周ク全島ニ分布シ皆水清クシテ飲用ニ適
 ス天賣島ハ周回二里二十五町人口六百三十餘本島モ亦高
 原性ヲナシ最高キ所六百七十尺ニ過ギズ二島共ニ最爾々
 ル小島ナレモ漁利大ナテ以テ夙ニ其名ヲ知ラル

北 見 國

西ハ天鹽、石狩ニ接シ南ハ十勝、釧路、根室ニ連リ北方一帯を
 こつく海ニ濱ス西北ヨリ東南ニ延長セル國ニシテ海岸線
 凡一百餘里面積七百八十二方里人口一萬二千三百四十一
 分テ宗谷、枝幸、紋別、常呂、網走、斜里、利尻、禮文ノ八郡トナス就
 中利尻、禮文ノ兩郡ハ西北海中ニアル屬島ナリ
 地形兩端ハ漸ク狭ク中央ニ於テ幅員凡二十里ニ達ス西境
 ハ東北山脈ト石狩國東側ノ高山ニテ成リ南境ハ千島帶山
 脈ヨリ成ル地勢東北ニ面シ河川皆東北方ニ向ヒテ流ル
 宗谷、野、斜、布ノ二岬國ノ西端ニ突出シ宗谷岬ハ露領樺太ノ
 のどろ岬ト相對シ其間二十五海里實ニ本島ノ極北ナリ知
 床岬ハ東端ニ突出シ根室ノ北部ト相腹背シテ知床半島ヲ

ナス宗谷、知床兩岬ノ間ニ能取岬アリ海岸ハ砂濱多ク至ル
 所ニ沙丘アリ沿岸ノ道路頗ル行歩ニ艱ム所少ナカラズ
 山岳ノ高峻ナルモノ多クハ知床半島ヨリ石狩ノ國境ニ至
 ルマデノ間ニアリ真牛岳ハ知床半島ニ聳ユル硫黃山ニシ
 テ其高サ四千五百尺ニ近ク斜里岳ハ根室ノ境ニ峙チもこ
 ど山ハ釧路ノ境ニアリにせいかうしべ岳は石狩ノ境ニ聳
 ヌ
 川ノ最大ナルモノヲ常呂川トス源ヲ十勝ノ國境ニ發シ常
 呂村ニ至リテ海ニ注ク延長三十五里餘支流むつか川ハ長
 サ二十里ヲ下ラズ湧別川ハ石狩ノ境ヨリ發シ湧別ニ至リ
 海ニ入ル其長サ二十六里餘網走川ハ長サ二十三里源ヲ釧
 路ノ境ヨリ發シ網走港ノ海ニ注ク頓別川ハ枝幸郡ニアリ

長サ二十五里其河口ハ年代ニヨリ屢變更セリト云フ此他
 渚滑川、猿泷川、斜里川、ほろべつ川、巖間川ノ諸川皆長サ十數
 里アリ
 湖沼ノ大ナル者少ナカラズ大抵皆海岸ニアリ猿洞湖ハ長
 サ凡七里周回二十里ノ大湖ニシテ北ハ狭キ砂地ヲ以テ海
 水ヲ限リ西岸ハ北ニ向ヒテ草原地擴ガリ南岸ハ山麓ニシ
 テ丘陵多シ湖水鹽分ヲ含ミ海魚此ニ游泳ス湖口東北ニ開
 キ渡船ヲ以テ通過スベシさるま川、ばいろ川ノ諸流此中ニ
 注グ網走湖ハ周回十一里半網走川之ニ注ギ又出テ、一里
 餘ニシテ海ニ入ル湖ノ北方僅ニ半里ヲ距テ、能取湖アリ
 湖口直ニ海ニ開キ砂丘ヲ以テ北岸ヲ限ラル周回五里此他
 床丹、瀧、沸、こむけ、しぶつ、金氣、聲間等ノ諸沼皆周圍數里アリ

小沼細澤ニ至リテハ列舉スルニ遑アラズ
 沿海一百餘里絶テ良港灣ヲ見ズ唯網走、宗谷、稚内ノ三港漁
 船ノ碇泊ニ適スレモ固ヨリ安全ナル良港ト稱スベカラズ
 其他ノ地方ニ至テハ砂濱遠ク連リ絶テ港灣ナシ聞ク暴風
 ノ時ハ和船故ヲニ砂岸ノ淺底ニ上リテ怒濤ノ擊破ヲ免ル
 ハ、コトアリト復以テ海岸ノ形状ヲ想察スルニ足ル
 網走港ハ網走河口ニアリ其北方ニアルヲ能取岬トス網走
 外三郡役所ノ所在地ナリ此地本道北海岸ニ於ケル要港ニ
 シテ上川ヨリ來ル所ノ中央道路既ニ成リ又南釧路ニ通ズ
 ル道路アリ海路ハ知床岬ヲ繞リテ根室港ト相通ズ將來鐵
 道ヲ貫通シ港頭ヲ修築スルニ至ラバ北海岸第一ノ良港ト
 ナルコト期シテ待ツベシ

宗谷港ハ極北ノ港ニシテ宗谷岬ヲ西ニ廻リタル所ニアリ
 稚内港ハ野斜付岬ヲ東ニ廻リタル所ニアリ二港相對シテ
 其距離六里ニ過ヤズ宗谷外三郡役所ハ宗谷港ニアリ宗谷
 岬ノ北端ニハ二等燈臺ヲ設ク其光達距離十七海里ナリ
 此國ニ於ケル殖民撰定地積凡二億八千萬坪ニシテ農耕適
 地其三分ノ一ニ下ラズ其原野ノ大ナルモノ五アリ斜里、網
 走、常呂、湧別、渚滑是ナリ渚滑以北ハ山麓延テ海濱ニ達シ川
 流ニ沿ヒテ小原野ヲ見ルニ過キズ常呂以南ノ原野ハ地味
 概シテ肥沃乾濕其當ヲ得且河脈縱横ニ通シテ運輸ノ便少
 ナカラズ其所生植物ヲ見ルニ何レモ發育盛ニシテ頗ル美
 觀ヲ呈シ實ニ農耕ニ適スルヲ表セリ是ヨリ以東ハ高燥ニ
 アラザレバ則チ低濕ニ失シ且至ル處多少火山灰ノ堆積ア

ラザルハナク地味大ニ劣惡ナルガ如シ
 緯度ノ高キニ比スレハ氣候頗ル温和ニシテ本道各地ニ適
 スル諸作物一トシテ發育セザルナシ唯地北方ニ偏シ道路
 未ダ開ケズ運輸不便ニシテ人烟稀疎寂々寥々トシテ宛モ
 無人境ノ觀アリ然レモ沿海ノ地ハ驛次略相連リ殊ニ漁期
 ニ至リテハ大ニ繁昌セリ
 鯨漁場ノ良好ナルハ野斜布、宗谷、斜内、枝幸、紋別、能取等ノ諸
 岬邊トシ其位置ハ多ク岬角ノ邊ニアリ沿岸港灣ノ船ヲ入
 ル、ニ足ルモノナシト雖モ鯨漁期ハ幸ニ風濤甚シカラザ
 ルヲ以テ聊カ缺點ヲ補フニ足ル此國ハ根室ニ次ギタル鮭
 産地ニシテ諸川殆ド其湖上セザルモノナシ而シテ殊ニ盛
 ナルハ網走川トシ頓別、幌別、幌内、湧別、猿洞、斜里諸川之ニ次

ク宗谷ヨリ枝幸ニ至ル間ハ其湖上スル河川少ナキニ拘ハ
 ラス天鹽ト同ク沿海最好ノ漁場タリ蓋シ天鹽ト此地方
 トハ全ク魚群ノ通路ニ常ルガ爲ナリ鱒ハ宗谷、紋別、網走ノ
 沿海ニ好漁場アリ又斜里川ハ著名ノ産地ナリ海鼠ハ宗谷
 枝幸ノ二郡盛ニ之ヲ産ス是ヨリ以東網走ニ至ルマデ饒産
 スル所ナキニアラサルモ未ダ此漁業ヲ營ムノ漁民ナシ
 鐵産物ハ知床山ノ硫黄、斜里網走兩郡ノ砂鐵、宗谷郡ノ石炭、
 網走郡ノ珪藻土等アリ知床硫黄山ハ斜里郡瓦牛山ノ北面
 ニアリ先年殆ド採盡シタリシニ明治二十二年八月噴烟シ
 テ多量ノ溶硫ヲ流出セリ然ルニ翌年五月再ヒ破裂シテ大
 ニ熱湯ヲ流出シ前ニ堆積セシ硫磺ノ過半ヲ溶流シ去リシ
 ハ最惜ムベシトス然レモ尙殘量凡二十許萬石アリ

利尻島ハ宗谷郡ノ西方凡八里日本海中ニ屹立セル一大火
 山島ニシテ美麗ナル圓錐形ヲナシ最高點ハ五千三百尺ニ
 達ス北見天鹽ノ海濱ヨリ之ヲ望ムニ頗ル美觀ナリ山ノ低
 部ニハとどまつ、ゑぞまつ等多く上部ニハはひまつ密生セ
 リ山頂ニハ火口ナシト雖モ頂部ハ傾斜俄ニ急ナリ周回十
 五里餘面積七方里、戸數七百三十七人口四千九百餘アリ鬼
 脇村及鴛泊村ハ島ノ東北方ニアリ船ヲ泊スベシ此島ニハ
 熊狼ヲ見ズ唯狐ト鼠多シト云フ
 禮文島ハ利尻島ノ西北凡三里ニアリ周回十六里面積殆ド
 九方里戸數四百六十五人口二千四十八アリ船泊村ハ北岸
 ニアリ香深村ハ島ノ東岸ニアリ共ニ船ヲ泊スベシ二島共
 ニ漁業殊ニ盛ニシテ鱒、鱈、昆布、海鼠、鮑等ヲ産シ昔時ヨリ寶

島ノ稱アリ

膽 振 國

西北ハ後志石狩ニ接シ東ハ日高ニ隣リ南ハ海ニ臨ミ噴火
 灣ヲ擁キテ僅ニ渡島ニ連ンリ東西ニ長ク南北ニ短キ國ニ
 シテ海岸線六十二里、面積四百四十方里分テ山越、虻田、有珠、
 室蘭、幌別、白老、勇拂、千歳ノ八郡トナス人口二萬二千百八十
 人アリ

國ノ西端ハ遊樂部岳高ク聳ユテ渡島及ヒ、後志ノ國境ヲナ
 シ東端ハ鶴川ノ水源ヲ以テ石狩及ヒ日高ヲ域レリ國中道
 路開通シ海岸ニ沿ヒテ少シク嶮阻ナルハ禮文、華アルノミ
 ニシテ至ル所行旅ノ便ヲ缺クコトナシ殊ニ苫小牧ヨリハ
 坦道馬車ヲ驅リテ直ニ札幌ニ達スベク又室蘭ヨリ起リテ
 苫小牧、岩見澤ヲ經札幌ニ達スル鐵道アリ

國ノ中央ヨリ後志ノ國境ニ至ル間ハ後志山塊ノ山岳起伏
 シテ高峯峻嶺多シト雖モ東半ハ所謂中央凹地帯ヲ成セル
 原野ノ一半ナルヲ以テ平原甚ダ廣シ此平地ニハ沼澤多ク
 漸ク東ニ向テ昇起シ又平地ノ西側ハ後志山塊ノ高原地ニ
 向テ隆起セリ
 山岳ノ著名ナルモノ少ナカラス皆後志山塊ニ屬シテ多ク
 ハ火山ナリ
 まつかり岳ハ一ニ後方羊蹄山ト稱シ國ノ中央此田郡ノ北
 部ニ聳ユ本道西部山岳中ノ最高山ニシテ直立六千四百十
 三尺完全ナル圓錐形ヲナシ頂點ニ於テ凡三十度ノ傾斜ア
 リ洞爺湖畔ヨリ之ヲ望ムニ宛然駿河ノ富士山ヲ望ムカ如
 ク頗ル偉觀ナリ夙ニ蝦夷富士ノ稱アリ此山ハ一ノ息火山

ニシテ火口ノ徑凡ソ八丁ニ及ヒ其一側ニ小坑アリト云フ
 火口ニハはひまつ密生シ山側ニハ樅松群生セリ
 岩雄登七千三百九尺ハまつかり岳ノ西北ニアル火山ニシテ後
 志國岩内郡ニ跨リ全山安山岩ヨリ成リ數箇ノ火口アリ硫
 黄ノ堆積ハ三ヶ所ニアリ夙ニ鐵區ヲ成シ其名高シ
 有珠岳ハ有珠郡ノ南方洞爺湖畔ニアリテ不規則ナル圓錐
 塊ヲナシ高サ凡ソ千九百六十餘尺頂上常ニ硫烟ヲ噴ク樽
 前岳ハ支笏湖ノ東南岸ニ峙チ高サ三千三百五十尺舊火口
 ハ直徑凡十八丁新火口ハ凡二丁餘アリ其内部ノ裂隙ヨリ
 常ニ硫瀛ト水蒸瀛ヲ噴ク近年屢噴出ノ事アリシヲ以テ其
 名善ク知ラル土人ノ語ル所ニヨレハ毎年屢小噴出アリテ
 特ニ二月ノ頃最モ多シト云ヘリ此山ノ溪谷ハ多クハ水流

ニ乏シク所々ニ懸崖絶壁アリ
 樽前岳ノ西北ニ連續シテふしぬぶり八千七百尺及ヒヘラ
 れふぬぶりノ二山アリ共ニとゞまつノ密林ヲ以テ掩ハレ
 支笏湖ノ南岸ニアリ
 惠庭岳ハ支笏湖ノ西北岸ニ峙チ札幌市街ノ南方ニ當ル高
 山ナリ其頂上尖リテ最高點四千六百四十餘尺ニ及ヘリ
 此他長萬部岳ハ山越郡ノ西北端ニ峙チ昆布岳後別岳ハ虻
 田郡ニ聳ユ幌別郡ニハ鷲別岳及ヒ來馬岳アリ白老郡ニハ
 白老岳とくししゅうしゅべつ山アリ千歳郡ニハ紋別岳ア
 リ何レモ三千尺以上ノ高サナリ禮文草嶺ハ千八百尺ニ過
 キサル山岳ナレトモ山道ノ峻ヲ以テ名アリ
 登別岳ハ幌別郡ニアリ最高點凡ソ三千七百二十餘尺此山

ヨリ下ル所ノ小川ヲのぼりべつト云フ蓋シぬふるべつノ
 轉訛ニシテ濁川ノ義ナリ其水源ハ有名ナル一間歌泉ト數
 多ノ熱湯アリ總テ之ヲ登別ノ温泉ト云フ其質ハ硫泉ニシ
 テ温度八十餘度ニ達ス浴場ノ東北ニ小湖アリ周回四町其
 一隅ニ噴泉アリテ熱泉ヲ噴騰シ時トシテハ高サ五十尺ニ
 達ス頗ル壯觀ナリ又噴泉ヲ距ル三町餘湖畔處ニヨリテ熱
 泉ヲ湧出シ湖水之カ爲ニ五六十度ノ温度ヲ保ツニ至ル此
 地登別停車場ヲ距ル二里ノ處ニアリ近年浴場客舎ノ設ケ
 アリ浴客年ヲ追ヒテ多キヲ加フ
 有珠岳ノ北ニ當リ景勝ヲ以テ著名ナルモノヲ洞爺湖トナ
 ス周回九里六町中央ニ一大島ト三小島アリ大島ヲどうの
 しけもしりト云ヒ周回二里半其最高點ハ千三百八十餘尺

アリ湖中水深シテ清冽掬スヘク冬日ニモ凍ルコトナシ
 ト云フ南ニ有珠岳ヲ望ミ北ニ後方羊蹄岳ヲ眺メ風光佳絶
 ナリ西岸ニハ稍急峻ナル山岳並列シ南岸ハ地稍峻ニシテ
 綠林鬱茂スントモ其他ノ沿岸ハ坦道馬車ヲ通スベシ
 支笏湖ハ畧長方形ヲナシ周回九里三十二町千歳郡ノ西南
 部ニアリ樽前、惠庭、紋別ノ諸岳其周圍ニ聳エ景勝洞爺湖ニ
 譲ラズ湖水東北ニ流レをさつ湖まをいの湖ノ水ヲ併セテ
 北ニ向ヒ更ニ漁^{イ、リ}岳ヨリ發スル所ノ漁川ヲ併セ石狩ニ入ル
 則チ千歳川ナリ湖中ニ注ク所ノ諸流ニびぶい川アリ其方
 向實ニ千歳川ノ續キヲナセルモノ、如シ思フニ二流モト
 一箇ノ流ヲナシテ其間ニ陥没ヲ生シ以テ支笏湖ヲナセル
 モノナラシカ

くつたらし湖ハ白老郡ノ西端ニアリ周回凡ソ二里うつな
 い湖ハ勇拂郡ニアリ大サくつたらし湖ト相若クりをさつ
 湖まをい湖ハ相列ヒテ千歳郡ノ東北境ニアリ周回各三里
 餘アリ
 後志川ハ石狩ノ境ヨリ發シまつかり岳ノ北麓ヲ回流シ此
 田郡ノ衆水ヲ聚メ昆布岳ヨリ發スル所ノ昆布川ヲ併セテ
 後志國ニ入ル
 鷓川ハ日高山脈ヨリ發スル所ノ大河ニシテ國ノ東端ヲ流
 ル長サ三十七里河口凡七十間アリ大サ并ニ性質共ニ日高
 ノ沙流川ト相類似シ河流緩ニシテ急湍少ナシ勇拂川ノ本
 流ハうつない湖ニ發シ數里ニシテ海ニ入ル支流しあびら
 川ハ石狩國境ニ發シテ本流ニ合ス本支流併セテ長サ二十

里厚^{マシ}川^{カハ}里十七モ亦しあびら川ト殆ト同所ニ發シ南流シテ海ニ入ル

長流川^{ナガレ}卅十三町里ハ白老岳ヨリ發シ西南ニ流レテ内浦ニ入ル

白老川^{シロラ}十九里二町ハ亦白老岳ニ發シ東南ニ走リテ外海ニ注ク

ぬぶきへつ川^{ヌブキ}里十半ハふゝほる山ニ發シ南ニ走リテ内浦ニ入ル此諸川ハ皆急流ナリ此他遊樂部川、長萬部川、苦小牧川等アリ其流域皆十里ニ滿タス

此國ノ原野ハ既ニ開墾ニ屬スルモノ少ナカラス殊ニ沿海地方ハ殆ト未耕ノ地ヲ剩サス農村遠ク相連ナリ穀菽穰々トシテ馬牛蕃息セリ而シテ移住開墾ノ著名ナルモノハ舊仙臺藩士ノ有珠幌別兩郡ニ於ケル舊尾州藩士ノ山越郡ニ於ケル等ナリ

有珠郡ハ國ノ中央ニ當リ噴火灣ニ臨メル地ニシテ舊仙臺藩ノ支族伊達邦成^{イダ}藩主^{ハシ}ノ移住地ナリ明治二年邦成其舊臣ヲ率テ蝦夷地ニ移リ開拓ニ從事セシムトテ請ヒ有珠ニ來リテ地理ヲ相シ開拓ノ方法ヲ規劃ス四年舊臣等ト共ニ此地ニ移リ日夜伐刈草廬ヲ紋鼈ニ結ヒ開墾ニ從事ス是ヨリ戶口年ヲ逐ヒテ増加シ儼然村里ヲナス西紋鼈、東紋鼈、有珠、長流、稀府、黄金^{オウゴン}藥^{ヤク}ノ六村是ナリ今ヤ有珠一郡ノ人口七千有餘墾成地四千五百餘町歩ニ至レリ明治十四年車駕本道ニ幸スルヤ特ニ謁テ邦成ニ賜ヒ二十五年男爵ヲ授ケラル

幌別村ハ幌別郡ニ屬シ舊仙臺藩ノ老臣片倉邦憲ノ開墾地ナリ明治三年ヨリ五年ニ至ルマデ舊臣百五十餘人ヲ移シテ幌別、鷺別、富岸、蘭法華ノ地ニ散居シ開墾ニ從事ス今ノ鷺

里厚^マ眞^マ川^マ里^マ十七モ亦しあびら川ト殆ト同所ニ發シ南流シテ海ニ入ル

長^{ナガ}流^リ川^{カハ}卅^{サウ}十三^{シヤウ}町^{チウ}里^リハ白老岳ヨリ發シ西南ニ流レテ内浦ニ入ル

白老川十九里^{ハク}町^{チウ}二^ニハ亦白老岳ニ發シ東南ニ走リテ外海ニ注ク

ぬぶきへつ川里^ヌ十^{シウ}半^{ハン}ハふ^フトほる山ニ發シ南ニ走リテ内浦ニ入ル此諸川ハ皆急流ナリ此他遊樂部川、長萬部川、苦小牧川等アリ其流域皆十里ニ滿タス

此國ノ原野ハ既ニ開墾ニ屬スルモノ少ナカラス殊ニ沿海地方ハ殆ト未耕ノ地ヲ剩サス農村遠ク相連ナリ穀菽穰々トシテ馬牛蕃息セリ而シテ移住開墾ノ著名ナルモノハ舊仙臺藩士ノ有珠幌別兩郡ニ於ケル舊尾州藩士ノ山越郡ニ於ケル等ナリ

有珠郡ハ國ノ中央ニ當リ噴火灣ニ臨メル地ニシテ舊仙臺藩ノ支族伊達邦成^イ藩^ダ主^シ理^リノ移住地ナリ明治二年邦成其舊臣ヲ率テ蝦夷地ニ移リ開拓ニ從事セシトテ請ヒ有珠ニ來リテ地理ヲ相シ開拓ノ方法ヲ規劃ス四年舊臣等ト共ニ此地ニ移リ日夜伐刈草廬ヲ紋籠ニ結ヒ開墾ニ從事ス是ヨリ戸口年ヲ逐ヒテ増加シ儼然村里ヲナス西紋籠、東紋籠、有珠、長流、稀府、黃金^{オウ}藥^{ヤク}ノ六村是ナリ今ヤ有珠一郡ノ人口七千有餘墾成地四千五百餘町歩ニ至レリ明治十四年車駕本道ニ幸スルヤ特ニ謁テ邦成ニ賜ヒ二十五年男爵ヲ授ケラル

幌別村ハ幌別郡ニ屬シ舊仙臺藩ノ老臣片倉邦憲ノ開墾地ナリ明治三年ヨリ五年ニ至ルマテ舊臣百五十餘人ヲ移シテ幌別、鷺別、富岸、蘭法華ノ地ニ散居シ開墾ニ從事ス今ノ鷺

別、幌別、登別ノ地是ナリ
 八雲村ハ山越郡ニ屬シ舊尾州藩士ノ移住スル所ナリ明治
 十年華族徳川慶勝私費ヲ以テ舊藩士ノ貧困者ヲ移住セシ
 メント先ツ郡内遊樂部ノ地ヲ請ヒ十五年士族八十餘人ヲ
 移シテ開墾ニ從事シ遂ニ八雲村ヲ成セリ
 瀬海ノ地殊ニ西南部ハ農耕ノ業大ニ開ケタリト雖モ勇拂、
 千歳ノ兩郡及ヒ此田郡ニハ廣大ナル未墾ノ原野アリテ其
 耕牧適地凡ソ三千萬坪ニ下ラズ
 勇拂、千歳兩郡ノ原野ハ遠ク石狩原野ニ接續スルモノニシ
 テ札幌本道ノ左右ニ横ハレリ此地火山灰ヲ以テ蔽ヘル所
 多キニヨリ原野ノ廣曠ナルニ比シテ耕牧ニ適スル所少ナ
 シト雖モ農業適地尙九百萬坪アリ

此田郡ノ原野ハまつかり岳ノ麓ニアリ延テ後志國磯谷郡
 ニ連レリ上下ぬぶきべつ、めな、くつちヤンノ四原野ニ分ル
 ぬつきべつ原野ハまつかり岳ノ南麓ヨリ洞爺湖畔ニ至リ
 めな原野ハまつかり岳ノ東麓ニ當リくつちヤン原野ハ其
 ノ北麓ニ當レリ此地方中最良ノ農業地ハくつちヤン原野
 ナリ
 室蘭港ハ本道南部ノ要港ニシテ繪鞆岬ノ内ニ位ス灣口西
 ニ向ヒ大黒島ノ小嶼其口ニ當レリ室蘭ノ地ハ其ノ對岸元
 室蘭村ニシテ此地ハ舊名ヲ砥刈^{ツクリ}牟伊^{ムイ}ト呼ヒタリシカ明治
 五年新港ヲ此ニ開キ今ノ名ニ改ム
 此地本道南部ノ要路ニ當リ炭鑛鐵道ノ起點ナルヲ以テ貨
 物ノ出入旅客ノ來往頗ル頻繁ニシテ函館、森、青森ノ諸港ヨ

リ定期船ノ航通間斷ナク港内ニハ船舶常ニ輻輳シテ最モ繁昌セリ

市街ハ半島ノ中ニアリ丘陵ヲ負ヒテ北ニ向フ郡役所、電信局、病院等アリ現今人口二千餘ニ過キスト唯此戸口年ヲ逐ヒテ著シク増加セリ此港ハ海軍軍港ノ豫定地ナレバ遠カラズ鎮守府ヲ設置スルニ至ルヘキナリ

紋龍村ハ東西併セテ戸數凡ソ八百アリ國中ノ名邑ニシテ紋龍製糖會社アル所ナリ其灣ハ船舶ヲ碇泊スルニ足ル

苦小牧ハ百四十餘戸ノ小村ニ過キサレトモ札幌本道ト東海岸線路ノ分ル、所ニシテ南海岸ノ要地ニ當リ又停車場ノアル所ナルヲ以テ聞ユ

國中所々ニ舊城跡アリちやしないニハ酋長ノ舊城趾ト稱

スルモノアリ又城跡アリテ勾玉、鍬玉、土器ノ破片等ヲ出ス

白老驛ノ北方凡十町ノ處ニ舊仙臺藩ノ陣屋址アリ往年該藩此ノ地ノ支配タリシ時戌將ニ命シテ營ヲ築カシメシ所ナリ

鐵產物ハ岩雄登ヨリ硫黃ヲ産シ年々二三萬石ヲ採掘セリ

山越郡ニハ渡島國茅部郡ニ連續セル沙鐵地アリ採取スルニ足ル

此國ノ漁况ハ大ニ趣テ以上諸國ト異ニシ鯨漁場ハ僅ニ内浦ノ沿岸數所ニ止マリ其他ハ絶テアルコトナシ加之此數所モ亦年々魚群ノ來集ヲ期スルコト能ハス之ニ反シテ鯨ノ好漁場ハ此國ニアリ殊ニ白老、勇拂二郡(樽前ト稱ス)ハ最モ良好ノ漁場ニシテ區域ノ廣キ收穫ノ大ナル全道第一ニ

居ル鯉ハ鵠川、白老川、長流川、長萬部川、遊樂部川等ニ溯上ス
 レトモ好漁場ト稱スヘキモノナシ鮪ハ内浦ニ産シ昆布ハ
 産額モ少ナク品質モ劣レリ白老沖ニ鱈漁場アレトモ良好
 ナルモノニアラス海扇ノ著名ナル産地ハ室蘭灣ニシテラ
 ばがい(方言ほつき)ハ峴別郡ノ沿海及ヒ内浦ニ産ス

日 高 國

西ハ膽振ニ接シ北ハ石狩ニ交ハリ東北ハ日高山脈ヲ以テ
 十勝ト境シ南ハ大平海ニ面ス地形西北ヨリ東南ニ傾キ其
 東南部ハ斜ニ海中ニ突入シ渡島ヲ除クノ外本道中最南ニ
 アル國ナリ史ニ稱ス東夷日高見國アリト日高ノ名蓋シ此
 ニ起ル而積三百二十方里人口一萬四千二百五十分テ砂流、
 新冠、静内、三石、浦河、様似、峴、泉ノ七郡トナス海岸線ノ延長四
 十四里十四町アリ
 日高山脈蜿蜒トシテ十勝ノ境ヲ域リ延テ海中ニ突出シ襟
 裳岬トナル此山脉ハ東十勝ノ平原ニ向テ急ニ傾斜シ西日
 高ニ向テ緩斜ス而シテ日高國全躰ハ實ニ此緩斜ヨリ成レ
 ル所ノ高原ナリ此山脉ハ山脊極メテ峭立シ就中高峻ナル

モノハペけれべつ岳八千七百ぼろしり岳九千三百をむし
 ヤ岳六千六百びろろ岳六千六百神威岳四千九百等トシ十
 勝方面ニ屬スル高峯亦少ナカラス
 神威岳ノ頂部ハ岩石怪孺トシテ露出シ沙流川筋ヨリ之ヲ
 望ムニ山勢頗ル峻峭ナリ土人種々ノ口碑ヲ信シテ其頂上
 ニ登ルコトヲ肯セスト云フ
 ペけれべつ岳ハ日高、十勝、石狩三國ノ間ニ聳エテ沙流川ノ
 水源ヲナシ其北ニ下ルモノハ石狩國空知川ニ注グ勝振ノ
 鵠川モ亦此山ノ西側ヲ水源トナセリ
 襟裳岬邊ニ位スル山岳ハ甚タ高カラスト雖モ峻峯怪岳巍
 ヲトシテ海岸ニ至テハ俄然トシテ絶壁ヲ作りタル所少ナ
 カラス有名ナル様似山道并ニ猿留山道ハ此處ニアリ岬頭

ハ海中亂石塊孺トシテ散在シ殊ニ東南ニ延長セル長キ暗
 礁アリテ航海ノ妨碍ヲナス是レ實ニ日高山脈尖端ノ形勢
 ナリ
 海岸ハ絶テ港灣ノ出入ナク國ノ名邑浦河、幌泉ノ如キハ瀕
 船ノ交通船舶ノ碇泊スルモノアレドモ何レモ港灣ノ性質
 ヲ顯スコトナシ様似山道ノ沿岸及ヒ庶野猿留間ヲ除ケハ
 多ク砂濱ニシテ其上ニ海成段階長ク延亘セリ
 川ハ皆源ヲ日高山脈ニ發シ西南ニ流レテ海ニ注ク其最大
 ナルモノヲ沙流川トス源ヲペけれべつ岳ニ發シ佐瑠太村
 ニ至リテ海ニ入ル長サ三十四里河口幅凡ソ七十間下流凡
 ソ十里ノ間ハ舟楫ヲ通スベシ厚別川ハ沙流、新冠兩郡ノ間
 ヲ流ル流長十二里餘新冠川ハ同名ノ郡中ヲ流レ高江村ニ

至リ海ニ入ル新冠ノ牧場ハ此川ノ沿岸ヨリ靜内郡ニ跨レ
 ル廣大ナル牧馬場ナリ染退川ハ靜内郡ノ山中ニ發シ染退
 ニ至リ海ニ注ク此地シヤクシヤいんノ據テ叛セシ所ニシ
 テ其名高シ元浦川、幌別川ノ二川共ニ浦河郡ニアリ十勝ノ
 境ニ發シテ海ニ入ル此他三石川、梶舞川、様似川、幌滿別川、猿
 留川等アリ
 此國ニ在リテ名邑ト稱スヘキハ浦河、幌泉ニ過キス浦河ハ
 浦河郡ノ海邊ニアリ人家殆ト三百戸浦河外六郡役所アリ
 テ日高全國ヲ統轄セリ幌泉ハ幌泉郡ニアリ往昔此地ヲ以
 テ口蝦夷與蝦夷ノ分界ヲナセリ戸數亦三百ニ近シ二村共
 ニ船舶ヲ碇泊スベク港灣ト稱スヘカラサルモ亦南海岸ノ
 要地ナリ

此他佐溜太、賀張、下々方、斌布、様似、猿留ノ諸村ハ皆百戸ニ滿
 タサル小村落ナレトモ東街道ノ驛次ニシテ小船漁船ヲ容
 ルハニ足ル
 沙流郡佐瑠ハあいぬ人ノ以テ創業ノ地トナス所ニシテ彼
 ノ女神カ天降リタリト云フモ郡中平取ニ近キ山中ニアリ
 ト唱フ彼等ハ往昔ヨリ佐瑠ヲ以テ第一ノ都會トナシ總酋
 長ノ居住地ト稱ス此地ノあいぬハ種族正シク品格高尙ニ
 シテ言語亦素レス勇敢ナルコト比類ナク他ノ夷人皆之ヲ
 尊敬セリト云フ昔時此郷ノ土人ヲ御味方蝦夷ト呼ヒ毎歲
 恩賜ヲ加ヘタリ蓋シ蝦夷蜂起ノ時松前ニ屬シタルヲ以テ
 ナリ
 あいぬ人口ノ多キコト此國ヲ最トス則全道一萬七千餘人

中凡ソ六千人ハ此國ニ在リテ實ニ三分ノ一以上ヲ占メタ
 リ國中又わいぬニ關スル舊跡乏シカラス
 沙具沙允壘ハ靜内郡染退川畔ニアリ寛文年間據リテ以テ
 松前ニ叛セシ所ナリ
 沙流郡波惠ニ鬼菱ノ宅址アリ鬼菱ハはいノ酋長ニシテ沙
 具沙允ト戰テ死セシモノナリ
 百人濱ハ襟裳岬ノ東ニアリ傳ヘ云フ沙具沙允ノ逆亂ニ黨
 シタル鑛夫百人ヲ戮シタル地ナリ或ハ曰ク船難破シテ溺
 死ノ人ヲ埋ムト其他數説アレトモ考フヘカラス
 義經社ハ沙流郡平取村ニアリ源廷尉ヲ祀ル村中義經砦趾
 ト稱スルモノアリ傳ヘ云フ平泉ノ戰ニ敗レテ此地ニ遁レ
 はいニ居リ武威ヲ以テ蝦夷ヲ風靡ス是ヨリ蝦夷日本ノ武

威ニ服スト源經之渡道崇ノ敬シ本道各地上人遺跡トキスルモト
 セシ甚モ多クナシ成ノハ云フ人モ千餘ノ下無智ノ頑民ヲシテ崇
 ハ敬アセラシム且別ニ如道ヨチ見州ハ必渡リ凡拔群アノ人ヲモス
 テ本道ナチ去サリルモ亦知ルヘカラルス暫觀クハ波道疑ナ事存スレ
 國中山岳多クシテ原野ノ廣大ナルモノナク僅ニ河流ノ兩
 岸ニ沿ヒテ多少ノ平地ヲ見ルノミ新冠牧馬場ハ稍廣大ナ
 ル高原ニシテ新冠、靜内兩郡ニ跨リ面積二千餘萬坪アリ
 沿海ノ地ハ概テ開墾ニ屬シ村里相望ミ内部モ亦河流ニ沿
 ヒテ深く關ケタル所アリ此國ニ於ケル移住ノ重ナルモノ
 ハ靜内郡ニ稻田邦植ノ家臣ヲ率ヒテ移住開墾セルモノア
 リテ上下方、中下方、下下方、目名、遠佛、有長、門別ノ七村ヲ成セ
 リ浦河郡ニハ赤心社ノ移民アリ荻伏、後邊戸、西舍ノ三村ヲ

中凡ソ六千人ハ此國ニ在リテ實ニ三分ノ一以上ヲ占メタ
 リ國中又あいのぬニ關スル舊跡乏シカラス
 沙具沙允壘ハ靜内郡染退川畔ニアリ寛文年間據リテ以テ
 松前ニ叛セシ所ナリ
 沙流郡波惠ニ鬼菱ノ宅址アリ鬼菱ハはいノ酋長ニシテ沙
 具沙允ト戦テ死セシモノナリ
 百人濱ハ襟裳岬ノ東ニアリ傳ヘ云フ沙具沙允ノ逆亂ニ黨
 シタル鐵夫百人ヲ戮シタル地ナリ或ハ曰ク船難破シテ溺
 死ノ人ヲ埋ムト其他數説アレトモ考フヘカラス
 義經社ハ沙流郡平取村ニアリ源延尉ヲ祀ル村中義經砦趾
 ト稱スルモノアリ傳ヘ云フ平泉ノ戦ニ敗レテ此地ニ遁レ
 はいニ居リ武威ヲ以テ蝦夷ヲ風靡ス是ヨリ蝦夷日本ノ武

威ニ服スト源經之渡道崇ノ本道各地上人遺跡ト稱スルモト
 セン甚モ多ク成ハト云然レトモ千餘ノ下無智ノ頑民ヲシテ崇
 ハ敬アセラシム且別此ノ如キヨチ見州ハ必ス超凡拔群アリ人ヲシテ崇
 テ本道ナチ去サリタルモ亦知ルナヘ傳カラルス暫クレハ渡テ疑ナ事存ス
 國中山岳多クシテ原野ノ廣大ナルモノナク僅ニ河流ノ兩
 岸ニ沿ヒテ多少ノ平地ヲ見ルノミ新冠牧馬場ハ稍廣大ナ
 ル高原ニシテ新冠靜内兩郡ニ跨リ面積二千餘萬坪アリ
 沿海ノ地ハ概テ開墾ニ屬シ村里相望ミ内部モ亦河流ニ沿
 ヒテ深ク關ケタル所アリ此國ニ於ケル移住ノ重ナルモノ
 ハ靜内郡ニ稻田邦植ノ家臣ヲ率ヒテ移住開墾セルモノア
 リテ上下方、中下方、下下方、目名、遠佛、有長、門別ノ七村ヲ成セ
 リ浦河郡ニハ赤心社ノ移民アリ荻伏、後邊戸、西舍ノ三村ヲ

成セリ
 此國著シキ鑛産ナシ唯石灰石、沙金ノ二者擧クルニ足ルノ
 ミ石灰石ハ三石川ノ上流六里ノ所及ヒ幌別川ヲ浜ルコト
 凡三里ノ處ニアリ此岩層ハ延長七里ニ連亘シ石質頗ル美
 ナリ沙金ハ幌別川及ヒ元浦川ニ産スレトモ其量多カラズ
 水産ノ首位ヲ占ムルハ昆布ナリ靜内郡以東盛ニ之ヲ産ス
 殊ニ最モ繁茂スルハ襟裳岬邊ニアリ其地形峻崖ニシテ暗
 礁基布シ昆布之ニ蔽ヒ生シテ水際ヨリ沖出五六百間ニ及
 プ而シテ品質ノ最良ナルモノ亦此岬邊ノ産ニアリ有名ナ
 ル昆布ノ三場所ト稱スルハ此國ノ產地ニ謂フナリ鱚漁場
 ハ全海岸各所ニ散點シ門別、嫉布、浦河等ヲ著名ノ地トス鮭
 ハ幌別、元浦川、染退、新冠、様似、三石諸川皆溯上シ沿海ニ於テ

ハ幌泉ヨリ新冠ニ至ルマデヲ良好ナル漁場トス鱈ハ主ト
 シテ襟裳岬ヨリ靜内ニ至ル海上ニ産ス

十勝國

十勝ハ東部ノ大國ニシテ西ハ日高ニ接シ北ハ石狩北見ニ
 連リ東ハ釧路ニ隣リ南ハ海ニ濱ス沿海ノ地僅ニ二十餘里
 分テ七郡トナス曰ク廣尾、當縁、十勝、中川、河西、河東、上川是ナ
 リ面積六百三十九方里人口僅ニ三千百餘人ニ過キス全道
 中除ク島々最モ未開墾ノ土地ニシテ曠原草野至ル所茫々々
 リ
 地勢西方ハ日高山脈峨々トシテ日高ノ境ヲ限リ北ハおふ
 たてしけ山脈高ク雲際ニ聳ユ東北ハ千島帶山脈北見及ヒ
 釧路ノ境ニ綿亘シ正東ノ一面獨リ高原ヲ以テ釧路ニ連レ
 リ
 國ノ北境ハ千島帶山脈ト日高山脈ノ交錯スル所ニシテ秀

テテをふたてしけ山塊トナリ全道中最大隆起ヲナシ高山
 峻峯巍々トシテ雲表ニ聳ユ其最モ高峻ナルモノヲ十勝を
 ふたてしけ、どんらうし諸岳トス十勝岳ハ石狩ノ境ニ跨リ
 タル噴火山ニシテ十勝川ノ水源ヲナシ海面ヲ抜クコト六
 千五百八十尺アリをふたてしけ山ノ最高點ハ六千五百三
 十四尺アリどんらうし岳ハ更ニ其東ニ峙チ高サ六千七百
 五十六尺此山脈中ノ最高峯ナリ其東ニ石狩岳アリ
 此山脈ハ概シテ上部所々ニ高崖アリト雖モ頂上ハ却テ峻
 嶮ナラス石狩ニ越ユルノ通路數所アリ通常土人が十勝ヨ
 リ石狩ニ越ユルハさをろ川ヲ上リテをふたてしけノ西部
 ナル凹所ヲ過キ空知川筋ふらぬいノ平原ニ出ヅルナリ
 日高山脈ニ屬スルモノハさをろ岳七千三百七十九尺をろ岳千五

八百五ほろしり岳五千九百びばいり岳五千九百等ヲ最高
 峻ナリトスさつない岳四千八百きうさん岳四千九百に
 んね岳二千等ハ河西郡ノ西部ニ聳エテ亦日高山系ニ屬
 ス此等ノ諸山多クハ十勝川西部支流ノ水源ヲナス則チさ
 つない川ハさつない岳ヨリ發シびばいろ川ハびばいろ岳
 ヨリ發シめむをろ川ハめむをろ岳ヨリ發シさをろ川ハさ
 をろ岳ヨリ發ス日高山脈ノ東側ハ傾斜極メテ急ナルヲ以
 テ諸川ノ上流ハ激流瀑布甚ダ多シ
 河東郡ニ於ケル高山ハにベそつ岳十六千七くまねしり岳千
 百八うべいさんげ岳七千六百等ヲ主トシ音更、然別、べつう
 とる、びんかちんない諸山アリ何レモ千島帶山系ニ屬スぬ
 ぶかうし岳ハ高サ三千七百七十尺ニ過キサル一山ナレト

モ河東郡ノ中央ニ位シ是ヨリ以南ハ茫々タル十勝原野ナ
 ルヲ以テ特ニ人目ヲ引クニ足ル
 十勝川ハ源ヲ國ノ西北十勝岳ニ發シ上川郡ノ衆流ヲ併セ
 テ南流シ河西郡ニ至リテ東南ニ向ヒ中川郡ニ入りテとし
 べつ川ヲ併セ十勝郡ヲ過キテ東海ニ注ク下流二派ニ分レ
 一ハ大津村ノ海ニ入ル之ヲ大津川ト云フ一ハ十勝村ノ海
 ニ入ル流長四十九里二十三町下流ノ幅八十餘間アリ
 十勝川ノ支流中最大ナルヲとしべつ川トス源ヲ釧路國ニ
 發シ中川郡ニ於テ本流ニ會ス之ニ次クヲをどふけ川七二里
 三十三里トス此三川ハ皆千島帶山脈ヨリ
 下ル所ノ水流ナリ日高山脈ヨリ下ル所ノ最大支流ハさつ
 ない川ニシテ其長サ二十三里餘アリ

べるふね川ハ當縁郡ニアリ一名ヲひかた川ト稱ス蓋シ西
 南風四南ハ風たト云フニ時ハ暴雨ヲ降シ河水頓ニ漲溢スルヲ
 以テナリ源ヲ神威岳ニ發シ東ニ流レテ海ニ注ク其長サ十
 六里餘もべつ、とよいべつ、ぬぶかべつ、らつこべつノ四川ハ
 皆廣尾郡ニアリテ其流各十里ニ近シ
 十勝ノ諸川ハ美麗ナル河成段階ノ著シク發生シタルヲ以
 テ特性トス其數多キモノハ三四段ニ至リ最上段ハ河水ヨ
 リ凡ソ百尺ノ高ニ達シ高原地小丘ノ表面ト辨別シ難キモ
 ノアリ支流ハとしへつ川ヲ除クノ外殆ト舟ヲ通スヘカラ
 サレドモ本流ハ小舟ニ乗シ遙ニ竿呂川ノ河口ニ達スベシ
 然別湖ハ河東郡ニアリ其地海面ヲ抜クコト凡ソ二千尺周
 回四里アリ湧洞沼ハ周回四里二十四町をいかまない沼ハ

三里二十九町二沼共ニ海岸砂丘ノ背後ニアリテ河流ノ下
 部ヲナセリ思フニ其生成ノ原因風波ノ爲ニ砂丘ヲ生シ河
 水ヲ滯溜シタルニ因ルナラン
 十勝ノ地タル北部及ヒ西部ノ山地ヲ除クノ外漠々タル高
 原ニシテ東ノ方遠ク釧路根室ニ連レリ原野ノ長サ大約二
 十餘里其ノ幅殆ト之ト相等シ大小數十條ノ支流ハ東北
 西ノ三方ヨリ殆ト直角ヲナシテ本川ニ注キ灌溉ノ利、水運
 ノ便缺クル所ナシ河畔ノ沖積地ニハ芋々タル豊草鬱蒼タ
 ル緑樹相交リ廣潤ナル段階ハ層々相累ナリ山麓ニ至ル土
 地高燥ニシテ地味肥沃以テ開耕スヘク以テ放牧スベカラ
 サルモノナシ
 北方ノ大山脈ハ此國ノ爲ニ自然ノ障屏トナリテ凍々タル

北風ヲ防キ濕氣モ亦其遮ル所トナリ凝結シテ雨水トナル
 殊ニ黒潮ノ暖流ハ沖合ヲ流ル、カ故ニ氣候ノ溫暖ニシテ
 空氣ノ干燥セルコト大ニ西北諸州ト趣ヲ異ニス
 十勝川下流ノ地ハ左右山麓相迫ルト雖也流ニ沿ヒテ上ル
 コト十餘里ノ所ニ至レハ兩岸ノ地一望開豁西北遙ニをぶ
 たてしけ、ぼろしり、うべいさんけ等ノ高峯ヲ望ムノ外復目
 ヲ遮ルモノナシ
 肥沃ノ沖積土ハ河岸ニアリ其厚サ數尺乃至數十尺ニ及ブ
 而シテ其最モ深ク且地積ノ大ナルハ本流ノ沿岸ニアリテ
 上流ハくつたらし、にどまっふ、めむろ、中流ハふしこべつ、を
 びひろ、しろつと、まくべつ、やむわつか、どしべつぶとノ諸原
 野ナリ下流ニ至テハ山坡ナルアリ泥炭濕地ナルアリテ農

業適地甚少シ高丘ハ黑色ノ壤土僅ニ一二寸ニシテ下而ニ
 薄層ノ火山灰アリ土壤輕鬆ニシテ干燥ニ失シ地力培養ニ
 乏シ此ノ如キ土地ニアリテハ牧畜ニ主要ナル牧草ヲ得易
 カラザレバ寧ロ天然草ニ依リ地力ノ許ス限り放養スヘキ
 カ
 此國ノ殖民地積凡ソ八億九千餘萬町步アリ其中直ニ開墾
 シ得ベキモノ一億七千六百八十萬坪牧畜ニ適スルモノ凡
 ソ六億萬坪アリ原野ノ廣大ナルニ比シテ開墾適地少ナク
 却テ牧畜ニ適スルモノ此ノ如ク多キヲ見レハ或人ノ此國
 ナ稱シテ天然ノ大牧場ナリト呼ヒタルハ果シテ誣ヒサル
 ナ知ルベキナリ
 國中名邑ナク又港浦ナシ廣尾郡ノ茂寄村及ヒ十勝郡ノ大

津村ハ沿海ノ驛次ニ當リ人家百餘戸國中最大ナル聚落ナ
 リ共ニ船ヲ楫スルニ足ル
 此國ハ有用鑛物甚乏シク所々褐炭ノ露出スルアレトモ採
 掘スヘキモノ極テ少シ十勝石ハ飾玉ニ供スヘクシテ人ノ
 珍重スル所ナレトモ其產出自ラ限アリ
 漁業ノ利亦甚大ナラス產類ノ最大ナルヲ鮭トシ專ラ十勝
 川ニ産ス其他ノ諸川及ヒ十勝川河口ノ沿岸ニモ産スレト
 モ甚少量ナリ廣尾郡ハ昆布ノ名產地ニシテ盛ニ良質ノモ
 ノヲ産ス鱈モ亦同郡ニ限リテ之ヲ産ス

鉏 路 國

西八十勝ニ連リ北ハ千島帶山脉ヲ以テ北見ト境シ東ハ根
 室ニ交ハリ南ハ海ニ望ム面積四百六十四方里分テ足寄、白
 糠、阿寒、鉏路、川上、厚岸ノ六郡トナス人口一萬六千三百餘人
 アリ
 國ノ北方ハ千島帶山脉蜿蜒連亘シ其餘脉延テ足寄、阿寒、川
 上ノ三郡ニ起伏シ山岳豁谷相交リテ平地少ナシ南部ハ廣
 ヲタル平地ニシテ東根室ノ高原ニ開ケ西十勝ノ高原ニ連
 リ三國一帯ノ高原ヲナセリ只西部ハ千島帶ノ南側雌阿寒
 岳ヨリ南ニ下リタル一ノ山地ナレトモ甚高カラザルヲ以
 テ十勝原野ニ接続スト云フモ妨ナキナリ東部ハ一帯ノ原
 野ニシテ根室トノ境界線ハ全ク人爲ニヨリ毫モ天然ノ地

勢ニヨリテ定メタルモノニアラス
 此國著名ノ山岳ハ概テ皆火山ナリ唯阿寒岳ハ國ノ北部阿
 寒湖ノ西南ニ聳ユル高山ニシテ高サ凡ソ四千八百尺其山
 脉一ハ東ニ走リテ北見ノ諸山ニ連リ一ハ南方白糠郡ニ亘
 ル山上大噴火口アリテ常ニ硫烟ヲ噴出ス足寄川ハ源ヲ此
 ニ發シ西南ニ流レテ十勝ニ入ル此山ハ硫黄ヲ産シ現ニ存
 スル所ノ硫磺五十萬石ヲ下ラスト云フ雄阿寒岳ハ雌阿寒
 岳ト相對シ阿寒湖ノ東ニ聳ユ直立凡ソ五千尺アリ
 跡佐登岳ハ有名ナル硫黄山ニシテ釧路港ノ北凡ソ二十里
 ニアリ高サ僅ニ千六百五十尺ニ過キスト雌ニ硫黄ノ量頗
 ル多キヲ以テ夙ニ顯ハル山麓ヨリ標茶ニ至ルマテ二十四
 哩ノ鐵道ハ主トシテ採掘セル硫黄ヲ運搬センカ爲ニ布設

シタルモノナリ標茶ニハ安田硫黄山事務所アリ硫磺ヲ精
 煉シ釧路川ニヨリテ之ヲ釧路港ニ輸セリ
 摩周岳ハ國ノ東北方ニアリ西別川ノ水源ヲナスヨリテ亦
 西別岳トモ云フ其西ニ摩周湖アリ
 海岸ハ十勝、日高等ニ比スレハ稍屈曲多クシテ港灣少ナカ
 ラズ釧路厚岸濱中ノ三港ハ船舶ノ出入ニ便ニシテ東海岸
 ノ要港タリ
 釧路港ハ特別輸出港ニシテ釧路川ノ河口ニアリ戸數八百
 餘釧路外十二郡ノ郡役所ハ此地ニアリテ十勝、釧路ノ二國
 ヲ管轄ス東海岸ノ要路ニ當ルヲ以テ市街稍賑ハヘリ厚岸
 港ハ厚岸灣ト厚岸沼トノ間ニ狹マレタル地ニアリ灣ノ西
 ニ突出スルヲしりば岬トシ其口ニアルヲ大黒島トス港内

水深カラスト雖も商船漁船ヲ碇泊スルニ足ル仙鳳趾ハ灣ノ西岸ニアリ又船舶ノ碇泊所ナリ濱中灣ハ國ノ東端ニアリ霧多布島其西ニ横ハレリ

釧路川ハ源ヲ釧路湖ニ發シ南ニ流レテ川上、釧路兩郡ノ水ヲ併セ釧路港ニ至リテ海ニ入ル全長三十三里河口ヲ距ルコト一里ニシテ之ニ會スルモノヲ阿寒川トス源ヲ阿寒湖ニ發スル一大支流ニシテ長サ二十五里餘アリ

しよろ、川及ヒちヤル川ハ白糠郡ニアリテ全郡ノ海ニ注キベかんべうし川ハ原岸郡ニアリテ厚岸沼ニ注ク

厚岸沼ハ鹹湖ニシテ周回凡七里湖中一面ニ牡蠣ヲ生シ中ニ數箇ノ牡蠣島アリ于潮ノ時水面ニ現ハル、所ノ牡蠣島五十有餘ニ及フ湖ノ面積一千餘萬坪ニシテ牡蠣ノ蕃殖ニ

適スル所凡ソ五百餘萬坪其面積ノ廣大ニシテ産額ノ饒多ナル本邦中第一ニ居ルト云フ

阿寒湖ハ釧路、摩周兩湖ト共ニ火山湖ニシテ周回六里雌雄兩岳相對シテ其兩岸ニ聳ニ數箇ノ小島其上ニ浮ブ綠樹青草蔚トシテ湖畔ヲ彩リ怪嶺奇石巍峨トシテ其岸ニ峙ツ風色ノ絶佳ナル全道實ニ此湖ヲ推スベシ

釧路湖ハ國ノ北境ニアル大湖ニシテ周回凡十二里とうもしり島其中ニ屹立シ釧路岳其北ニ聳ニ樹木鬱蔚水波清冽風光ノ美阿寒湖ニ讓ラスをわくち半島北ニ向ヒテ湖中ニ突出シ其上ニ數箇ノ温泉アリ湖中奇魚ヲ産ス

摩周岳ハ海ヲ抜クコト凡ソ三千尺其上ニ摩周湖アリテ周回凡ソ三里舊噴火坑ナリ湖中一島アリ神岩ト云フ湖水四

塞シテ流レズ思フニ側面ノ虧隙ヲ通シテ西別川ニ落ツル
 モノナラン摩周岳ハ西別川ノ水源ニアルヲ以テ又呼ヒテ
 西別岳トナス西別川ハ東流シテ根室ニ入ル
 釧路川ノ東岸ニ數湖アリトイハル湖最大ナリシラウとろ
 沼之ニ次ク湖水皆釧路川ニ注ク
 殖民地積凡ソ四億七千餘萬坪ニシテ高丘平地和半バシ直
 ニ開墾シ得ヘキモノ凡ソ一億三千七百餘萬坪アリ此地南
 海岸ヨリ東根室ニ連レル臺地ニシテ一望宛モ無限ノ沃野
 ナルカ如キモ多クハ丘陵山坡ニ屬シ平地ハ多ク泥炭濕地
 ナルヲ以テ殖民適地以外ニ少ナシ然レトモ釧路、阿寒、せち
 り三川ノ沿岸ニハ肥沃ノ原野亦少ナシトセズ西方足寄ノ
 曠原及ヒ東方西別ノ廣野ハ土地高燥ニ過キ地味亦不長ナ

リ沿海丘阜ノ地望ヲ屬スヘキモノナキニアラサルモ良好
 ノ殖民地トハ稱スヘカラス
 此國ニ於ケル移住民ノ著シキモノハ釧路郡島取村トス島
 取縣士族ノ移住開墾スル所ニシテ戸數凡ソ百餘戸アリ
 鑛産ハ跡佐登及雌阿寒ノ硫黃ヲ始トシ廣大ナル煤田アリ
 總稱シテ釧路煤田ト云フ釧路町ヲ中央トシ東ハ厚岸ヨリ
 西ハ尺別ニ至ルマテ沿海二十五里ノ間ニ散布シ其著名ナ
 ルモノハ西ニ尺別煤田アリ北ニ舌辛煤田アリ釧路町ノ東
 ニ春鳥、別方、昆布森ノ諸煤田アリ
 水産物ハ昆布ヲ最トス根室ノ境ヨリ釧路河口ニ至ルノ間
 暗礁斷續シテ昆布茂生シ唯落石ヨリ濱中ニ至ル數里ノ間
 其生稍薄キノミ然レトモ區域ノ廣大ニシテ生育ノ豐饒ナ

ル全道第一ニ居ル諸川概皆鮭ヲ産セサルナク沿海ニハ釧路濱中ノ二港其好漁場ナリ牡蠣ハ專ラ厚岸湖ニ産シ其盛ナルコト比類ナシ又此國ノ近海ハ鱈ノ最良漁場ナリ其他海藻雜魚等多少ノ産出アラサルナシ

釧路ハ原語チクツチャロト云ヒ咽喉ノ義ナリ釧路湖口ハ古ヨリあいぬノ大部落ニシテ宛モ咽喉ニ當ルヲ以テ名ク松前氏ノ時クツチャロあいぬヲ今ノ釧路港ノ地ニ移シ久壽里場所ト稱ス是レ國名ノ因テ起ル所ナリ此國ハ山ニ鑛物ノ富アリ水ニ魚介ノ利アリ且釧路厚岸等ノ諸港ハ室蘭ニ次ゲル良港ニシテ地勢天産共ニ隣國ニ優レリ假令耕耘適地甚廣大ナラスト雖モ將來東海岸中最モ殷富繁昌ノ地トナラシコト更ニ疑ヲ容レンサル所ナリ

根 室 國

根室ハ本島ノ極東ニ位シ西ハ釧路ニ接シ西北ハ北見ニ境シ東ハ海ニ臨ミ根室峽ヲ隔テ、千島ノ國後島ト相對ス花咲、根室、野付、標津、目梨ノ五郡アリ面積二百一一方里全道中ノ最小國ナリ人口凡ソ一萬九千人アリ

地形宛モ島ノ兩翼ヲ張ルカ如ク東北ノ一端ハをこつく海中ニ突出シテ知床岬トナリ東南ノ一端ハ太平洋海中ニ突出シテ納沙布岬トナル兩岬ノ間自ラ一大灣ヲナス則根室灣ナリ

北方北見ノ境ハ千島帯ノ連山綿亘シ延テ知床半島トナリ斜里、標津、良牛、ちぢる、るしやノ諸岳アリ、殊ニ良牛岳ハ直立五千四百尺最モ高峻ナリ其北面北見ニ屬スル所ニ硫黃礦アリ

リ知床嶺黃山ト稱スルモ、是ナリ岬端ハ巉岩屹立シテ、
 浪其下ニ激シ地勢極メテ峻惡ナリ
 地勢西ヨリ東ニ傾キ河川皆西ニ發シテ東ニ注ク國ノ南部
 ハ概テ高原平野ニシテ山岳ナク遠ク釧路ノ原野ニ接續セ
 リ殖民地積三億八千餘萬坪ニシテ直ニ開墾シ得ヘキモノ
 九千萬坪ニ下ラス牧畜ニ適スルモノ二億三千餘萬坪アリ
 原野ハ土性ノ肥瘠及乾濕ノ度一様ナラスト雖モ植物ノ種
 類其生長ノ狀況ニ至リテハ各地畧同一ナリ標津、西別、風連、
 諸川ノ兩岸ハ山趾ニ至ルニ從ヒ高低アリト雖モ一望平衍
 ニシテ地性高燥ナリ諸原野中もさ原野ハ標津郡ニアリテ
 南野付郡ニ連リ標津岳ノ山脈ヲ以テ西北方ヲ塞キ東ハ海
 ニ面シ氣候温和ナルコト國中第一トス

川ノ最大ナルヲ西別川トシ全長二十八里餘源ヲ釧路ノ西
 別岳ニ發シ野付郡ヲ貫キテ灣内ニ注ク此川ハ有名ナル鮭
 產地ニシテ河幅五十間ニ過キス夏日ハ徒涉スルヲ得ヘキ
 淺流ナレトモ年々ノ漁獲凡ソ二千石ニ達スト云フ
 風連川ハ國ノ西境ニ發シ根室郡ヲ流レ風連湖ニ注ク長サ
 二十里標津川ハ釧路ヨリ來リ標津村ニ至リ灣ニ入ル全長
 十七里アリ
 諸川皆下流ハ緩流ニシテ河口ニ於テ極メテ濁レリ西別川
 ト風連川トハ外觀畧相似タレトモ風連川ハ河岸ニ濕地甚
 多ク且ツ河底ノ泥土甚深キヲ異ナレリトス
 風連湖ハ海岸湖ニシテ根室郡ニアリ周回十五里其東ニを
 んね湖アリ

野付岬ハ國ノ中央ヨリ灣内ニ突出セル砂嘴ニシテ千島ノ國後島、野津江登岬ト相對シ其間十海里ニ過キス
 納沙布岬ハ則チ花咲郡ノ東角ニシテすいしよ、あきゆり、しぼつ等ノ諸島其前ニ列ナリ遙ニ千島ノ色丹島ト相對ス其間ヲ瑤瑤瑠水道ト云フ海中暗礁少ナカラス船ノ航行尤モ注意ヲ要ス岬頭第五等燈臺ヲ設ク
 離島ハ納沙布岬頭ニすいしよ、うり、しぼつ、たらく等ノ諸島ヲ主トシ小嶼亦少ナカラス最大ナルモノハ周回十數里アリ各島皆樹木矮小ニシテ木材ニ乏シク海産ハ主トシテ昆布ニ限ラル夏期ニ方リテハ漁夫ノ來リ住スルモノ多シト雖モ終年此ニ居住スルモノハ極メテ少ナク殆ト無人島ニ異ナラス多樂島ニ美麗ナル玉髓石ヲ産ス之ヲ多樂石ト

稱ス
 花咲郡ノ南岸ニ二小島アリ一ヲ緩島ト云ヒ一ヲ小緩島ト呼ブ
 根室港ハ根室灣ノ南岸ニアル要港ニシテ其繁盛ナルコト小樽港ニ亞キ東北海岸中唯一ノ都會ナリ戸數殆ト三千人
 口一萬二千アリ港口北ニ向ヒ中ニ辨天島アリ島上燈竿ヲ設ク郡役所警察署地方裁判所等皆此地ニアリ傍近ノ地漁業殊ニ盛ナルヲ以テ豪商大賈少ナカラス市街最モ般賑ナリ港ノ東西陸地ハ平原ニシテ海岸ハ巖石起伏ス港口狹窄ニシテ船舶ノ出入稍不便ヲ感スト雖モ地モト東ハ千島諸島ノ要衝ニ當リ北ハ網走地方ト相通シ且横濱及ヒ函館ヨリ定期船ノ來航スルアリテ夏秋ノ間船舶常ニ輻輳セリ

花咲港ハ南ニ面シテ根室港ト相腹背ス冬期海水氷結シテ
 船舶根室灣ニ入ルヲ得ザル時ハ此港ニ入り陸路貨物ヲ根
 室港ニ輸スヲ常トス
 此國ハ最著名ナル鮭產地ニシテ諸川皆其ノ湖上セサルモ
 ノナシ而シテ其殊ニ有名ナルハ植別、崎無異、くねべつ、こた
 ぬか、忠類、伊茶仁、標津、床潭、西別、風連、平戸家ノ諸川トス獨リ
 河川漁場ノミナラス沿海漁場モ亦全道第一ニ位シ根室灣
 ノ沿岸悉ク好漁場ナラザルナシ而シテ殊ニ盛ナルハ日梨
 標津ノ二郡及ヒ西別河口ノ左右ナリ鱒ノ夥シク湖上スル
 ハ標津西別ノ兩川ニシテ沿海ニモ亦好漁場アリ鱈、大鰾ノ
 類モ少ナカラサル産額アリ昆布ハ納沙布岬ヨリ以西ノ沿
 岸一面ニ之ヲ産ス

千 島 國

根室ノ海上ヨリ起リ斜ニ東北ニ走リ大小三十有餘嶋連點
 基峙シテ露領東察加半嶋ニ至ルモノ之ヲ千嶋トナス西人
 呼ビテくりる諸嶋ト稱ス其西岸ハをこつく海ニシテ東岸
 ハ大平洋ナリ最北ノ嶋ヲ占守島ト云ヒくりる海峡ヲ距テ
 、東察加半島ろばトど岬ト相對ス
 國後、色丹、擇捉ノ三國ハ素ヨリ我が國ニ屬シタリシモ得撫
 以北ノ諸島ハ時ニ露西亞人ノ雜居スル所タリ然ルニ明治
 八年樺太談判ノ事アリ樺太ヲ全ク露國ニ讓リ久里留海峡
 以南ヲ以テ帝國ノ版圖ニ入ル
 諸島ヲ分チテ九郡トナス國後、色丹、擇捉、振別、紗那、葉取、得撫、
 新知、占守是ナリ擇捉島最大ニシテ國後、得撫、はらも、りノ

三島之ニ次キ色丹、新知をんぬこたん、占守ノ諸島又之ニ次
 シ面積總テ一千三十三方里ト稱ス人口三千餘人ニ過ギズ
 得撫島以北ハ未ダ精密ナル實測ヲ經ズ其詳ナルコト得テ
 知ルベカラズ
 國後島ハ千島列島ノ最南ニ位シ南端根室ト對シ其最近キ
 所ハ四里ニ過ギズ其西南端ヲけらむい岬トシ東北端ヲあ
 どえや岬トシ擇捉島ト相對ス長凡三十里幅凡三里周回百
 六十里面積九十餘方里アリ人口凡一千人アレハ西岸ハ殆
 ド人家ナク僅ニ漁季ニ至リ所々ニ漁屋ヲ見ルノミ居民ハ
 皆漁業及鐵業ヲ事トシ農耕ノ業絶テ開クズト謂テ可ナリ
 ちやちや岳ハ島ノ東北端ニ屹立セル火山ニシテ美麗ナル
 重圓錐形ヲナシ一ノ富士形ノ上ニ復小富士形ヲ載セタル

觀アリ高サ五千五十八尺島中ノ最高點ヲ占ムる、い岳ハ
 其西ニ峙チ高サ四千九百餘尺亦火山ナリ
 らうす岳ハ高サ三千餘尺山側ニ三箇ノ硫磺坑アリ各硫黃
 ノ堆積アリ南側ナルヲらうす硫黃山ト稱シ東南側ナルヲ
 どくかりもい西側ヲしゆまのぼり硫黃山ト云フ所々ニ温
 泉湧出セリ
 たちうす岳ハ島ノ西南ニアリ最低キ火山ニシテ高サ一千
 三百餘尺ニ過ギズ山ノ北側ニ一菱内湖アリテ其傍ニ硫黃
 採掘場アリ之ニ隣リテばんどト名クル小湖アリ圓形ナ
 ル熱湯湖ナリ
 泊村ハ島中ノ要地ニシテ島ノ南端ニアリ船舶ノ碇泊スル
 所ナリ人家殆ド百戸アリ東湧村ハ其東北ニ當リ村ヲ距ル

十町ニシテ東湧沼アリ周回凡三里
 鑛産物ハ硫黄ノ外金屬鑛脈少ナカラズ秩荊^{チカ}別村ニハしゆ
 まのぼり銅鑛ちやしこつ亞鉛鑛るゝい鉛鑛アリ
 色丹島ハ國後島ノ東ニ當リ根室港ヲ距ルコト六十三海里
 稍長方形ヲナシ長サ八里幅凡五里周回二十二里此島ハ昔
 時ヨリ土人ノ居住スル所タリシガ嘗テ悉ク之ヲ根室地方
 ニ移シ一旦無人ノ地トナリシモ今ハ再ビ住民ヲ見ルニ至
 レリ一村アリしやこたんと云フ土人六十餘人アリ日本人
 ハ戸長村醫以下數名ニ過キズ其港ハ灣口狭ク灣内圓大ニ
 シテ船舶ノ碇泊ニ宜シク天然ノ良港ナリ島中ノ最高山ハ
 しやこたん灣頭ニ屹立セルしやこたん山ニシテ直立一千
 三百餘尺アリ

此島ノ土人ハ千島ノ占守島ヨリ移シタルモノニシテ容貌
 体格遙ニ本島ノ土人ニ劣リ本島土人ノ軀幹強大ニシテ性
 質朴訥ナルガ如キハ絶テ彼ノ土人ニ見ザル所ナリ殊ニ頑
 愚懶惰ニシテ甚シク勞力ヲ厭ヒ加フルニ一種ノ遺傳病ア
 リ現ニ六十名中勞力ニ堪フベキ壯丁僅ニ十名ニ滿タズト
 云フ明治十七年九十七名ヲ移植セシモ年々減少シテ今ノ
 數ニ至レリ
 擇捉島ハ國後島ノ東北ニアル一大島ニシテ其形細長ク東
 北ヨリ西南ニ亘リ長サ四十三里幅三里ヨリ五里ニ至リ周
 回大約二百八十里アリ面積凡二百方里人口二千餘人擇捉、
 振別、紗那、葉取ノ四郡ハ此島中ニ在リ
 島中山岳多シト雖モ所々ニ平地アリ只其地味不良ニシテ

農耕ニ適スル面積甚少ナキガ如シ海岸ハ絶壁多ク島ノ兩
 端殊ニ甚シトス東北端ニアルらつきべつノ高崖ニハ高サ
 二百尺ノ濕布アリ島ノ西岸ハ數箇ノ小岬突出シテ別飛紗
 那、振別、内保等ノ小灣アレヒ東岸ハ屈曲少ナク僅ニ單冠灣
 アルノミ

島中火山凡八アリもよろ、ちるぶ、しゃしょうし、へちらぬぶ、
 れぶんしり、しどかぶ、あとさ、べれたらべつ是ナリ

もよろ岳ハ東北隅ニアリ三個ノ峯ヨリ成リ其最高キモノ
 ハ三千五百尺ニ達ス最南ノ峯しゆぶやぬぶりに硫黄ヲ産
 ス山上湖水アリ

ちるぶ岳ハ西海岸半島中ニ在リテ紗那市街ノ西北ニ當リ
 二峯ヲナス高サ共ニ五千餘尺

しゃしょうし岳ハ紗那市街ノ東ニ聳エ山上硫氣ヲ吐キ山
 麓沸騰セル温泉ヲ出スト云フ

へちらぬぶ岳ハ留別ノ東南ニアル孤峯ニシテ極メテ峻峻
 ナリ其西南ニ聳テル火山ハ即チれぶんしり岳ナリ

しどかぶ岳ハ岬々トシテ島ノ南部ニ聳エちるぶ岳ト略其
 高サヲ同クシスあとさ山ハちるぶト同ク半島中ニ屹立シ
 しどかぶ岳ト相對峙セリ頂上ヲ缺ヤタル圓錐形ヲナシ遠
 望極メテ佳ナリ高サ凡四千餘尺

べれたらべつ岳ハ最南ニ位シ高サ三千五百尺アリ

川流ハ皆短小ナリ西岸ニ注グ所ノるべつ、しゃな、しべどろ
 諸川稍大ナリしべどろ川ハ最長ニシテ延長六里アリ

湖沼ノ數甚多シト雖モ皆小ニシテ舉グルニ足ラズ最大ナ

ルテひとこと沼トシ周回三里
 礦物ハ硫黄ノ外海濱ニ少量ノ沙鐵ト火山近傍ニ石膏アル
 ノミ
 水物産ニハ昆布鮭等ヲ始メトシ鯨、鱈、雜魚、海藻等アレト殊
 ニ盛ナルハ鱒漁トシ全道中第一ノ漁場タリ又海豹ヲ産ス
 ルコト最多ク陸ニハえとびりかト稱スル奇鳥アリ
 紗那驛ハちるぶ半島ノ西ニ當リ紗那川ノ口ニアリ戸數凡
 百二十紗那外三郡役所アリテ全島ヲ管轄セリ蓋シ千島國
 中擇捉島ヲ除クノ外ハ擧テ根室郡役所ノ所管ニ屬スルナ
 リ
 得撫島ハ擇捉島ノ東北ニ横ハリ千島列島ニ固有ナル細長
 形ヲ保チ兩端細ク尖リタル一島ナリ周回凡八十里幅廣キ

所ハ三里ニ達ス昔時ありうと人ノ住居セシ所ニシテ其後
 無人島トナリ漁夫ノ時々出稼セシ外復日本人ノ住居スル
 モノナカリシガ近時漁民ノ此地ニ越年スルモノアルニ至
 レリ此島ヨリ以北ハ全ク無人島ニシテ稀ニ漁船ノ訪アラ
 ルノミ
 島中山岳多ク其最高キモノハ恐クハ三千尺以上ニ達スベ
 シ又火山ノ常ニ硫磺ヲ噴クモノアリとこたん灣ハ島ノ西
 岸ニアリ僅ニ船ヲ繫グベシ
 海岸ニハ流木夥シク漂着シ其種類ハとどまつ、からまつ、柳
 ノ大木等ヲ主トシ全ク此地ニ産セザルモノナリ此漂木ハ
 東海岸ヨリモ西海岸ニ多ク遠ク樺太地方ヨリ來ルモノナ
 ランカ

新知島ハ得撫島ノ東北ニ當リ其間ヲぼつする水道ト云
 フちりほい島及ぶろとん島此處ニアリ新知ヨリ以北けい
 ど、うししり、すれ、ど、らしよわ、まど、わ、ど、わ、らいこうけ
 い、むしる、ちりんこたん、しゃしこたん、えかるま、かあれんこ
 たんノ諸島ヲ經テをんねこたん島アリ諸島多ク臘虎ヲ産
 シ又海馬膾膈獸黑狐等ヲ産スルモノ少ナカラズかあれん
 ことんノ北ニばらもしり島アリ大サ國後島ト相伯仲シ北
 方ノ最大島ナリ熊及赤狐アリ又鱒ノ湖上スル川流アリあ
 らいと島は其北ニアリ實ニ我が國ノ極北ナリ占守島ハば
 らもしり島ノ東北ニアリ其間極メテ近シ一水ヲ距テ、露
 領東察加半島ト相對シ帝國ノ版圖實ニ此處ニ盡ク全島平
 地ニシテ土地肥沃植物ノ生育極メテ良シト云フ此島ハ元

ト熊ノ棲息セザル所ナリシモ土人ヲ色丹島ニ移セシ以來
 隣島ばらもしりヨリ續々熊ノ渡リ來ルアリ又島あざらし
 多シ

全

明治二十六年八月四日印刷
全 年八月七日發行

版權登錄

版權
所有

發行者	加藤房藏	石狩國札幌區大通西丁目二番地
印刷者	白鳥敬作	後志國小樽郡堺町二十二番地
印刷所	島連太郎	東京京橋區西紺屋町廿六七番地
發行所	秀英舍	東京京橋區西紺屋町廿六七番地
發行所	白鳥書店	後志國小樽郡堺町二十二番地
發行所	大倉書店	東京日本橋區通壹丁目十九番地

